埼玉縣知事氏名殿

前書屆出之趣相違無之ニ付奥印仕候也

年　月　日

右町村戸長　氏　名　印

○甲第九號　明治十八年二月十七日

明治十七年十二月第三十一號公布火藥取締規則ニ關スル願屆之手續左之通相定候條此旨布達候事

火藥取締規則ニ關スル願屆手續

第一條　火藥類賣買營業ヲ爲サントスル者ハ第一號火藥類ヲ倉庫ニ貯藏セントスル者ハ第二號火藥庫又ハ火藥假貯藏所ヲ建設セントスル者ハ第三號書式ニ據リ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ願出ツヘシ

但願書ハ正副貳通差出スヘシ

第二條　銃砲又ハ坑業土工其他職業用ノ爲メ營業者ヨリ火藥類ヲ買受ケントスルモノハ第四號五貫目以上ノ火藥ヲ運搬セントスルモノハ第五號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ願出ヘシ

第三條　營業者ニ於テ買受ケタル火藥類ハ第六號賣渡シタルハ第七號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第四條　火藥庫及ヒ火藥假貯藏所建設ノ許可ヲ受ケタル者其建築落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第一號書式　用紙半紙以下同シ

火藥類營業願

私儀火藥類賣買營業仕度候間免許鑑札御附與被下度此段奉願候也

年　月　日　埼玉縣知事氏名殿　屬籍住所身分職業　氏　名　印

前書願ノ趣相違無之ニ付奥印致シ候也

年　月　日　何町村聯合戸長　氏　名　印

第二號書式

火藥貯藏願

一火藥　何程

一劇發火藥　何程

一雷管　何程

一導火雷管類　何程

右ハ何町(村)何番地ニ有之(私)(何某)所有ノ倉庫ニ貯藏仕度候間御許可被下度此段奉願候

也

年月日

埼玉縣知事氏名殿

屬籍住所身分職業

氏　名印

前書願之趣相違無之ニ付奥印致シ候也

何町村聯合戸長

年月日

氏　名印

第三號書式

火藥庫(火藥假貯藏所)建設願

私儀(營業)(坑業)(土工)(何々)用火藥類貯藏ノ爲メ別紙方法書ニ據リ何郡何町(村)何番地字何處ヘ(火藥庫)(假貯藏所)建設仕度同地近傍ノ圖面相添此段奉願候也

年月日

屬籍住所身分職業

氏　名印

埼玉縣知事氏名殿

(別紙方法書式ハ略ス)

前書願之趣相違無之ニ付奥印致シ候也

何町村聯合戸長

年月日

氏　名印

第四號書式

火藥類買受願

一火藥　何程

一劇發火藥　何程

一雷管　何程

一導火雷管類　何程

右ハ(私所有ノ何銃用)(何處ニ於テ何々用)ニ供スル爲メ何府(縣)何郡何町(村)何番地火藥類營業人何某ヨリ買受ケ度候間御許可被下度候也

年月日

屬籍住所身分職業

氏　名印

何警察署長

警部氏名殿

第五號書式

火藥類運搬願

一火藥　何程

一劇發火藥　何程

一雷管　何程

一導火雷管類　何程

右ハ烟火製造(坑業)(土工)(何々)用トシテ何府縣何郡何町(村)(何某ニ賣渡シ)(何某ヨリ買受ケ)候ニ付何月何日何時何處ヲ發シ何處通リ何處ニ運搬仕度候間御許可被下度此段奉願候也

年月日

何警察署長
警部氏名殿

屬籍住所身分職業
氏　名　印

第六號書式

明治何年何月中火藥類買入調書

種類	數量	買入日	拂下省(賣渡人住所氏名)
火藥	何程	何日	何省
劇發火藥	同	同	何府縣何郡何町村番地　何某
雷管	同	同	同
導火雷管	同	同	同
何々	同	同	同

合計	
火藥	何程
劇發火藥	同
雷管	同
導火雷管	同
何々	同

右御屆申上候也

年月日

何警察署長
警部氏名殿

屬籍住所身分職業
氏　名　印

第七號書式

明治何年何月中火藥類賣渡調書

所用	種類	數量	賣渡日	買受人住所氏名
獵銃用	火藥	何程	何日	何府縣何郡何町村番地　何某
軍銃用	雷管	同	同	同
烟火用	火藥	同	同	同
坑業用	劇發火藥	同	同	同
何々用	何々	同	同	同

合計	
火藥	何程
雷管	同
劇發火藥	同
何々	同

右御屆申上候也

年月日

何警察署長
警部氏名殿

屬籍住所身分職業
氏　名　印

○甲第十號　明治十八年三月四日

摺附木製造ニ黃燐ヲ使用候儀ハ自今禁止ス違フ者ハ刑法第四百二十六條第四項ノ刑ニ處セラルヘシ此旨布達候事

○縣令甲第廿三號　明治二十二年四月十一日

氷雪營業取締規則左之通定メ來ル十月一日ヨリ施行ス

氷雪營業取締規則

第一條　凍氷製造ヲ營業セントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出テ水質ノ檢査ヲ受ケ許可ヲ請フヘシ

但檢査ヲ受クヘキ原水ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ巡査ノ立會ヲ請ヒ現場ニ於テ容器ニ封印ヲ受ケ縣廳ヘ差出スヘシ

一　製氷池及氷室ノ位置幷ニ近接セル人家道路下水墓地火葬場斃馬捨場等ノ距離

二　製氷池及導水樋管ノ仕樣書幷ニ圖面

第二條　製氷場借地ナレハ地主連署町村共有地ナレハ其町村ノ許諾書ヲ添フヘシ

第三條　製氷池及導水樋管ハ左ノ制限ニ隨ヒ構造シ落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ檢査ヲ受クヘシ

一　製氷池ノ周圍ハ石、煉瓦若クハ板（一寸以上）ヲ用ヒ地盤ヨリ高クシ汚水泥土ノ混入セサル樣構造スヘシ

二　製氷池底ハ石、煉瓦、板（一寸以上）ヲ以テ構造スルカ若クハ三寸以上砂礫ヲ敷クヘシ

三　導水樋管ハ石、煉瓦、鐵管、陶管若クハ木竹ヲ用ヒテ汚水塵芥ノ混入セサル樣構造スヘシ

第四條　許可ヲ受ケタル者引續キ營業セントスルトキハ毎年十一月三十一日限リ原水ハ第一條但書ノ手續ヲ以テ縣廳ニ差出シ第三條ニ規定シタル各項ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ檢査ヲ受クヘシ

第五條　製氷營業者ハ發賣前其製氷高ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ屆出テ實地檢査ヲ受クヘシ

第六條　檢査濟ノ凍氷ヲ請賣若クハ行商セントスル者ハ其製造者及自己ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ許可ヲ受クヘシ但他管下ノ製氷ヲ輸入貯藏スルトキハ更ニ第五條ノ手續ヲナスヘシ

第七條　凍氷製造者轉居改氏名若クハ廢業シタルトキハ七日以內ニ所轄警察署又ハ分署ヲ

經テ縣廳ニ請賣者行商者ハ三日以内ニ該署ニ屆出ツヘシ

第八條　當該官吏ハ臨時製氷場及氷室ヲ巡視シ又ハ販賣所行商者ニ就キ凍氷ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條　本則第三條第四條第五條第八條ノ場合ニ於テ製氷場及氷室ノ不適當ナルトキハ改良ヲ命シ氷室不良ト認ムルトキハ販賣ヲ禁シ投棄セシムルコトアルヘシ

第十條　飲用ノ目的ヲ以テ貯雪ヲ販賣セントスル者ハ其貯藏法ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但本則第五條第六條第七條第八條第九條ヲ適用スヘシ

第十一條　本則第一條第三條第四條第五條第六條但書第十條ヲ犯シタル者ハ二月以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條　本則第六條第七條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令甲第廿四號　明治二十二年四月十一日

牛乳營業取締規則左之通定ム

牛乳營業取締規則

第一條　牛乳搾取ヲ營業セントスル者ハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出テ乳牛ノ体格及乳汁ノ檢査ヲ受ケ許可ヲ請フヘシ

一　牛舍ノ位置乳牛運動場ノ坪數及近接人家ノ距離

二　牛舍及搾場ノ仕樣書幷ニ圖面（方位及間數ヲ記入スヘシ）

三　乳牛ノ頭數及其産地年齢

第二條　牛舍及搾乳場其他ハ左ノ制限ニ隨ヒ構造シ落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出テ檢査ヲ受クヘシ但搾乳場ハ別ニ設クヘシト雖牛舍ヲ清潔ニシ搾取スルモ妨ケナシ

一　牛舍ハ一頭ニ付一坪半以上トシ適當ノ窓戸ヲ設ケ天井ノ高サハ地盤ヨリ八尺以上タルヘシ

一　牛舍ノ地盤及糞尿ヲ流スヘキ溝ハ板（一寸以上）若クハ敲キ煉瓦等ヲ用ヒ適當ノ勾配ヲ付シ其流通ヲ能クスヘシ

一　搾乳場ハ前二項ニ準シ構造スヘシト雖一頭毎ニ要スル限ニアラス

一　糞尿溜ハ牛舍ヲ距ル九尺以上トシ運動場ニハ堅牢ナル柵欄ヲ設クヘシ

第三條　許可ヲ受ケタル後第一條第一項第二項ヲ變更シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受ケ第三項ヲ變更シタルトキハ同署ヲ經テ縣廳ニ屆出テ乳牛ノ体格及乳汁ノ檢査ヲ受クヘシ

第四條　乳牛ハ分娩疾病又ハ狂犬等ノ爲メ咬傷ヲ受ケタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ツヘシ

但疾病咬傷ハ獸醫ノ診斷書ヲ添フヘシ其全治ノトキモ亦之ニ準スヘシ

第五條　左ノ各項ニ觸ルヽ乳汁ハ其販賣ヲ禁ス

一　結核其他傳染性ノ疾病若クハ狂犬ノ咬傷ヲ受ケタル乳牛ヨリ搾取シタルモノ

二　乳汁ノ變色シタルモノ

三　異物ノ混シタルモノ

四　分娩后一週間ヲ經サル乳牛ヨリ搾取シタルモノ

第六條　獸類傳染病流行スルトキハ其病勢ニヨリ乳汁販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

第七條　搾取場牛舍及其附屬具等ハ常ニ掃除シ清潔ニスヘシ

第八條　乳汁ヲ運搬シ及之ヲ貯藏スル器具ハ銅鉛製ヲ用ユルヲ禁ス

第九條　牛乳ヲ請賣セントスル者ハ搾取營業者及自己ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ツヘシ

第十條　搾取營業者轉居改氏名若クハ廢業シタルトキハ七日以內ニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ請賣者行商者ハ三日以內該署ニ屆出ツヘシ

第十一條　當該官吏ハ臨時乳牛ノ体格ヲ檢査スルハ勿論搾取營業者又ハ請賣者配達者ニ就キ乳汁ヲ檢査シ不良ト認ムルトキハ販賣ヲ禁シ牛舍及搾取場不潔ナルトキハ掃除改良ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條　本則第一條第二條第三條第五條第八條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條　本則第四條第九條第十條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令甲第廿五號　明治二十二年四月十一日

本年四月縣令甲第廿四號ヲ以テ牛乳營業取締規則布達候ニ付テハ從前營業者ハ來ル七月一日マテニ本則第一條第二條ニ依リ改良ヲ加ヘ其旨屆出ツヘシ

○縣令甲第四十號　明治二十一年六月二日

各種色料販賣取締規則左之通相定メ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

各種色料販賣取締規則

第一條　本則ニ於テ各種色料ト稱スルモノハ着色料（飲食物及玩弄品類）顏料（諸繪具類）染料（布帛染類）等ヲ云フ

第二條　各種色料若クハ一二ノ色料ヲ製造販賣セント欲スルモノハ其產所品質製法及ヒ使用ノ目的ヲ詳記シ現品相添ヘ縣廳ヘ願出ツヘシ但請賣セント欲スルモノハ製造者ノ管內外ニアルヲ問ハス總テ本條ニ準スヘシ

第三條　製造販賣及ヒ請賣ヲ許可セシトキハ營業鑑札ヲ付與ス

第四條　營業人廢業死亡若クハ他管下ヘ轉籍寄留スルトキハ鑑札ヲ縣廳ヘ返納スヘシ

但管內ニ於テ轉籍寄留スルトキハ其旨縣廳ヘ屆出ツヘシ

第五條　營業鑑札ハ貸與スルコトヲ得ス

第六條　飲食物其他各種ノ色料ヲ使用スル營業者若クハ職工ニ於テ自製ノ色料ヲ其販賣品ニ用ユルトキハ第二條ニ依リ縣廳ヘ願出ツヘシ

第七條　本則第二條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

○縣令甲第四十一號　明治二十一年六月二日

食用屠獸取締規則左ノ通定メ明治廿一年八月一日ヨリ施行ス

食用屠獸取締規則

第一條　食用ニ供スル牛馬羊豚ヲ屠リ營業セントスル者ハ願書二通ニ屠殺ノ方法書及屠場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ差出免許ヲ受クヘシ

但人家及道路（縣道以上及ヒ之ニ準スル道路）河流ヲ距ル六十間以上ニアラサレハ之ヲ許サス

第二條　屠場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　周圍ニハ堅牢ナル柵欄ヲ設クルヿ

二　屠場ノ地盤ハ石煉瓦敲キ又ハ板敷ニスルヿ

三　堅牢ナル獸類繫留場ヲ設クルヿ

四　汚水又ハ血液ノ滲透セサル溜池ヲ設クルヿ

第三條　屠場落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出檢査ヲ受クヘシ其改造修理ノトキ亦同シ

第四條　屠殺場ノ構造第二條ノ制限ニ適セス又ハ破損シタルトキハ改造修理ヲ命スルヿアルヘシ

第五條　屠殺場ハ常ニ清潔ニ掃除ヲナシ且ツ毛皮、骨腸其他汚水血液等ヲ溜置クヘカラス

第六條　轉居改氏名又ハ廢業シタルトキハ七日以內ニ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第七條　屠獸ハ其產地種類年齡毛色賣主ノ住所氏名屠殺ノ時間ヲ記シ前日所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ但シ屠殺時間ハ午前八時ヨリ午後四時限リトス

第八條　屠獸ハ警察官吏及警察官吏ノ指定シタル獸醫立合檢查ノ上ニアラサレハ屠ルコトヲ得ス猶屠殺後筋肉內臟ニ病患アルヲ發見シタルトキハ販賣ヲ許サス

但其診察料ハ畜主ノ負擔タルヘシ

第九條　屠肉ヲ卸賣シタルトキハ其斤量及買主ノ住所氏名ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ但其帳簿ハ警察官吏檢查スルヿアルヘシ

第十條　屠肉ヲ運搬スルニハ麻布類ヲ覆フヘシ

第十一條　本則第一條第二條第三條第七條第八條ヲ犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條　本則第五條第六條第九條第十條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條　本則第四條ニ於テ警察官吏ノ命令ニ從ハサルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令甲第四十八號　明治十九年十二月廿二日

畜場屠場製革場ヲ新設スルハ國道縣道鐵道川筋ニ沿ハス人家ヲ隔ル凡六十間以上肥料製造場魚腸樽積置場ハ凡百二十間以上ニシテ衛生上ノ障害ヲ防クニ足ルヘキ家屋其他ノ裝置アルヲ要ス違フ者ハ刑法第四百廿六條第四項ニ依リ刑ヲ科スヘシ但乘耕運輸ニ用フル牛馬ヲ飼養スル場所ハ此限ニアラス

○甲第七號　明治十六年三月十五日

病源排除規則左之通相定候條此旨布達候事

病源排除規則

第一條　本則ハ疾病ノ原因ヲ釀スヘキ有害物ヲ排除シ健康ヲ保タシムルヲ以テ目的トス

第二條　市町道路幷人家密接ノ地ニ塵芥又ハ汚穢物等ヲ積ミ置キ若クハ撒布スヘカラス

第三條　下水ハ汚水流通ノ便ヲ謀リテ之ヲ開クヘシ廢棄物ヲシテ塡塞セシムヘカラス

第四條　人家ニ近キ用惡水路ハ尤之ヲ清潔ニスヘシ廢棄物ヲシテ壅塞セシムヘカラス

第五條　不潔又ハ卑濕ノ地ニシテ病毒ノ原因ヲ釀スヘキ所ハ漸次改良ノ方法ヲ謀ルヘシ

第六條　路上ノ撒布水ハ下水ノ汚水若クハ不潔物ヲ洗濯シタル水ヲ用ユヘカラス

第七條　新ニ井ヲ掘ルトキハ厠下水ヨリ隔タリタル地ヲ撰ヒテ之ヲ設ケ井戸側ヲ用ヒテ有害物ノ滲透ヲ防クヘシ

第八條　從前掘リタル井戸ニシテ井戸側ナキカ若クハ朽チタルモノハ漸次改良ヲ謀ルヘシ但厠下水ニ近キモノハ成ルヘク之ヲ隔ツヘシ

第九條　飲料水ニ用フル川水若クハ涌泉等ニハ汚物ヲ投棄スヘカラス

第十條　前條ノ飲料水ハ務メテ汚水ノ流注ヲ防クヘシ若シ風雨等ニテ渾濁スルトキハ用フヘカラス但止ヲ得サルトキハ濾過シテ用フヘシ

第十一條　居宅ノ内外ハ尤清潔ヲ要スルヲ以テ常ニ其洒掃ヲ怠ルヘカラス

第十二條　厨下若クハ井邊ノ下水ハ石或ハ板ヲ以テ構造スヘシ汚水ヲシテ停滯セシムヘカラス

第十三條　厠ハ丈夫ニ造リ周圍ニ滲透シ若クハ臭氣ノ發散ヲ防クヘシ

第十四條　肥溜芥溜ハ居宅ヨリ隔タリタル地ニ設ケ日光ノ映射若クハ臭氣ノ發散ヲ防クヘシ

第十五條　馬車宿湯屋旅籠屋貸座敷劇場寄席諸興行場及厩舍牛闌等ハ特ニ之ヲ清潔ニスヘシ

第十六條　本則ニ記載スル所ノ事故ハ巡査及町村衛生委員ヲシテ時々監督セシムヘシ

第十七條　本則第二條第六條第九條第十五條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ刑ヲ科スヘシ

○甲第十八號　明治十八年四月廿一日

墓地及埋葬取締細則左之通相定候條此旨布達候事

墓地及埋葬取締細則

第一條　墓地火葬場ヲ取廣メ又ハ新設セントスル者ハ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出又改葬ヲ爲シ又ハ碑表（誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻スル者ヲ云フ單ニ死者ノ姓名族籍官位勲爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止ル墓標ハ含入セス）ヲ建設セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條　前條願書ニハ各其事由及ヒ地名字番號坪數等ヲ記載シ其地ノ繪圖面ヲ添ヘ戸長ノ奥印ヲ受ケ建碑願書ニハ碑文ノ稿本ヲモ添付スヘシ

第三條　墓地ハ已ムヿヲ得サル事情アルニ非サレハ之ヲ取廣メ又ハ新設スルヿヲ得ス又國道縣道鐵道河川及ヒ人家ヲ隔ルヿ凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障害ナキ地ニ非サレハ之ヲ新設スルヿヲ得ス

第四條　墓地ノ周圍ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ從前現存ノ者ヲ除クノ外一丈以上ノ竹木塀墻ヲ存ス可カラス

第五條　墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ル可カラス

第六條　墓標碑表ハ擅ニ之ヲ轉移シ又ハ除却ス可カラス

第七條　墓地火葬場ハ種族宗旨ヲ別タス其地ニ本籍ヲ有シ若クハ其地ニ於テ死シタル者及管理者ノ許諾ヲ得タル者ハ何人ニテモ之ニ葬ルヿヲ得其從前別段ノ習慣アル者ハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第八條　壙穴ハ深サ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ此限リニアラス

第九條　火葬場ハ成ルヘク人家及ヒ人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風（其地方ニ於テ平常最モ多キ風ヲ云フ）上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且ツ周圍ニ塀墻ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔ル五町以上ノ場所ナル時ハ此限ニアラス

第十條　火葬ハ日沒後之ヲ行フヘシ但傳染病者ノ死屍ハ日沒前又ハ死後二十四時間内ト雖モ埋火葬スルコトヲ得

第十一條　墓地火葬場ニハ管理者ヲ置キ其住所姓名ハ戸長役場ニ屆置ヘシ尤モ火葬場ハ戸長若クハ衛生委員ニ於テ管理スルヿヲ得ヘシ

第十二條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスル者ハ明治十八年月本縣甲第五號布達衛生規則

ニ據リ戸長ノ認許證ヲ得改葬セント欲スル者ハ本則第一條ニ據リ警察署又ハ分署ノ許可證ヲ得之ヲ管理者ニ渡フヘシ

第十三條　管理者ハ葬主ヨリ前條ノ證書ヲ受取リタル時ハ編纂シテ三ケ月毎ニ所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケ之ヲ戸長役場ニ差出スヘシ

第十四條　管理者ハ戸長ノ認許證ナクシテ埋葬又ハ火葬ヲナシ若クハ警察署又ハ分署ノ許可證ナクシテ改葬ヲナサント欲スル者アル時ハ直ニ警察官ニ密告スヘシ

第十五條　管理者ハ墓地ノ繪圖面及ヒ墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十六條　墓地及埋葬取締規則幷ニ此細則ニ違背シタル者ハ本縣違警罪ノ刑ヲ科ス可シ

○縣令甲第二十二號　明治二十一年四月四日

山野火入取締規則左ノ通定ム

山野火入取締規則

第一條　山野ニ火入ヲナサントスル者ハ左ノ各項ヲ記シタル書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

一　火入期日

一　箇所限地目段別及字番號

一　四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖

第二條　前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲナサントスル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者（官林ナルトキハ官林巡邏巡邏ノ設ケナキ地ハ戸長普通官有地ナルトキハ戸長又ハ管理者）及警察署又ハ分署ヘ五日以前ニ其旨報告スヘシ

第三條　防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉並塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設ヲナスヘシ但道路谿谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキトキハ此限ニアラス

第四條　日出前日沒後及風勢穩ナラサルトキハ火入ニ着手スヘカラス

第五條　火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條　火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ郡長警察官吏戸長官林巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延燒ノ虞アリト思量スルトキハ直ニ之レヲ中止セシムルコトアルヘシ

第七條　本則第一條第三條第四條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第八條　本則第二條第五條ヲ犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第九條　本則第六條ニ於テ郡長警察官吏戸長官林巡邏ノ命令ニ從ハサルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○甲第四十九號　明治十八年七月十一日

獸畜死屍處分規則左ノ通相定候條此旨布達候事

獸畜死屍處分規則

第一條　獸畜ノ死屍ハ斃馬捨場ニ於テ燒捨若クハ埋沒スヘシ

第二條　斃馬捨場ナキトキハ一町村若クハ數町村聯合シテ之ヲ設置スヘシ

第三條　斃馬捨場ヲ設置スルトキハ其地名字番號畝歩及ヒ道路鐵道川筋人家等ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

第四條　斃馬捨場ハ道路(往來繁キトコロ)鐵道川筋及ヒ人家ヲ隔ツル概ヲ六拾間以上ノ地ヲ撰ムヘシ

第五條　斃馬捨場ハ少タモ一ケ年六回掃除スヘシ

第六條　獸畜ヲ埋沒スルハ牛馬羊豚ノ如キ形体大ナルモノハ六尺以上鷄犬猫兎ノ如キ小ナルモノハ三尺以上ノ地下タルヘシ

第七條　傳染病ニ罹リタル死屍及ヒ前條定尺ニ到リ難キ土地ニ於テハ之ヲ燒棄スヘシ

第八條　傳染病ニ罹リタル死屍ト雖モ土地ノ便宜ニ依リテハ之ヲ埋沒スルヿヲ得此場合ニ於テハ第六條ノ定尺ノ二倍以上タルヘシ

第九條　獸畜ノ死屍ハ其飼主ニ於テ處分スルモノトス若シ其飼主ナキカ又ハ傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ戶長若クハ衛生委員ニ屆出ヘシ

第十條　獸畜ノ死屍ヲ肥料トナシ若クハ獸皮ヲ製造スルトキハ衛生上ノ有害ヲ豫防スヘシ

第十一條　此規則ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿六條第四項ニ據リ刑ヲ科スヘシ

○甲第八十二號　明治十八年一月三十日

傳染病屆出規則別紙之通相定候條此旨布達候事

傳染病屆出規則

第一條　明治十三年七月第三拾四號布告傳染病豫防規則第一條ニ記載セル六病及麻疹病ヲ診斷スル醫師ハ第一號(甲)書式ニ依リ傳染病者發期屆書ヲ作リ廿四時間内ニ患者所在ノ町村戶長ニ差出スヘシ

第二條　戶長ハ醫師ヨリ傳染病者屆書ヲ受取リタルトキハ調査ノ上姓名ヲ記入シ之レニ捺印シ特使ヲ以テ直ニ郡役所ニ進達シ同時ニ最寄警察署又ハ分署ニ通知スヘシ但該傳染病者屆書ハ土地ノ便宜ニヨリ醫師ヨリ直ニ警察署又ハ分署ニ差出シ警察署又ハ分署ヨリ戶長ニ回送スルモ妨ケナシ

第四條　傳染病者治癒又ハ死亡スルカ若クハ止ヲ得サル事故アリテ治療中他ニ轉居又ハ轉醫シタルトキハ主治醫ニ於テ第一號(乙)書式ニ依リ傳染病者終期屆書ヲ作リ遲滯ナク患者所在ノ町村戶長ニ差出スヘシ

第五條　郡役所ハ戶長ヨリ傳染病者屆書ヲ受取リタルトキハ直ニ縣廳ニ進達スヘシ

十九年甲第十號五號ヲ以テ第三條除删

第一號(甲)書式

傳染病者發期届

記入ノ解

○本書ハ患者一人ニ一葉ヲ要スル即チ發期ノ際ニ之ヲ用フ

○本書記入ノ際不用ニ屬スル文字ハ塗抹スヘシ

○旅行及止宿人ハ住所欄内ニ原籍ヲモ記入スヘシ

○戸主家族ノ別ヲ氏名欄内ニ記入スヘシ

○職業ハ各本人ノ現業ヲ明記スヘシ例ヘハ農業主(農ニ自ラ勞役セサル者)ト農作人(自ラ耕作スル者)トヲ區別シ又婦女老幼等ニテ職業ナキ者ハ戸主何職業ト記スヘシ

○痘瘡患者ハ未種痘或ハ初種ヲ施シ三種ノ感否又ハ痘瘡濟假痘濟等ヲ病名欄内ニ記入スヘシ

住所	職業	氏名	年齢	病名	發期	診察	醫師	受領
郡 宿町村 番地			年 ヶ月		月 日 午前後 時	月 日 午前後 時	明治 年 郡 月 日 宿町村 番地	明治 年 郡 月 日 宿町村聯合戸長

第一號(乙)書式

傳染病者終期届

記入ノ解

○本書ハ患者一人ニ一葉ヲ用フ即チ終期ノ時ニ用フルモノトス

○其他記入ノ法ハ發期届ノ例ニ依ルヘシ

住所	氏名	年齢	病名	發期	終期	醫師	受領
郡 宿町村 番地		年 ヶ月		月 日 午前後 時	月 日 午前後 時 治癒轉居死亡轉醫	明治 年 郡 月 日 宿町村 番地	明治 年 郡 月 日 宿町村聯合戸長

○甲第八十三號　明治十八年十一月三十日

醫師麻疹病ヲ診斷シ本年十一月本縣甲第八十二號布達傳染病届出規則第一條第四條ニ違フ者

ハ刑法第四百二十六條第四項ニ依リ刑ヲ科スヘシ此旨布達候事

○縣令甲第五十二號　明治廿一年十月六日

取締ニ關スル諸營業願書ハ自今副本ヲ差出スニ及ハス

○第四欵　警察官吏心得

○達第二十號　明治廿年七月廿二日

警察官吏非常召集規則左之通定ム

警察官吏非常召集規則

第一條　召集ヲ分テ左ノ二種トス

一　大召集　警察本部又ハ指定ノ地ニ召集スルモノ

二　小召集　警察署分署又ハ指定ノ地ニ召集スルモノ

第二條　召集票ノ雛形左ノ如シ

竪四寸
横二寸

大召集（何地）埼玉縣警察本部印

警察本部
警察分署

同

同

小召集（何地）埼玉縣何警察（分）署印

第三條　大召集ハ警部長小召集ハ警察署長分署長之ヲ行フモノトス

第四條　召集票ハ二種共常ニ警察本部又ハ警察署分署ニ備置キ召集ヲ要スル場合ニ於テ便宜瞬速ノ方法ニ依リ之ヲ配附スルモノトス

第五條　召集ハ內勤科員及派出所當日勤務ノ者ヲ除クモノトス但時機ニ依リ總員ヲ召集スルヿアルヘシ

第六條　召集票ノ配付ヲ受ケタルモノハ直ニ正裝ヲ爲シ發布ノ官衙若クハ指定ノ地ニ該票携帶參集スヘシ

第七條　小召集ヲ行フ場合左ノ如シ

一　囚徒反獄逃走若クハ其摸樣アル時

二　重大若クハ多衆ノ罪犯ヲ捕獲シ及ヒ之カ手配ヲ要スル時

三　人民嘯集若クハ其摸樣アル時

四　洪水ノ爲メ堤防決潰ノ恐アル時

五　時期切迫部下各自ニ命令ヲ要スル時

六　以上各項ノ外之ニ類スル事件アル時

○達第四號　明治二十一年三月廿七日

非常警備規則左ノ通定ム

警察署
警察分署

非常警備規則

第一條　非常警備ハ警察上特ニ警戒ヲ要スル事故アルニ當リ臨時要路ニ巡査ヲ配置スルモノトス

第二條　署長非常警備ヲ必要ト認ムルトキハ非常召集其他便宜神速ノ方法ニ依リ所轄ノ全部又ハ一部ニ之ヲ行フヘシ

第三條　他署ニ牽連シテ警備ヲ必要ト認ムルトキハ所轄署長ニ急報シ其急報ヲ受ケタル署長ハ必ス之ニ應シ神速其手續ヲ爲スヘシ

第四條　配置巡査ニ注意スヘキ要件ヲ指示スルハ口頭若クハ書面等便宜機敏ノ方法ニ依ルヘシ

第五條　配置人員ハ一所一名若クハ二名時間ハ二十四時間以内ヲ程度トシ臨時署長ニ於テ指定スヘシ但成ルヘク其場所ニ該當スル受持巡査ヲ充用スヘシ

第六條　巡査ノ服裝ハ正裝タルヘシ但略裝ノ必要アルニ當リテハ署長之ヲ指示スヘシ

第七條　署長ハ豫メ巡査配置ノ場所ヲ選定シ圖面ヲ以テ警部長ニ屆出ツヘシ

第八條　非常警備ヲ行ヒタルトキハ解散後直ニ其顚末ヲ警部長ヘ申報スヘシ

第九條　警部長ハ特ニ命令ヲ發シテ非常警備ヲ行ハシムルヿアルヘシ但別ニ指定セサル事項ハ總テ本則ニ依ルヘシ

○訓令第百三十二號　明治二十年九月廿日

警察官吏出火場心得左之通定ム

警察署
警察分署

警察官吏出火場心得

第一條　警察署長分署長外勤科長ハ其所轄内ニ巡査ハ其受持區若クハ接壤區内ニ出火アルヲ認ノ或ハ聞知シタルトキハ迅速其場ニ出張シ以下各條ノ規程ニ從ヒ其職務ヲ執行スヘシ

第二條　巡査ハ管外ト雖モ其受持區ヲ距ル二十丁以内ト認ムルトキハ速ニ其場ニ出張シ一時消防及警備ニ從事スヘシ此場合ニ於テ所轄警察官吏出場シタルトキハ其顚末ヲ申告シ直ニ任所ニ歸リ其旨所屬署長ニ具狀スヘシ

第三條　警察署長分署長ノ職務左ノ如シ

一　出火ノ原因ヲ搜索シ若クハ其被告人ヲ訊問スルヿ

一　警備及消防事務ヲ統理スルヿ

第四條　外勤科長ハ署長ノ指揮監督ヲ承ケ巡査ニ指揮命令ス但署長アラサルトキハ其事務ヲ代理スヘシ

第五條　巡査ハ外勤科長ノ指揮命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ執行スヘシ

但署長科長アラサルトキハ先着ノ者假リニ其事務ヲ行フヘシ

一 盜難ヲ警戒スルヿ

一 老幼疾病者及危險中ノ人ヲ救援スルヿ

一 負傷者ヲ救助スルヿ

一 傍觀者及ヒ車馬ノ進入等都テ道路ノ雜沓壅塞ヲ爲ス者ヲ制シ近傍住民ノ出入家財ノ運搬又ハ消防手並ニ其器械ノ運動ヲ自由ナラシムルヿ

一 看守人ヲ附セサル家財ノ散逸ヲ警戒保護スルヿ

一 消防手ニ水利ヲ指示スルヿ

一 近傍人家ヲシテ用水ヲ出サシメ又ハ可成梯子等ヲ準備セシムルヿ

第六條 警察官吏ハ專ラ前數條ノ職務ニ從事スヘシト雖消防組ノ出場前ハ一時消防ニ從事スヘシ

第七條 警察署長分署長ハ大火ニシテ應援ヲ必要ト認タルトキハ便宜ノ方法ニ據リ迅速接壤(管外ノ除ク)警察署長分署長ニ通報シ應援ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ警部長ニ具申スヘシ

第八條 警察署長分署長ハ毎年十月各消防組ヲ其組合中便宜ノ町村ニ召集シ消防夫ノ名簿及消防器械幷其進退製作ヲ檢閲スヘシ但檢閲ヲ行ハントスルトキハ其日時及場所ヲ豫定シ各消防組頭取ニ通達スヘシ

○達第二十八號　明治廿一年八月四日　警察分署

監視執行手續左ノ通定ム

監視執行手續

第一條 被監視人ニ監視票ヲ下附スルトキハ其遵守スヘキ條件ヲ懇篤説示シ直ニ監視名簿ニ登記シ監視票ハ滿期ニ至リ納還セシムヘシ

名簿ノ外監視ニ關スル一切ノ書類ハ之ヲ編綴シテ監視書類編冊トシテ編首ニ適宜ノ餘紙ヲ存シ順次番號氏名等ヲ摘錄シ査閲ニ便ナラシムヘシ

第二條 被監視人旅行願出タルトキハ其行先地滯留ノ日數及目的等ヲ聞キ不都合ナキモノハ直ニ旅券ヲ下附シ旅行中遵守スヘキ條件ヲ懇篤説示シ旅券ハ歸着後直ニ納還セシムヘシ

往復日數ヲ計算スルニハ陸路ハ八里海路ハ四里ヲ以テ一日程トス其之ニ滿タサルモノ亦同シ

第三條 被監視人轉任願出タルトキハ事實聞糺シ不都合ナキモノハ直ニ許可ヲ與ヘ即時刑法附則第二十九條ノ手續ヲ爲スヘシ但假リニ監視ヲ免セラレタルモノ亦同シ

第四條 被監視人謹愼ヲ表スル爲メ出頭シタルトキハ署長之ニ面接シ規則ヲ遵守スルヤ否ヲ鑑査シ尚ホ訓誨ヲ加ヘ監視票ニ其日ヲ記入認印シ監視名簿ニ登記スヘシ但疾病其他ノ

事故アリテ出頭シ能ハサル旨届出タルトキハ其旨名簿ヘ登記スヘシ

第五條　被監視人ノ行狀ハ特ニ注目シ受持巡査ヲシテ常ニ視察セシメ其謹慎悛悔ノ情アルモノハ事實ヲ詳悉シ警部長ニ具申スヘシ

第六條　監視人員表及監視人出入表ハ本縣警察報告例規ニ據ルヘシ

第七條　監視票旅券及監視名簿用紙ハ警察本部主計課ヨリ受取ルヘシ

第八條　監視名簿樣式左ノ如シ但特別監視ニ係ルトキハ其時々本項ニ准シテ調製シ簿冊ノ末ニ綴込ムヘシ

番號	罪名	刑期	監視人			監視人		執行地	出頭年月日													
			期限			起算	滿期		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
									前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
				屬籍身分職業																		
				氏名																		
				年齢																		

人相書								初年 何明治年	二年 何明治年	三年 明治年	四年 明治年	五年 明治年
丈ケ	顔	色	頭	眼	眉	口	鼻					
耳	齒	音聲	痘痕	疵所	鬚髯	特徴	父母 妻子					

備考

○縣令丙第八號　明治二十年四月一日　警察署警察分署

巡査心得小目左之通改ム

巡査心得小目

第一條　巡査ハ其職務及行狀心得ニ關シ規程アル總テノ規則ヲ遵守スルノ外尙本則ヲ服膺スヘシ

第二條　勤務中ハ讀書習字ヲ爲シ又ハ碁將棊等ノ遊戯ヲ爲ス可カラス

第三條　同僚集合シテ宴席ヲ開キ又ハ料理店ニ於テ飲酒シ藝妓ヲ招キ若クハ靑樓ニ登ルヿヲ禁ス

但シ親戚朋友ノ祝宴等ハ所屬長ノ許可ヲ受ク可シ

第四條　所屬長ノ許可ナクシテ人民ノ贈遺ヲ受ケ又ハ饗應ヲ受ルヿヲ禁ス

第五條　他人ノ金錢貸借ノ受人證人ト爲ルヲ禁ス

第六條　非番ノ節三里以上ノ所轄外ニ出ントスルトキハ所屬長ノ許可ヲ受ク可シ

第七條　新ニ赴任若クハ轉署シタルトキハ寄留屆ヲ爲スヘシ轉居ノトキ亦同シ

第八條　宿所ニハ竪五寸巾一寸五分ノ木札ニ官氏名ヲ記シ門頭ニ掲ク可シ

第九條　巡査結婚セントスルトキハ傳メ所屬長ノ許可ヲ受ク可シ

第十條　疾病コヨリ欠勤セントスルトキハ屆書ニ醫證ヲ添付ス可シ但醫證ヲ求ムル能ハサル場合ニ於テハ後其事實ヲ證明ス可シ

第十一條　疾病ニ罹リ欠勤スルトキハ一週間毎ニ醫證ヲ添ヘ屆出ツ可シ

第十二條　疾病ニ罹リ轉地療養セントスル者ハ二週間以內ノ日數ヲ豫定シ醫證ヲ添ヘ願出ツ可シ其追願セントスルトキ亦同シ

第十三條　父母疾病ニ罹リ看護ヲ願出ツル者ハ最寄警察署分署ノ證明ヲ添フ可シ

第十四條　歸省中疾病ニ罹リタルトキハ醫證ヲ添ヘ日數ヲ豫定シ最寄警察署分署ノ證明ヲ乞ヒ屆ケ出ツ可シ

○縣令丙第九條　明治二十年四月一日　警察署警察分署

巡査容裝心得左之通定ム

但此規則ニ抵觸スル從前ノ達等ハ廢止ス

巡査容裝心得

巡査正裝スルトキハ左ノ各項ヲ遵守ス可シ

裝置

帽ハ眞直ニ戴キ頤紐ヲ頤下ニ掛ク可シ

襟ハ立襟ニシテ白色ヲ用ユ可シ

卸ハ正ク之ヲ掛ケ腰卷手拭等ヲ露ハス如キ不体裁アル可カラス

劍ノ革帶ハ上衣ノ下ニ締メ其外套ヲ着スルトキ晴天ナレハ其上ニ降雨ナレハ其下ニ締メ劍柄ヲ外部ニ出ス可シ

劍ハ柄頭ヲ前方ニ出シ行歩ノ際ハ左手ヲ以テ之ヲ握ルヘシ

外套ハ着用期限内ト雖モ拜命拜賀及署務取扱中ハ之ヲ脫ス可シ

外套ヲ携帶スルトキハ細長ク卷テ其両端ヲ連結シ左肩ヨリ右腋下ニ斜擔ス可シ

肩掛ハ用否適宜タリト雖モ一署一派出所毎ニ一定シ區々ニ渉ル可カラス但シ單用ノトキモ本文ニ準ス手袋ハ白色ヲ用ユ可シ

色變リ又ハ異樣ノ眼鏡杖、傘、頸卷、呼吸器、草履、木履等總テ正裝ニ害アルモノハ之ヲ禁ス

長靴及草鞋ヲ用ヒ袴ノ裾ヲ褰ケルトキト雖モ其裏面ヲ露ハス可カラス

須要ニ從ヒ草鞋ヲ穿ツトキハ紺足袋紺脚胖ヲ用ユ可シ

靴ハ之ヲ磨キ常ニ光澤ヲ生セシム可シ

頭髮ハ前部凡ソ一寸後部凡ソ五分タル可シ

鬚髯ヲ貯ヘサル者ハ凡ソ一月二回以上剃掃ス可シ

携帶品

手帖ハ上衣左胸ノ衣兜ニ納ム可シ

捕繩ハ下部右ノ衣兜ニ納ム可シ外套ヲ着スルトキハ其同部ニ納ム可シ

呼子笛ハ實用ニ適ス可キ長サノ黑紐ヲ以テ上衣又ハ外套右方第五ノ釦ニ結ヒ捕繩ト同ク之ヲ納ム可シ但時計ヲ携帶スルモノハ其紐若クハ鎖ヲ第四第五釦ノ中間ヨリ出シ上衣右ノ衣兜ニ納ム可シ

名刺ハ墨ヲ以テ楷書シ手帖ニ挿帶ス可シ其雛形左ノ如シ

何々警察署(分署)在勤

埼玉縣巡査　何　某

竪　三　寸

幅　一寸三分

期限

冬服　十月一日ヨリ六月十五日ニ至ル

夏服　六月十六日ヨリ九月三十日ニ至ル

外套　雨天ニ限ル但シ防寒ノ爲メ十一月十五日ヨリ三月三十一日迄ハ晝夜四月九月十月ノ午后第六時ヨリ翌日午前第八時迄着用スルヲ得

日覆　夏服期限間之ヲ用ユヘシ特別ノ場合ヲ除クノ外用否適宜タルヘシ

雜則

被服其他屬具品ハ清潔ニ保存シ原體ヲ變ス可カラス

私用他出ノトキト雖モ制服制帽ヲ着用スルヲ得但帶劍スヘシ

手帖ハ公務内外ヲ問ハス常ニ携帶ス可シ

劍ハ使用畢ル毎ニ掃拭ス可シ

劍ヲ毀損シ又ハ鏽腐セシメタルトキハ相當處分ノ上其修理代價ヲ償ハシム

休暇其他五日以上執務セス任地ヲ離ルヽトキハ佩劍ヲ所屬署ニ假納ス可シ

夜中巡回旅舍撿等ハ硝子燈ヲ用ヒ諸輿行取締出火等非常ノ時ハ提灯ヲ用ユ可シ

○縣令丙第十號　明治二十年四月十二日

本縣巡査名簿左表ノ通定ム

（用紙程村半紙兩面摺り）

表

原籍	氏名	生國	身分	父兄氏名	出生年月日	舊藩	妻子ノ有無	拜命年月日	撰擧人	履歴	賞罰

醫察署
警察分署

裏

同上疾患	職務負傷	賜暇	点呼召集欠勤	忌引	看護引同踊省	病氣引籠及ヒ疾病	備考

○訓第九十七號　明治十九年十二月十四日

巡査戸口調査手續左之通定ム

分署

戸口調査手續

第一條　戸口調査ハ巡査受持區事務規程ニ依リ外勤巡査ヲシテ其受持區内ニ於テ之ヲ行ハシム

第二條　戸口調査ヲ執行スルハ左ノ程度ニ依ルヘシ

一　市街準市街其他人家櫛比ノ場所　毎月　二回以上

一　郷村　毎月　一回以上

一　山間僻邑　隔月　一回以上

第三條　前條土地ノ區別ニ從ヒ其程度ヲ定ムルノ外尚ホ人民ヲ甲乙丙ニ分チ左ノ類別ニ因テ點檢スヘシ

甲　官吏又ハ爵位ヲ有スルモノ及中等以上ノ資産アルモノ

乙　恒産常職アリテ更ニ疑ヲ容レサルモノ

丙　無産業者又ハ被監視者及ヒ常ニ不良徒ノ出入スル等其他惡評アルモノ

第四條　甲部ニ在ルモノハ第二條ノ度數ヲ要セス一年四回以上之ヲ檢シ乙部ハ其度數ニ從ヒ丙部ニ至リテハ其度數ハ勿論臨時點檢特ニ注意ヲ要スヘシ

第五條　戸口調査ヲ爲スニハ一般戸籍上ノ番地ニ從フヘシト雖モ一ノ番地ニ數個ノ家宅ヲ建設スル場所ハ其順序ニ拘ハラス現在ノ戸數ヲ以テ第一號書式ノ番號ヲ貼付スヘシ

第六條　警察署及分署ハ一受持區毎ニ第二號書式ノ帳簿二冊ヲ製シ戸口調査簿ト爲シ其一ハ原簿トシテ署内ニ備付シ其一ハ巡査點檢ノ用ニ供スヘシ

第七條　戸口調査簿ハ一町村毎ニ之カ區別ヲナシ毎戸ニ第一號書式ノ番號ト符合ノ番號ヲ付シ尚ホ第三條ノ類別ヲ登記スヘシ

第八條　戸口ヲ點檢シタルトキハ其都度帳簿ヲ外勤科長ニ致スヘシ外勤科長ハ原簿ニ照合シ變更アレハ加除訂正シ檢印ヲ捺シテ之ヲ下付スルモノトス

但巡査派出所ハ此限リニアラス

第九條　戸口調査ハ貴賤貧富ヲ問ハス總テ本住寄留ヲ區別シ其住所族籍職業年齢及官位勲爵等ヲ詳記スルモノトス

第十條　戸口調査ノ際全戸移轉又ハ他ヨリ轉籍スル等總テ出入アル毎ニ其事由ヲ詳記シ瞭然タラシムヘシ

第十一條　戸口調査ハ一般戸籍ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ混同セサル樣注意スヘシ

第十二條　左ノ場所ニ住居スルモノハ一般戸口ノ部ニ編入スヘシ

一　官舍　公舍

一　神社　寺院

一　學校　病院

第十三條　左ノ建物ハ戸數ニ算入セスト雖モ住居人アルトキハ更ニ番號ヲ付シ調査スヘシ

一　倉庫　物置
一　納屋　床店

第十四條　戸口調査簿一戸毎ニ其紙末ニ第三號ノ用紙ヲ附シ備考トナルヘキ事故ヲ記載スヘシ

第十五條　善行奇特其他ノ理由ニ依リ褒章賞詞ヲ受ケ又ハ重罪輕罪ノ刑及懲罰ニ處セラレタルモノ其他參考トナルヘキモノハ凡テ備考欄内ニ記載スヘシ

第十六條　戸口調査簿樣式中他ヨリ移轉スルモノハ前住居又他ヘ寄留等ヲ爲セシモノハ其寄留先ヲ詳記スルモノトス

第十七條　戸口調査簿樣式中姓名ノト欄ニハ前條ノ場合又ハ官位勳爵或ハ附籍同居等ノ緣故及ヒ實家アレハ其原籍等ヲ詳記スルモノトス

第十八條　寄留人又ハ雇人等アレハ其族籍身分職業等及ヒ其寄留被雇ノ年月日ヲ記載スルモノトス

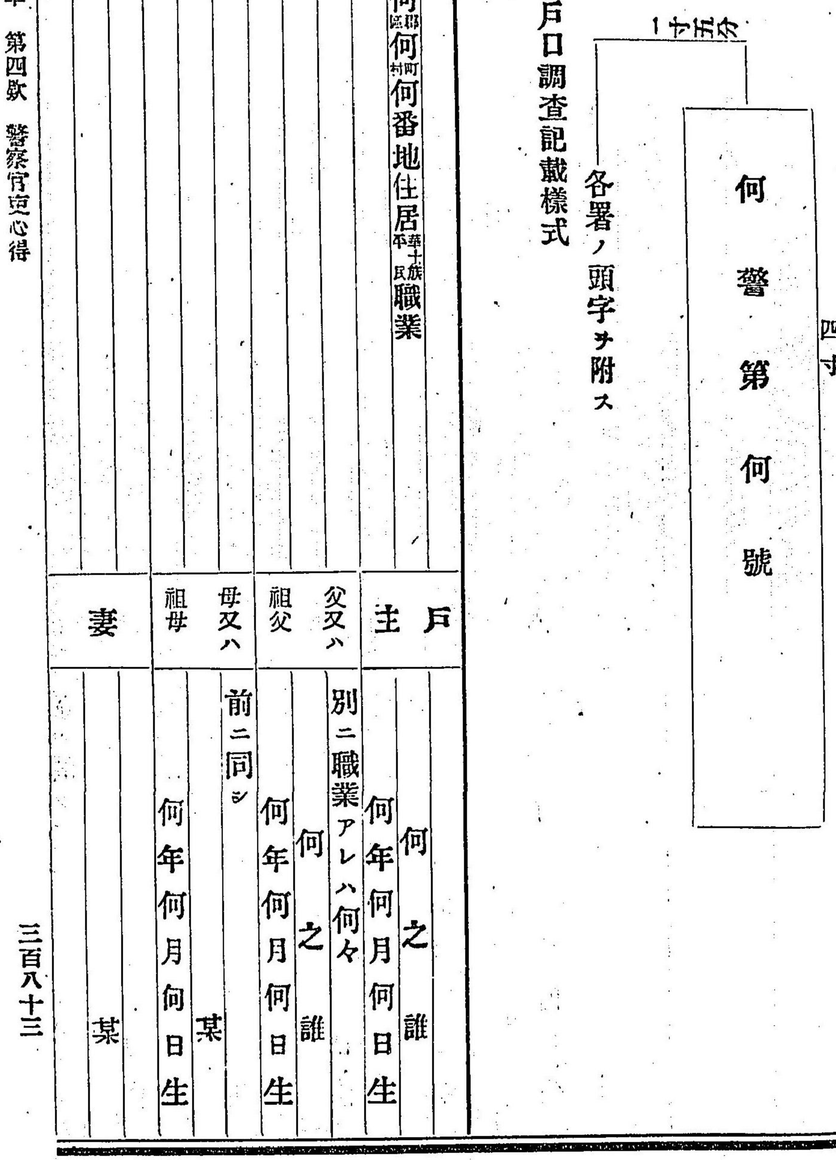
第十九條　前條々ニ記載シタル事務ハ署長之ヲ指揮監督スト雖モ外勤科長其責ニ任スルモノトス

第二十條　此手續ニ定メタル外各署長ニ於テ適宜ニ細則ヲ設ケ警部長ノ認可ヲ經テ施行スルモノトス

表紙

第二號

戸口調査記載樣式



何々	何（男女）	前ニ同シ
		何年何月何日生
		某
何々	兄弟又ハ姉妹	前ニ同シ
		何年何月何日生
		某
何々	叔伯父母	前ニ同シ
		何年何月何日生
		某
何々	同居又ハ寄留	前ニ同シ
		何年何月何日生
		某
何々	雇人	
		何年何月何日生
		某

備考

第三號

何年何月何日何々ノ件ニ依（紅）（絲）（藍）綬褒章ヲ賜フ

何年何月何日何々ノ件ニ依リ金何圓ヲ賜フ

何年何月何日賭博罪ニ依リ懲罰何年過料何圓ニ處セラル

氏名	何年何月何日何々罪ニ依リ重懲役何年ニ處セラル
	何年何月何日何々罪ニ依リ重禁錮何月ニ處セラル
氏名	何年何月何日何々罪ニ依リ當時何監獄ニ於テ服役中

○縣令丙第十五號　　明治二十年四月二十二日

巡査訓練規則左ノ通改ム

巡査訓練規則

第一條　警察署長警察分署長ハ下部ノ巡査ヲシテ其實務ヲ習熟セシムル爲メ警察ニ關スル法律命令及取締規則其他執務上緊要ノ事項ヲ訓練スルモノトス

第二條　訓練ハ毎月二回派出所見張巡査ヲ除キ當非番ノ別ナク部下巡査ヲ召集シテ四時間ヨリ少ナカラス八時間ヨリ多カラサル時間ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

警察署
警察分署

第三條　訓練ハ別紙記載ノ事項ヲ標準トシ毎月其旨趣要領ヲ說示シ次回ニ之ヲ問ヒ記憶ヲ試ムヘシ

但署長必要ト認ムル條件アルトキハ議案ヲ發シ自ラ會頭ト爲リ巡査ヲシテ之ヲ討議セシムルコトヲ得

第四條　訓練中ハ質義スルヲ許サス若シ疑義アルトキハ訓練終ルノ後質サシムヘシ

第五條　警察署長警察分署長ハ毎回訓授シタル條件及議事ノ要領ヲ三日以内ニ警部長ニ屆ケ出ツ可シ

訓練法標準

警察事務ノ要旨
行狀心得及禮式ノ事
帶劍ノ心得
警衛及諸與行取締ノ心得
集會條例及之ニ關スル告達中緊要ノ條項
傳染病豫防規則中ノ要領及檢疫心得
飲食物取締規則ノ要領
火藥取締規則中ノ要領
賭博犯處分規則及細則中緊要ノ條項
巡邏查察ノ際最モ注意スヘキ條件
注意申報ノ心得
警察ニ關スル閣令省令縣令及警部長ノ告達中緊要ノ條件
囚人護送ノ心得
嘯集暴動及群集喧噪ノ警防方心得ノ事
藥品取締規則及之ニ關スル告達中緊要ノ條項
爆發物取締罰則中ノ要領
銃砲取締規則中ノ要領
行旅病死者取扱ニ關スル心得
瘋癲人取扱ニ關スル心得
古物商及質屋條例幷其細則中緊要ノ條項
度量衡取締規則及米商會社條例中ノ要領
鳥獸獵規則中ノ要領
水火風震等ノ變災ニ關スル心得方ノ要旨
難破船及漂流物取扱規則中緊要ノ條項
敎會講社祭典葬儀等取締方ノ要旨
刑法中最モ注意ヲ要ス可キ條項
鐵道郵便電信條例中ノ要領
出版新聞紙及寫眞條例中緊要ノ條項
諸印紙稅則中緊要ノ條件
墓地及埋葬取締規則中ノ要領
人命急變救援方心得ノ事
遺失物取扱規則中ノ要項
治罪法中巡查ニ必要ナル條項
外國人取扱心得

○縣令丙第十七號　明治二十年四月廿六日

巡查點檢法左ノ通改ム

第一條　警察署長及警察分署長ハ司令官トナリ部下ノ巡查ヲ訓練時間前署內若クハ署外ニ於テ下條ノ順序ニ依リ點檢ス可シ

第二條　外勤科長ハ下條ニ明示スルノ外署長不在ナルトキハ司令官トナリ警察分署ニ在テハ上席外勤巡查外勤科長ノ代理ヲ爲ス可シ

第三條　點檢ノ號令左ノ如シ

第一集マレ　警察署
警察分署

此令ヲ下ストキハ人員又ハ場所ニヨリ豫メ一列又ハ二列ト呼フ可シ外勤科長ハ右翼ニ立チ位置ヲ示ス可シ

第二氣ヲ付ケ

此令ニテ整列シタル巡査ハ直立不動ノ姿勢ヲ爲ス可シ即両踵ヲ同線上ニ鋭角ニ置キ両膝ヲ凝ラサル樣ニ伸ハシ躰ヲ直クシ両手ヲ自然ニ垂レ指ヲ整閉シ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ頭ヲ正クシテ両眼ヲ凡ソ二十歩前ノ平面ニ注ク可シ

第三右ヘ準ヘ

此令ニテ巡査ハ其姿勢ヲ崩スヿナク左手ヲ以テ劍柄ヲ握シ右肘ヲ張リ頭ヲ斜右ニシ已レヨリ三番目ノ同列者第一ノ釦ニ着眼ス可シ

第四直レ

此令ハ整列スルヲ竢チ外勤科長之ヲ下スヘシ

第五番號

此令ニテ右翼巡査ヨリ番號ヲ唱起シ順次頭ヲ左ニ向ケ之ヲ移シテ左翼ニ至ル後列ハ前列ノ背後ニ正立ス可シ

第六後列後ヘ

此豫令ニテ外勤科長ハ四歩却歩ヲ動令ニテ巡査ハ三歩却歩ス可シ但一列ナルトキハ之ヲ要セス

第七直レ

第四令ニ同クシテ了テ司令官ト共ニ服裝其他ヲ點檢ス可シ

第八手帖

此令ニテ手帖ノ印章及名刺ヲ開示シ肘ヲ體ニ附ケテ前ニ出ス可シ

第九収メ

第十捕繩

此令ニテ捕繩ヲ出ス其法前令ニ同シ但シ時宜ニヨリ繩ヲ解カシムヿアルヘシ

第十一收メ

第十二呼子

此令ニテ呼子笛ヲ出ス其法前令ニ同シ但シ時宜ニヨリ聲サシムルヿアルヘシ

第十三收メ

第十四後列詰メ

此令ニテ巡査ハ三歩前進ス可シ

進メ

第四條　司令官尙ホ操練ヲ爲サントスルトキハ適宜ノ令ヲ下シ終テ訓練場ヘ引卒ス可シ若シ各個ニ就席セシメントスルトキハ旨ヲ告ケ左ノ令ヲ以テ最終トス

第十五別レ

進メ

○第五欵　雜件

○縣令甲第二十五號　明治十二年四月一日

本縣巡査看守給助例取扱手續別冊之通定ム

但本年四月一日ヨリ施行ス

（別冊）巡査看守給助例取扱手續

第一條　巡査看守ハ左ノ金額表ニ依リ給助金ヲ支給ス

巡査看守給助金額表

種目	本例	金額	本例	金額
退職給助	第三條第一項	二十五圓 一年毎ニ五圓ヲ增給	第三條第二項	三十圓 一ヶ年毎ニ一圓ヲ增給
傷痍給助	第四條第一項	四十圓	第四條第二項	三十圓
死亡給助	第五條第一項	三十圓	第五條第二項	百圓
療治料	第六條	一圓以下		
祭祀料	第七條第一項	十五圓 一年毎ニ五圓ヲ增給	第七條第二項	百圓

第二條　本例實施前ノ勤續年數ハ之ヲ通算ス尤モ一旦打切滿年賜金ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第三條　傷痍又ハ死亡ノ證明ハ縣立病院長若シクハ開業醫二名ノ診斷書ニ依ル他府縣ニ在テ負傷ニ原因シテ死亡シ又ハ孤兒滿二十歳以上ニシテ癈篤疾ノ證明ハ其最寄公立病院長若シクハ開業醫二名ノ診斷書ヲ要ス

但傳染病ニ罹ル者急遽ノ場合ニ於テハ主治醫一名ノ診斷書ニ依ルヿヲ得

第四條　退職又ハ傷痍ニ因リ年金ヲ受クヘキモノハ第一號書式ニ依リ本籍戸長ノ奥印ヲ受ケ管轄廳ヲ經テ本縣ヘ出願スヘシ

第五條　職務ノ爲メ死亡セシモノヽ寡婦又ハ孤兒ノ年金ヲ受クヘキ者ハ第二號書式ニ依リ親族二名（親族ナキトキハ其事由ヲ記スヘシ）連署シ前條ノ手續ヲ以テ本縣ヘ出願スヘシ

第六條　職務ノ爲メ死亡セシモノヽ祖父母父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ノ一時給助ヲ受クヘキモノハ第三號書式ニ依リ第四條ノ手續ヲ以テ本縣ヘ出願スヘシ

第七條　孤兒滿二十歳ニ至ルモ癈篤疾者ナルニ因リ一時給助金ヲ受クヘキ者ハ第四號書式ニ依リ第四條ノ手續ヲ以テ本縣ヘ出願スヘシ

第八條　療治料ヲ請求スルモノハ毎月末第五號書式ニ依リ主治醫ノ藥價表ヲ添ヘ　課署長ヲ經テ請願スヘシ

第九條　本例ニ依リ年金ヲ受クヘキ者ニハ第六號書式ノ證票ヲ附與スヘシ

第十條　年金ハ六月十二月ノ兩度ニ半額宛ヲ本人所在ノ管廳ヲ經テ下附スヘシ

第十一條　年金支給計算方ハ其年額ヲ月割トシ退職者死亡者又ハ傷痍者ハ其翌月（傷痍者

ハ傷痍策定ノ翌月)ヨリ支給ス其給與ヲ止ムルトキハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第十二條　受給者ハ第七號書式ニ依リ金員領收証ニ證票ヲ添ヘ差出スヘシ若シ代理人ヲ差出ストキハ委任狀ヲ添フヘシ

第十三條　年金ヲ受クルモノハ本例第八條第九條ノ各項ニ該ルカ又ハ轉籍死亡再縁等戸籍上異動ヲ生スルトキハ所在戸長ノ奥印ヲ受ケタル書面ヲ以テ其管廳ヲ經由シ速ニ本縣ヘ届出ヘシ其給助ヲ受クル權理消滅シタルトキハ該届出ト共ニ證票ヲ返納スヘシ

第一號書式　用紙美濃紙

退職傷痍給助願書

私儀滿何年間勤續(或ハ今般負傷候處何等傷ニ策定相成)候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度此段奉願候也

年月日

埼玉縣知事氏名殿

右當町村内本籍ノ者ニ相違無之候也

何府何區何町何番地士族
何縣何郡何村何番地平民
元巡査(看守)

何　某印

何年何月生

何町村戸長

何　某印

第二號書式　用紙同上

寡婦孤兒給助願書

私(夫又ハ實養父)巡査(看守)何某何々ノ爲メ何年何月何日死沒候ニ就テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戸籍書相添ヘ親族連署ヲ以テ此段奉願候也

何府何區何町何番地士族
何縣何郡何村何番地平民
故巡査(看守)何某寡婦孤兒

何　某印

何年何月生

同　族籍
親族

何　某印

同　同

同　同印

年月日

埼玉縣知事氏名殿

右當町村内本籍ノ者ニシテ巡査看守給助例第八條第九條ニ該ラサルモノ也

何町村戸長

何　某印

第三號書式　用紙同上

死亡給助願

今般巡査(看守)何某職務ノ爲メ(或ハ負傷後)何年何月何日死亡候處私共儀從來死者ニ依リ生計相營ミ居候ニ付テハ相當ノ御給助被成下度別紙死亡診斷書及戸籍書相添親族連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

何府縣何區郡何町村何番地士族平民
故巡査(看守)何某祖(父母)父母又ハ兄弟姉妹
何　印

同　族籍
親族　何　某　印

同　同　印

埼玉縣知事氏名殿

右當町村内本籍ノ者ニシテ巡査看守給助例第八條第九條ニ該ラサル者也

右町村戸長
何　某　印

第二號第三號戸籍書式　用紙同上

族籍	華士族平民	
戸主	何年何月何日相續	姓名　何　某
二三男歟	或ハ別居養子實	明治何年何月何年何月
出生年月日	年號何年何月何日生	
本籍住所	何府縣何區郡何町村何番地或ハ何某方同居	
寄留住所	同	
父母	某　年號何年何月何日生	
養父母	同　同	
祖父母	同　同	
妻	某　何府縣何區郡何町村族籍何某何女何年何月何日入籍	
	年號何年何月何日生　同　婚姻	
嗣子	某　年號何年何月何日生	

次　男女　某　同

兄弟姉妹　同同　同同

右當町村内戸籍簿ノ通相違無之候也

年月日

何町村戸長　何某印

第四號書式　用紙同上

癈篤疾給助願

私儀明治何年何月ヨリ御給助相受ケ居本月ニ至リ滿二十歳ニ相成候得共從來癈(篤)疾ニ有之候間尚相當ノ御給助被成下度別紙醫員診斷書相添ヘ此段奉願候也

年月日

何府縣郡區町村何番地士族平民　何某(男女)

同族籍親族　何某印

同　何某印

埼玉縣知事氏名殿

右當村町内本籍ノ者ニ相違無之候也

何町村戸長　何某印

第五號書式　用紙同上

療治料請求願書

私儀何々ノ爲メ負傷(或ハ何病ニ罹リ)候ニ付本月一日ヨリ同三十(一)日迄ノ療治料御下付被成下度別紙主治醫藥價表相添ヘ此段奉願候也

年月日

何署在勤巡査(看守)氏名印

埼玉縣知事氏名殿

給助之證

第何號

右ハ滿何年間勤續（故巡査（看守）何某）（爲職務負傷）（爲職務死亡）候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此證ヲ附與スル者也

何府縣族籍
巡査（看守）
何　某
何年何月生

何府縣族籍
故巡査（看守）何某妻（長男又ハ養子等）
何　某
何年何月生

年月日

埼玉縣印

給助之證

第何號

此證書ハ賣買讓與質入書入トナスヲ禁ス

右ハ滿何年間勤續（故巡査（看守）何某）（爲職務負傷）（爲職務死亡）候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此證ヲ附與スル者也

何府縣族籍
巡査（看守）
何　某
何年何月生

何府縣族籍
故巡査（看守）何某妻（長男又ハ養子等）
何　某
何年何月生

年月日

埼玉縣知事　氏　名　印

第七號書式　用紙美濃紙

何給助金領收證

本年上半季分何給助金何拾圓御下附相成正ニ領收仕候也

何府何區何町何番地士族
縣郡村平民
元巡査（看守）何　某　印

埼玉縣知事氏名殿

（故巡査（看守）何某孱婦孤兒）

何某印

○訓第七十二號　明治二十年四月八日

警視廳及各府縣ニ於テ巡査看守給助例施行候ニ付管下本籍若クハ他府縣ヨリ寄留ニシテ其給助ヲ受クヘキ者ヨリ右ニ關スル願屆書ヲ差出シタルトキハ奥書ノ上當廳ヘ差出スヘシ

郡役所
戸長役場

○訓第九十六號　明治十九年十二月十四日

巡査月俸自今左ノ等級ニ依リ支給ス

別級上等俸（十五圓）　別級下等俸（十二圓）

一等　俸（十　圓）　二等　俸（九　圓）

三等　俸（八　圓）　四等　俸（七　圓）

五等　俸（六　圓）

警察署
警察分署

○縣令丙第二十號　明治二十年五月廿一日

警察官吏受持區内巡回日當來ル六月ヨリ月額ヲ以テ支給ス

警察署
警察分署

但月額支給規程ハ警部長之ヲ定ム

郡役所
戸長役場

○訓令第百二十六號　明治二十年八月十九日

明治二十年七月縣令甲第三十八號街路取締規則第四條自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リタル者アリ警察官吏ニ於テ執行シ其旨通知シタルトキハ直ニ義務者ヨリ其費用ヲ追徵シ受取人ニ下渡スヘシ

警察署
警察分署

○縣令丙第六號　明治二十年三月十八日

警察署分署會計帳簿取扱順序別紙之通相定來ル二十年度ヨリ施行ス

（別紙ハ別ニ頒ツ）

郡役所
警察分署
警察署

○縣令丙第十九號　明治二十年五月廿日

巡査被服現品還納ノ節ハ明治十九年四月警甲第十五號金圓物品送納手續第四條ニ依リ最寄郡役所ヘ送附シ來候處自今一ヶ月毎ニ分署ハ所轄警察署ヘ警察署ハ其署ノ分ト共ニ取纏メ警察本部ヘ送付ス可シ

○訓令第九十二號　明治十九年十二月七日　警察分署

本年五月内務省令第七號ヲ以テ警察報告表様式改定相成候ニ付本年一月分ヨリ右改定様式ニ準シ取調翌年一月二十日迄ニ警察本部ニ報告スヘシ

○縣令丙第二十五號　明治十九年十一月廿六日　各署

警察三日報創定來ル十二月一日ヨリ施行候條三日毎ニ左ノ調製心得及ヒ表式ニ依リ取調警察本部ヘ報告スヘシ

警察三日報調製心得

凡例

第一條　警察ノ事務ハ晝夜行ハレテ間斷アルヿナシ故ニ此表ヲ三日報ト稱スルモ其實ハ三晝夜間ニ發生シ來ル所ノ事故ヲ記載スルモノナリ依テ十一月三十日午后十二時ヨリ十二月三日午后十二時迄ヲ第一報ノ期トシ以後右ニ倣ヒ順次其日數ヲ算スヘキモノトス

第二條　表中記載スヘキ事故ナク空欄ヲ生スルトキハ其欄内ノ上部ヘ朱ニテ○印ヲ施シ以テ其脫漏ニアラサルコトヲ證スヘシ

第三條　同時ニ同種類ノ事故數多アリテ其一欄ニ記入シ盡スコト能ハスノ其次ニ空欄アルトキハ其空欄ノ鼇頭ノ文字ヲ一字毎ニ朱點ニテ消シ前欄ニ記スヘキ事故ヲ引續キ其欄ニ記入シ以テ前欄ノ不足ヲ補フヘキモノトス（例ヘハ捕拿諸犯罪ノ欄ニ記スヘキ事故多ク已決賭博ノ欄空欄ナルトキ賭博ノ二字ヲ朱ニテ消シ此欄ニ前欄ノ事故ヲ記入スル類）其空欄ヲキトキハ欄下ニ添紙ヲ爲シ其不足ヲ補フモノトス

第四條　表式中ノ例示ハ主任ヲシテ容易ニ登記ノ體裁ヲ領得セシメンカ爲メ其一班ヲ示スモノナレハ決シテ之ニ拘泥スヘカラス就中日時地名氏名生死年齡員數等ノ如キハ最モ其詳細ナランコトヲ要ス然レ𪜈故ヲ之ヲ寛メントシテ時間ト手數ヲ徒費スルカ如キヿアルヘカラス實際知リ得サルトキハ或ハ單ニ男女ノ區別ヲ舉ケ或ハ不明ト記シ不詳ト書シ又大畧ヲ知リ得ルトキハ凡字ヲ冠ラシムル等適宜記載シテ可ナリ要スルニ文ハ簡單ニシテ事ハ明確ナランコトヲ期スヘシ

第五條　前報ニ登記スヘキ事故ヲ後報ノ期限中ニ知リ得タルトキ（例ヘハ巡査派出所ニ於テ盜難屆ヲ受理シ三間日ニ其書類ヲ警察署ニ送致セシニ其事故ハ前報ノ期限内ニ發シタルモノナリシトキノ如シ）ハ之ヲ後報ニ記載シ其起筆ノ所ニ朱點ヲ施シ以テ前期ニ發生セシ事故ナルコトヲ明ニスヘシ

第六條　此表ニハ添書ヲ付スヘカラス往復番號ハ右表ノ側上隅ノ欄外ニ朱字ニテ記入スヘシ

第七條　此表ハ第四日目ノ朝郵便ヲ以テ發送スヘキモノトス

第八條　此表ハ如何ナル事故アルモ定期ニハ必ス發送スヘキモノナレハ他ノ書類ニシテ急速ノ進達ヲ要セサルモノハ成ルヘク取纏メ此表ト同封ニシテ發送スル様署長内勤科長及ヒ内勤科員ニ於テ常ニ注意スヘキモノトス

（何）第（何）號

明治(何)年(何)月 自(何)日至(何)日警察三日報

(何)警察(分)署 署長 印 主任 印

賊難	強盜	例
		此欄ニハ強盜難ニ罹リタル日時場所氏名幷ニ犯人ノ種類員數及ヒ其結果等ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日前后何時頃何村何某方ニ持兇器強盜何人押入金品ヲ奪掠シ家族何某ニ重傷ヲ負ハセ逃ケ去ル」ノ如シ
	竊盜	例
		此欄ニハ竊盜難ニ罹リタルモノヲ記スヘキモノトス其日時ヲ知ル能ハサルモノハ何日ヨリ何日迄ノ間ト記スヘシ例ヘハ「何日何時頃何町何某方ヘ竊盜忍ヒ入リ衣類何品雜品何個金何程窃取セリ」ノ如シ
犯罪捕拿	強盜	例
		此欄ニハ強盜犯人ヲ逮捕セシ日時場所及ヒ其犯人ノ氏名ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日前后何時頃何處ニ於テ強盜犯何某ヲ捕獲セリ」ノ如シ
	竊盜	例
		此欄ニハ竊盜犯人ヲ逮捕セシ日時場所及ヒ其犯人ノ氏名ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日午前午后何時頃何處ニ於テ竊盜犯何某ヲ捕ヘタリ」ノ如シ
	諸犯罪	例
		此欄ニハ強窃盜犯人ヲ除クノ外刑法上ノ犯罪ハ勿論諸犯則賭博犯密賣淫犯及ヒ本縣違警罪目違犯者等ヲ捕獲セシ如キハ總テ網羅シテ記スヘキモノトス例ヘハ「何日午前后何時頃何處ニ於テ印税犯則者若クハ密賣淫犯何某ヲ捕ヘタリ」ノ如シ
	賭博	例
		此欄ニハ賭博犯人ヲ處分セシ日及ヒ其犯人ノ氏名懲罰ノ年月過料ノ金額等ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日賭博犯人何某ニ對シ懲罰何年何ケ月過料金何圓言渡セリ」ノ如シ
決	密賣淫	例
		此欄ニハ密賣淫者ヲ處分セシ日幷ニ其犯人ノ氏名及ヒ科料ノ金額等ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日密賣淫犯若クハ窩主何村何某ニ對シ科料金何圓言渡セリ」ノ如シ
	違警罪	例
		此欄ニハ違警罪犯ヲ處分シタル日幷ニ其犯人ノ氏名及ヒ罪名刑名等ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日何々セシ者何村何某ニ對シ何程ノ科料言渡セリ又ハ何日何規則違犯者何某ニ對シ科料何圓何十錢言渡セリ」ノ如シ
殺傷		例
		此欄ニハ都テ「司法上ニ關スル殺傷事故ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日何時頃何町村何某ハ何處ニ於テ怨恨ニ因リ何町村何某ニ及傷セラレタリ又ハ何日何時頃何町村何某ハ口論ノ末何町村ノ何某ニ毆打セラレ重傷ヲ負ヘリ」等ノ如シ
變死		例
		此欄ニハ都テ行政上ニ關スル死傷事件ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日何時頃何町村何某ハ何處ニ於テ貧困ニヨリ縊死ス又ハ何日何時頃何町村何某ハ何町村何某ト何處ニ於テ短刀ヲ以テ情死セリ」等ノ如シ
傳染病		例
		此欄ニハ六種傳染病及ヒ牛馬疫等ノ患者ヲ發シタルトキ其日時場所氏名等ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日何時頃何村何某ハ何病ニ罹リ即時死去ス又ハ何日何時頃何町村何某飼馬何頭何病ニ罹リ治療中但シ蔓延ノ況景ナシ」等ノ如シ
火災		例
		此欄ニハ放火失火等都テ記スヘキモノトス例ヘハ「何日午前午后何時頃何村何某居宅ハ放火ノ爲ノ燒失ス又ハ原因ハ不詳又ハ何日午前午后何時頃何村何某ノ納屋ハ火ヲ失シ燒失セリ」等ノ如シ
人民諸願屆		例
		此欄ニハ諸願屆ノ件數ヲ記スルモノトス然ヒ檢視願ノ賊難者クハ殺傷變死等ニ於ケルカ如ク此表中ノ一目ニ當然附隨フヘキモノハ記入ニ及ハス其他ハ總テ記スヘキモノトス例ヘハ「何日免許證鑑札願五諸興行願三銃砲買入願二遺失屆一得遺失屆」等ノ如シ

救護例

此欄ニハ人命救助棄兒迷兒狂癲者急病者ヲ保護セシ日時場所及ヒ其本人ノ住所氏名年齢幷ニ其顚末ヲ記スヘキモノトス例ヘハ「何日午前午后何時頃何村ニ於テ當歳位ノ男兒ヲ棄テアルヲ發見シ戶長役場ヘ引渡セリ又ハ何日何時頃何處ニ溺死セントスル何村何某ヲ何村何某救助セリ」等ノ如シ

雜事例

此欄ニハ天變地殃ノ爲メ發生セシ事故諸祭禮ノ景況等ヲ簡單明瞭ニ記載スヘキモノトス例ヘハ「何日何時頃ヨリ暴風雨何川滿水何村堤防何ケ所潰崩溜田凡何町歩水ヲ被ル又ハ何日何村何社ノ祭典ハ甚タ不景氣在方金融ノ壅塞ニ原因スルナラン」ノ如シ

○告第三十八號　明治二十年四月廿二日

自今巡査ヲシテ受持區內便宜ノ地ニ派遣シ其宿所ニ左ノ標札ヲ掲ケ住居セシム

二尺七寸

七寸

何村何村

□

何村何村　受持巡査宿所

○告第三十六號　明治二十年四月十五日

巡査採用規則左之通改定ス

巡査採用規則

第一條　巡査志願ノ者ハ警察本部ニ於テ左ノ諸項ノ試驗ニ及第シタル者ヲ採用ス

一　年齢二十三以上三十五年以下ノ者

一　軀幹五尺一寸以上ノ者

一　体質健全ノ者

一　刑法治罪法其他警察規則等ノ大意ニ通スル者

一　普通ノ讀書ヲ爲シ得ル者

一　論文又ハ普通ノ往復文ニ通スル者

一　加減乘除ノ算術ヲ爲シ得ル者

一　滿五年以上勤續差支ヘナキ者

一　本縣警部補ノ撰擧ニ係ル者

第二條　左ノ資格アル者ハ學術ノ試驗ヲ經ス直ニ採用ス

一　明治十年以後警部補以上ノ職ヲ奉セシ者

一　本縣在籍者ニシテ陸軍下士官ノ職ヲ奉セシ者

一　本縣在籍者ニシテ高等小學以上ノ卒業證書ヲ有スル者

第三條　前條ニ適スルモ左項ニ觸ルヽ者ハ採用セス

一　徵兵ニ相當スル者

一　重禁錮ニ處セラレ及輕禁錮滿期後五年ヲ經サル者
　但シ舊律施体ノ刑ニ處セラレタルモノ亦此權衡ニ準ス
一　賭博犯處分規則ニ依リ處罰セラレタル者
一　巡査懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ巡査看守誓約期限內故ナク辭職シテ滿二年ヲ過キサル者
一　身分不相應ノ負債アル者及身代限リノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
一　素行修ラサル者
一　酒癖又ハ暴行ノ癖アル者

第四條　志願者ハ第一號第二號第三號第四號書式ニ照シ志願書ニ誓約書履歷書薦舉狀ヲ添ヘ警察本部ニ差出ス可シ

第一號書式（用紙ハ總テ半紙）

巡査志願書

當縣巡査志願ニ付御試驗被成下度別紙誓約書履歷書相添ヘ此段相願候也

何（府縣）何國何（郡區）何（町村）何番地（士族平民）或ハ某何男又ハ何々
當時何（府縣）何國何（郡區）何（町村）何番地誰方寄留
志願人　氏　名　印

年　月　日

埼玉縣知事氏名殿

第二號書式

誓約書

當縣巡査ニ御採用ノ上ハ左ノ條々確守可致候

一　職務規則及上官ノ命令ヲ遵守スル事
一　滿五年以上奉職スル事
一　奉職中負債ヲ生セサル事

右誓約候也

年　月　日　（肩書第一號書式ニ同シ）　氏　名　印

埼玉縣知事氏名殿

第三號書式

履歷書

年月日
何（府縣）何國何（郡區）何（町村）ニ於テ出生
年月日
何所誰ニ從ヒ又ハ何校ニ入リ何學修業又ハ卒業
年月日
教導團生徒拜命或ハ何々トシテ何兵第何隊ニ編入

年月日
何隊ニ轉ス或ハ滿期解隊又ハ何々ニ依リ除隊
年月日
何々ヲ命ス
年月日
(依願)免職務
右之通候也
年　月　日
第四號書式
薦擧狀
(肩書第一號書式ニ同シ)　氏　名
年　齡
右本縣巡査志願ノ處適當ノ人物ト認メ候ニ付書類相添薦擧候也
年　月　日
埼玉縣警部(補)　氏　名印
埼玉縣警部長氏名殿

何官衙
何官衙
氏　名印

○告第四十四號　明治二十年五月三日

看守採用規則左之通定ム
右告示ス

看守採用規則

第一條　看守志願ノ者ハ監獄課ニ於テ試驗シ左ノ諸項ニ及第シタル者ヲ採用ス
一　年齡二十年以上四十年以下ノ者
一　軀幹五尺以上ノ者
一　體質强壯ノ者
一　刑法治罪法監獄則ノ大意ニ通スル者
一　普通ノ讀書ヲ爲シ得ル者
一　論文又ハ普通ノ往復文ニ通スル者
一　滿五年以上勤續差支ナキ者
一　本縣在籍者ノ保證アル者

第二條　左ノ資格アル者ハ學術ノ試驗ヲ經ス直ニ採用ス
一　看守副長以上ノ職ヲ奉セシ者
一　本縣在籍ノ者ニシテ陸軍下士官ノ職ヲ奉セシ者

第三條　前々條ニ適スルモノモ左ノ項ニ觸ルヽ者ハ採用セス
一　徵兵ニ相當スル者
一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
　但舊律施體ノ刑ニ處セラレタル者又同シ
一　賭博犯處分規則ニ依リ處罰セラレタル者
一　巡査看守懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ巡査看守誓約期限內故ナク

辭職シテ滿二年ヲ過ギサル者

一　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

一　素行修ラサル者

第四條　志願者ハ第一號第二號書式ニ照シ志願書ニ履歴書ヲ添ヘ監獄課ニ差出スヘシ

第五條　戸長ノ奥書ハ保證人在籍地ノ戸長タルヘシ

第一號書式（用紙半紙）

看守志願書

當縣看守志願ニ付御試驗被成下度別紙履歴書相添此段相願候也

何(府縣)何國何(郡區)何(町村)何番地(士族平民)某何男又ハ何々

當時何(府縣)何國何(郡區)何(町村)何番地何某方寄留

志願人　氏　名　印

年　月　日

右之者看守志願之處御採用相成候上ハ御規則ヲ遵奉セシメ本人身上ニ付萬事引請可申仍テ保證仕候也

肩書前ニ同シ　保證人　氏　名　印

埼玉縣知事氏名殿

前書保證人本(町村)在籍ノ者ニ相違無之候也

右何(町村)戸長　氏　名　印

年　月　日

第二號書式（用紙半紙）

履歴書

何(府縣)何國何(郡區)何(町村)何番地(士族平民)

或ハ某何男又ハ何々元何々藩

氏　名

何年何月何日生

年月日

一　何(府縣)何國何(郡區)何(町村)ニ於テ出生

年月日

一　何々校ニ入リ何學修業又ハ卒業

年月日

一　何某ニ從テ何々修業

年月日

一　教導團生徒拜命或ハ何々トシテ何兵第何隊ニ編入

年月日

一何隊ニ轉ス或ハ滿期解隊又ハ何々ニ依リ除隊

年月日　何々ヲ命ス

年月日　（依願）免職務

年月日　何々ニ付賞罰（賞罰全文アレハ其全文ヲ記スヘシ）

右之通ニ候也

年　月　日

何官衙
何官衙

氏　名　印

○甲第十二號　明治十一年一月廿六日

川船田船等他ニ流着スルモノアルモ其所有者ノ知レサルヨリ還附シ難キモノ往々有之依テハ左ノ書式ニ倣ヒ木札ヲ製シ各自ノ所有船ヘ必ス釘付置候樣可致此旨布達候事

雛形

寸法適宜

埼玉縣下第何大區何小區何區
何國何郡何村
何番屋敷
何之誰

○甲第四十九號　明治十一年六月廿七日

近來各所ニ狂犬徘徊シ往々路人ヲ咬傷シ其害不尠候就テハ無札ノ犬ハ飼主ナキモノト見做シ時々撲殺セシメ候條飼主有之犬ハ必ス其主ノ住所姓名ヲ記載シタル札ヲ附ケ置可申假令札ヲ附ケ置キ候トモ狂犬ト認ムルトキハ直ニ撲殺候筈ニ付飼主ニ於テ兼テ注意可致此旨布達候事

○甲第七十九號　明治十一年十月十八日

街衢ニ於テ幼兒ヲ集メ食物ヲ賭ケ當テモノヲナシ又ハ吹矢ヲ以テ菓物等ヲ吹カシメ其他博戲ニ類スル營業ハ風俗ヲ紊亂スルモノニ付自今一切禁止候條此旨布達候事

○甲第百十一號　明治十三年十二月九日

本年四月第十二號公布集會條例ニ依リ講談論議ノ事項ヲ屆出候節ハ其會主又ハ會長幹事等ノ内ニテ所轄警察署ヘ書面ヲ持參スヘシ此旨布達候事

○甲第二十七號　明治十三年三月十七日

失火ノ訴ハ是マテ本廳又ハ裁判所々在ノ地ノ警察署ヘ出頭書面差出候成規ニ有之候處自今其儀ニ及ハス候條直チニ其所轄警察署或ハ分署ヘ屆出テ臨檢ヲ受クヘシ此旨布達候事

○甲第十八號　明治十四年二月廿四日

途上ニ於テ新聞紙幷雜誌類ヲ讀賣候儀自今禁止候條此旨布達候事

○甲第百八號　明治十四年十一月十二日

銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ巡査ノ配置ヲ請願スルトキハ其請願ノ場所ヘ配置聞屆候條左ノ規則ニ依リ願出ツヘシ此旨布達候事

巡査配置請願規則

第一條　巡査ノ配置ヲ請願スル者ハ其人員並配置ノ場所及ヒ期限ヲ詳記シ戸長ノ奥書ヲ取リ所轄郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

第二條　配置期限ハ一ケ年ヨリ短期ナレハ許可セサルヘシ

第三條　請願ニ依リ配置スル巡査ハ總テ一般ノ成規ニ從ヒ其所轄警察署ノ管理ニ屬ス

第四條　巡査ノ配置ヲ請願スル町村ニ於テハ適宜ノ地ニ交番所ヲ設クヘシ尤警察署又ハ分署ヘ增員スルモノハ此限ニアラス

第五條　交番所ハ新築シ又ハ借家スルモ便宜ニ從フヘシ尤費用ハ請願者ノ負擔タルヘシ

第六條　交番所ヨリ其所轄警察署又ハ分署ヲ距ル一里以內ナレハ巡査二人一里以上ナレハ巡査三人以上配置ヲ請願スヘシ

第七條　巡査一人ニ付一ケ年費用豫算左ノ如シ

金八拾四圓　巡査月給
金貳拾七圓三拾壹錢　被服並屬具
金八圓　旅費
金五圓　恩賞雜給

第八條　交番所需用費一ケ年豫算左ノ如シ

金四圓六拾錢　備付品費
金三拾六圓　消耗品費
金貳圓　郵便運送費
金三圓貳拾錢　番所雜費

第九條　前二條ニ掲ケタル費目ハ一般ノ成例ニ依リ算出セシモノナレハ實費ト增減スルヿアルヘシ

第十條　巡査並交番所ニ屬スル費用ハ二期ニ分チ第一期（其年七月ヨリ十二月マテ）分チ六月ニ第二期（翌年一月ヨリ六月マテ）分ヲ十二月迄ニ前納セシメ其精算ハ次年地方稅收出精算書ト同時ニ報告スルモノトス

○丁第百十九號　明治十六年五月十八日

明治十四年十二月本縣甲第百八號布達巡査配置請願ニ係ル費用ハ其役所ニ於テ徴収送附スル儀ト可心得此旨相達候事

○乙第五十九號　明治十四年十一月廿九日

郡役所
戸長役場

検察事務ノ儀ハ特ニ捷速ヲ要シ候ニ付テハ犯罪人原籍職業身分資力前科其他犯罪ニ關スル事件取調方之儀ニ付警察官若シクハ検事ヨリ及委囑候節ハ速ニ取調及回答候様可心得此旨相達候事

○乙第六十五號　明治十九年五月四日

郡役所
戸長役場

今般浦和輕罪裁判所ニ於テ即決裁判手續相定候ニ付テハ犯人原籍前科調ハ最モ捷速ヲ要スル義ニ付犯人原籍前科取調規程左之通相定候條自今其筋ヨリ照會有之候節ハ迅速取調送致ノ手續ヲ爲スヘシ此旨相達候事

犯人原籍前科取調規程

第一條　犯人ノ原籍幷前科取調ニ付警察署若クハ分署ヨリ照會アルトキハ戸長役場ニ於テ迅速取調フヘシ

第二條　前條ノ照會ハ別紙第一號書式ニ準據スヘキ筈ニ付取調ノ事項ハ其書面ノ裏面科目欄内ヘ記入シ速ニ指定ノ裁判所検事ヘ送致スヘシ但取調ノ稽滯ナキヲ証明スル爲メ發送ノ年月日ノ下ニ時刻ヲ記入スヘシ

第三條　巡査ニ於テ現行準現行犯人ヲ取押ヘ直ニ戸長役場ニ至リ口頭ヲ以テ前條ノ科目取調ヲ囑托スル時ハ戸長役場ニ於テハ直ニ別紙第二號ノ領諾証ヲ巡査ニ交付シ且ツ遲滯ナク第二條ノ手續ヲ履行スヘシ

第一號書式（表面ハ警察官ニ於テ記入シ裏面ハ戸長ニ於テ記入スヘキモノトス）

表

右之者犯罪有之左記ノ條件必用ニ付至急取調欄内ヘ記入何裁判所検事ヘ直ニ送致有之度候也

年月日午前/午后時

何村町
戸長御中

何警察署
埼玉縣警部　某　印

裏

動位	
無之ハ或動何等何々	

何縣何國何郡何町村幾番地
身分華士族平民職業、、
姓名
年齢何年何月生

官職	軍籍又ハ恩給扶助料	前科
何或無之ハ々	何或無之ハ々	何年何月何々何々裁判所ニ於テ何々ノ科ニ依リ重禁錮何月罰金幾圓監視何月或ハ無之

面

右之通相違無之候也

年　月　日午前/後　時

郡/村町　戸長　某　印

第二號書式

住所身分職業　氏名

右ノ者原籍前科等取調之上當役場ヨリ直ニ某裁判所撿事ヘ送致候樣囑托ノ旨領諾候也

年　月　日午前/後　時

某村町　聯合戸長役場

巡査氏名殿

○甲第十三號　明治十八年三月十二日

途上ニ於テ車馬行逢フトキハ互ニ左方ニ避クヘシト雖モ軍隊幷砲車輜重車ニ行逢フタル時ニ限リ右方ニ避讓スヘシ此旨布達候事

○甲第十七號　明治十八年四月十四日

新聞紙雜誌類ヲ配賣セントスルモノハ其種類ヲ詳細ニ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ其種類ヲ變換シ若クハ廢業シタルトキモ亦同シ此旨布達候事

○甲第二十號　明治十八年四月三十日

盜難屆ハ最モ迅速ヲ要スヘキノ處屆書調製ノ爲メ又ハ戸長ノ奥書ヲ請ケ屆出ツル等ノ爲メ往々時日ヲ遷引スル趣モ有之自然探偵逮捕ノ機ヲ失シ不都合ニ候條以來戸長ノ奥書ヲ要セス速ニ所轄警察署又ハ分署又ハ交番所ヘ可屆出尤モ急速ノ屆書ヲ作ル能ハサル時ハ口頭ヲ以テ屆出テ追テ書面ヲ差出スモ差閊無之候條此旨布達候事

○甲第卅六號　明治十八年六月六日

凡ソ古墳ト相見ヘ候地ハ人民私有地タリトモ猥リニ發掘不相成若シ風雨等ノ爲メ自然石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候樣ノ次第有之候ハヽ口碑流傳ノ有無ニ不拘詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名幷近傍ノ字等ヲモ取調可屆出此旨布達候事

○甲第六十號　明治十九年五月廿四日

瘋癲人看護又ハ治療ノ爲メ鎖錮若クハ病院ニ入院セシメントスル者ハ其事由ヲ詳記シ親屬二名以上連署ノ上醫師ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出認可ヲ受ケ解鎖及出院ノ時ハ其旨屆出ツヘシ

○丁第九十號　明治十九年五月十七日　郡役所

警察署金圓物品送納手續別冊之通相定候ニ付テハ右手續第四條ニ據リ送付セシ沒收品不用品取扱手續キ左之通相心得ヘシ此旨相達候事

一　沒收品ハ一ケ月分取纏メ公賣ノ手續ヲナシ明細書ニ投票ヲ添付シ伺出ヘシ

但公賣ニ付シ難キ物品ハ處分ヲ伺出ヘシ

一　前項賣却シタル代金ハ總テ歲入歲出出納規則ニ依リ取扱フヘシ

一　不用物品ハ便宜公賣シ其代金ハ地方稅雜收入トシ納付スヘシ

（別冊）　金圓物品送納手續

第一條　過料金沒收品其他處分結了シテ本廳ニ送納スヘキ金員物品ハ左ノ手續ニ從ヒ送納スヘシ

第二條　左ノ金員ヲ徵收又ハ沒收セシキハ警察署ニ於テ（分署ハ所轄警察署ニ送付シ）現金ニ第一號書式ノ納付書ヲ添付シ國庫金取扱所ヘ納付スヘシ（國庫金取扱所ナキ地ハ浦和國庫金取扱所ヘ）國庫金取扱所ニ於テハ納付書ノ正本ヲ留メ置キ其副本ヲ交付スヘキニ依リ其副本ニ第二號書式ノ送納書及ヒ納人ノ納證（身代限リニ依テ徵收シタル過料金ハ本人又ハ代理人ノ納證ヲ徵收スヘシ）若クハ事由書（此レハ官沒ノ得遺失金屆書ニ成規ニ因テ沒收シタル旨ヲ朱書シタルモノ又ハ賭博ノ場所證ニ規則ニ依テ沒收シタル旨ヲ朱書シタルモノ故ニ沒收金送付ノ時ニ限リ添付スヘシ）ヲ添ヘ翌月八日マテニ會計課ニ送致シテ受領證ヲ取置クヘシ

第三條　左ノ金員ハ郡役所爲換方又ハ現金取扱所ノ預切符ニ第二號書式ニ倣ヒ調製シタル送納書及ヒ納人ノ納証ヲ添ヘ毎一ケ月分取纏メ分署ハ所轄警察署ヘ警察署ハ其署ノ分ト共ニ取纏メ翌月八日迄ニ警察本署ニ送納シテ受領書ヲ取置クヘシ

一　密賣淫科料金

一　娼妓貸座敷犯則科料金

一　月給旅費等渉渡金或ハ巡査賠償金ノ類

第四條　左ノ物品ハ一ケ月毎ニ取纏メ明細書ヲ附シ分署ハ所轄警察署ヘ（郡役所アル地ハ直ニ其郡役所ニ）送附シ警察署ハ其署ノ分ト共ニ取纏メ最寄郡役所ニ送附スヘシ

一　沒收品（賭場現在品官沒得遺失品及賊ノ棄置品類）

一　不用品（石油空鑵紙屑等全ク廢物ニ屬シタル者）

第一號

正第號

明治　年度　何々金　何々金

一金

右納付候也

明治　年　月　日領收

副第號

明治　年度　何々金　何々金

一金

右納付候也

明治　年　月　日納濟

此用紙ハ警察本署ヨリ下附スヘシ

第二號書式ノ一

明治何年度司法省主管雜收入仕譯書

一金何圓

內譯

金何圓

內

懲罰及沒收金

罰金及科料

類別	金員	人員
刑法違警罪科料	○	何人
廳府縣等違警罪	○	何人
人力車取締規則	○	同
街路取締規則	○	同
何々	○	同

右之通候也

年號月日

會計主務

埼玉縣書記官長谷川敬助殿

警察署長 姓 名印

第二號書式ノ二

明治何年度埼玉縣主管雜收入仕譯書

一金何圓

內譯

金何圓

內

懲罰及沒收金

罰金及過料

類別	金員	事由
賭博犯科料	○	何人
何々	○	何人

金何圓

內

沒收金

類別	金員	事由
賭場現在金	○	何々
賊捨置金	○	同

何　々　○　一　同

右之通候也

年號月日　警察署長　姓　名　印

會計主務

埼玉縣書記官長谷川敬助殿

○甲第十一號　明治十年二月六日

銃砲取潰願之儀自今左之書式ニ倣ヒ願書相認銃砲取添所轄郡役所ヘ差出處分可相受此旨布達候事

願書式

銃砲取潰願

何縣御改第何番

一銃名　第何區何郡村何族　何之誰所持

和銃ナラハ玉目ヲ記ス

右不用ニ付取潰申度仍テ該銃相添此段相願候也

年號月日　右　何之誰印

郡長宛

前書之通相違無之依テ奥書印形仕候也

年號月日　戸長　何之誰印　右區々長　何之誰印

○甲第百十五號　明治十四年十一月三十日

銃砲取潰願之儀ニ付明治十年二月甲第十一號ヲ以テ布達候次第モ有之候處自今所轄警察署ヘ差出シ處分ヲ受ヘク此旨布達候事

○甲第四十號　明治十年四月十七日

銃砲所持ノ者彼我讓受幷ニ代替等ハ其節々速ニ可屆出筈ノ處無其儀等閑ニ打過候輩往々有之不都合ノ事ニ候條以降無失漏可屆出此旨布達候事

○甲第五十三號　明治十六年五月十日

銃砲賣買願及讓受渡屆等ハ自今所轄警察署又ハ分署ヲ經テ可差出此旨布達候事

○縣令甲第四十四號　明治十九年十二月十四日

消防組編成規則左ノ通定ム

消防組編成規則

第一條　各町村ニ於テ消防組ヲ編成スルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

第二條　消防組ハ警察署又ハ分署所轄内ニ於テ一町村一組若クハ數組ヲ編成スヘシ但數町村聯合シテ編成スルモ妨ナシ

第三條　消防組ノ名稱ハ其町村名ヲ冠稱シ其聯合ニ係ルモノハ便宜町村名ヲ附スヘシ但一町村内ヲ數組ニ編成スルトキハ番號又ハ字ヲ以テ區別スヘシ

第四條　消防組ハ年齡十七年以上四十五年以下ノ者ヲ以テ編成スルモノトス但年齡四十五年以上ノ者ト雖トモ身體强壯ナル者ハ此限リニアラス

第五條　消防組ハ左ノ事項ニ從ヒ規約ヲ定メ戸長ノ奥書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ屆出認可ヲ受クヘシ

一　消防器具ニ關スル事

二　消防事務ニ關スル經費支辨方法ノ事

三　消防組維持方法ニ關スル事

四　消防組々織方法ニ關スル事

右ノ外必用ノ事項

第六條　消防組ハ頭取一人副頭取一人ヲ置キ組合中ヨリ之レヲ選定シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　警察署又ハ分署ニ於テハ頭取副頭取不適當又ハ不都合ノ所爲アリト認ルトキハ臨時改選ヲ命スルヿアルヘシ

第八條　頭取ハ警察官吏又ハ戸長ノ命令ヲ受ケ其部下ヲ統率シ且ツ左ノ事項ヲ掌理ス

一　消防夫ノ名簿ヲ調製スル事

二　消防器械ヲ保管スル事

三　消防費用ニ關スル事

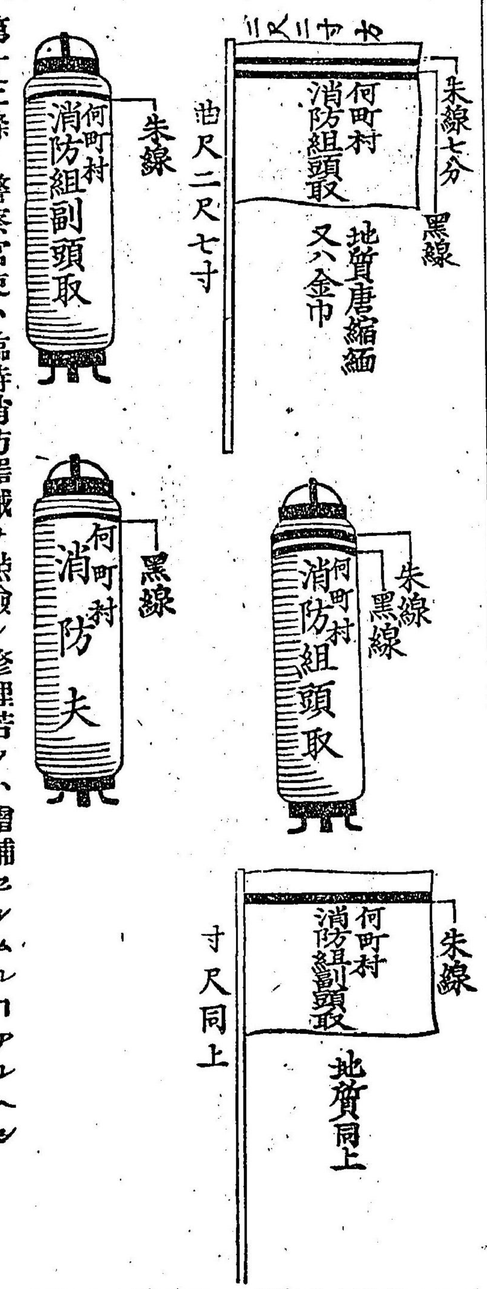
右ノ外規約ニ定メタル事項

第九條　副頭取ハ頭取ヲ補佐シ頭取不在ノトキハ其事務ヲ代理ス

第十條　頭取ハ組合消防夫ノ名簿及消防器械ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ屆置クヘシ

第十一條　消防組ハ常ニ戸長ノ監督ヲ受ケ其消防上ニ付テハ警察官吏ノ指揮ヲ受クヘシ但警察官吏アラサルトキハ戸長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條　頭取副頭取及消防夫ハ消防上ニ付左ノ雛形ノ提燈及旗ヲ携帶スヘシ但夜中ハ提燈ニハ旗ヲ用ユヘシ



第十三條　警察官吏ハ臨時消防器械ヲ點檢シ修理若クハ增補セシムルヿアルヘシ

第十四條　警察官吏ハ臨時消防組ヲ招集シ其進退動作ヲ檢閲スルヿアルヘシ

○縣令甲第五十五號　明治二十年九月廿七日

教務所並說教所取設願ハ自今所轄警察署又ハ分署ヲ經由スヘシ

○訓令第九十八號　明治廿一年八月廿三日

醫師雇上ニ屬スル諸費ハ縣會ノ議決ヲ要スルモノニ限リ該規約ノ範圍外ト心得ヘシ

郡役所

○第七章　衛生

○第一欵　公衆衛生

○甲第七十三號　明治十六年六月廿六日

市街厠圊構造規則左之通相定候條此旨布達候事

市街厠圊構造規則

第一條　市街ニ於テハ公衆ノ便ニ供スル爲メ厠圊ヲ設置スヘシ

第二條　厠圊ヲ設置セント・スルトキハ其場所及構造方ヲ詳記シタル圖面相添戸長衛生委員連署ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出テ認可ヲ受クヘシ

第三條　從來設置セルモノト雖改良ヲ要スヘキモノハ前條ノ手續ニ從フヘシ

第四條　厠圊設置ノ場所ハ井泉ヲ距ルコト少クモ三間以上ニシテ適宜ノ地ヲ擇ムヘシ

第五條　厠圊ノ構造ハ左ノ方法ニ從フヘシ

第一　糞尿池ハ陶器ヲ用ヒ又ハ漆喰ヲ以テ構造スヘシ若シ他ノ器物ヲ用フルトキハ堅牢ナル物質ヲ撰ミ糞尿ノ滲透セサル樣構造スヘシ

第二　糞尿池ノ周圍ハ遍ク漆喰土又ハ粘土ニテ塡塞シ汚液ノ滲透ヲ防クヘシ

第三　厠圊ノ建築周圍ノ裝置ハ大概別紙圖面ニ倣フヘシ

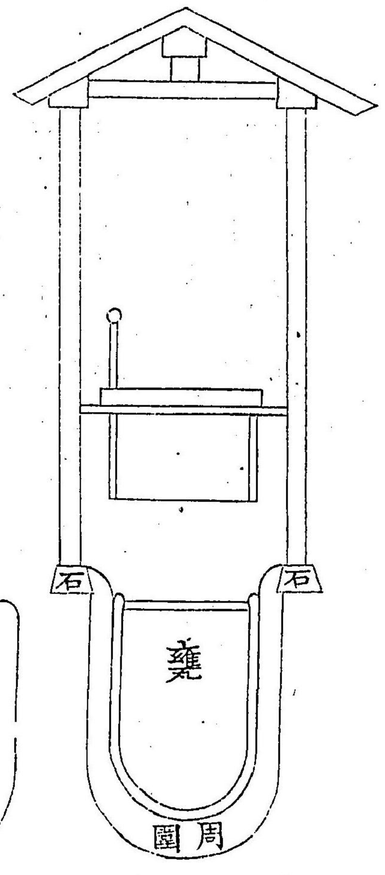
第六條　厠圊ハ糞尿ヲ數々汲取リ又其周圍ハ不潔ナラサル樣時々之ヲ掃除スヘシ

第七條　厠圊ニ關スル費用ハ都テ其町村ノ協議費ヲ以テ支辨スヘシ

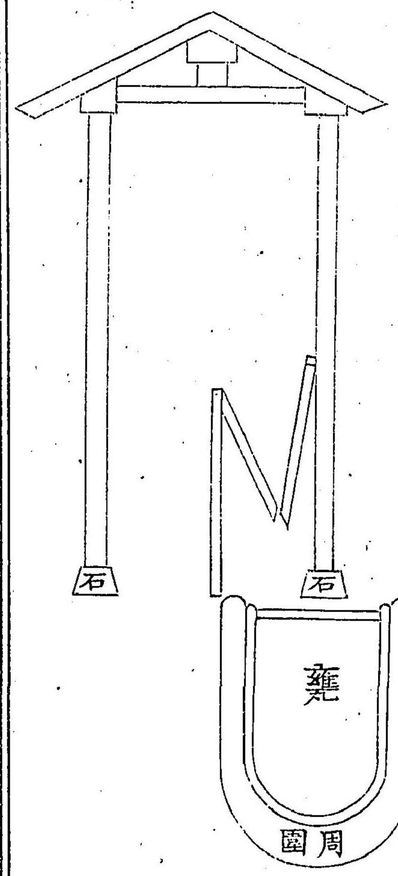
第八條　肥料ヲ得ルノ目的ヲ以テ厠圊ヲ設置セントスルモノハ此規則ニ從ヒ戶長衛生委員ノ奧書ヲ以テ第二條ニ依リ屆出テ認可ヲ受クヘシ但其費用ハ都テ本人ノ負擔タルヘシ

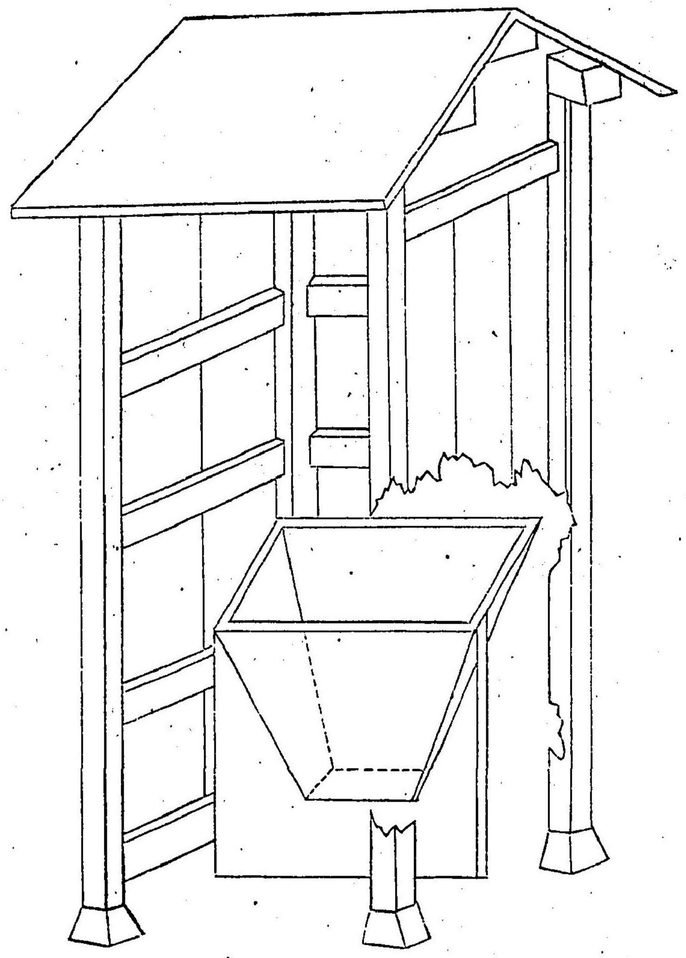
第九條　厠圊ハ巡査ヲシテ時々視察セシメ若シ掃除其他ヲ怠ル者アルトキハ之ヲ督促セシムヘシ

大便所側面



小便所側面





○乙第六十四號　明治十二年八月十八日　郡戸長役場

夫婦虎列刺病ニ罹リ送院ノ節乳兒等有之モノハ其家族及ヒ親戚ノ者ニ於テ引受候ハ勿論ノ事ニ候得共萬一他ニ可引受者無之向ハ乳母或ハ養育婦等ヲ見立養育方取計ハセ費途ノ儀ハ一時操替置貧困ノ者ニ限リ追償致サヽル儀ト可相心得此旨相達候事

○乙第二十八號　明治十八年二月十三日　郡戸長役場

傳染病豫防消毒法之儀ハ追々相達置候處明治十五年四月更ニ豫防心得書諭達候ニ付テハ從前ハ豫防法ハ總テ消滅ニ屬シ候條右心得書ニ據リ調製シタル消毒藥ハ十三年五月第二十三號布告ニ準據シ販賣セシムヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○乙第百五十號　明治十八年十二月十七日　郡戸長役場

虎列刺病豫防ノ爲メ便所下水及惡水ノ滯滯等ハ此際充分浚渫疏通シ一層清潔ナラシムヘキ旨今般諭達候ニ付テハ臨時掛リ官員ヲ派出シ實際視察爲致候儀モ有之候ニ付各町村ニ於テ怠慢ナク施行候樣嚴重取計フヘシ此旨相達候事

○丙第二十九號　明治十九年五月二十九日　郡役所

虎列刺病豫防消毒心得書別冊ノ通相示シ候條明治十五年四月廿五日付諭達傳染病豫防心得書ト參互シテ其機變ニ應シ處置スヘシ此旨相達候事

虎列刺病豫防消毒心得書

傳染病ヲ撲滅若クハ豫防スルニハ頗ル機會時期ヲ失ハサルヲ必要トシ其機會時期ナルモノハ發生ノ當初ニ在ルハ方今一般ノ定論ナリ先年來我邦ニ於ケル虎列刺病ノ流行猖獗ヲ極メタル事實ニ就テ觀察スルモ其初發即チ僅々二三ノ患者ニ過キサルノ時ニ於テ活潑ノ手段ヲ以テ迅速之カ撲滅ニ着手シ且其消毒法ノ綿密周到セルモノハ常ニ良結果ヲ呈シ流行猖獗ニ至ラス又未タ該病發生ヲ見サル所ニ在テハ清潔其他ノ豫防法ヲ施行シ遂ニ其傳染ヲ免レシハ其類例乏シカラストス然レトモ其初發ニ於テ消毒ヲ忽諸シ豫防ヲ等閑ニシ即チ機會ヲ誤リ時期ヲ失スルトキハ忽チ毒焰四方ニ散蔓シ其勢猛烈容易ニ挫折セサルニ至ル昨年八月該病初メテ長崎ニ輸入セルヤ病勢頗ル猛劇ナルニモ拘ハラス幸ニ其慘毒ヲ逞フセシハ長崎一縣ニ止リ終ニ撲滅ニ皈セリ然ルニ本年ニ至リ餘孽再ヒ萌動シ其病勢ノ猛劇ナル恰モ前年ニ讓ラザルノ兆ヲ呈セリ時候日ニ温暑ニ向フニ際シ其宿留スル毒苗ハ何ノ地ニ發芽センモ測リ知ル可ラス若シ一二特發患者ヲ見ルニ當リ假令有病地ヲ距ツル數百里ノ地方ナルモ厚ク之レカ注意ヲ加ヘ嚴重防遏ノ處置ナカル可ラス左ニ昨年來經驗セル豫防消毒法ノ要領ヲ列記シ其方法順序ヲ示スヿ爾

第一章　撲滅法

第一條　虎列刺病者發シタルトキ其消毒撲滅法ヲ實施スルハ府縣廳アルノ市街ニ於テハ巡査等主トシテ擔當スルモノナレトモ之ヲ監督スルハ必ス經驗ニ富ミタル警部若クハ衛生課員ニ於テ擔任シ又郡廳アルノ地ナレハ警部若クハ郡書記之ヲ監督セサル可ラス其實務者ノミニ放任シテ其監督ヲ怠ル時ハ爲ス所ノ方法其肯綮ニ中ラス力ヲ勞スル多クシテ効ヲ奏スル少ナク財ヲ費ス夥クシテ績ヲ收ムルヿ寡ナシ況ヤ豫防消毒ノ不充分ナルトキハ其害一所ニ止マラス忽チ病毒ヲ四方ニ散亂シ其危害ノ及フ所浩大ナルニ於テオヤ

發病者アルトキハ直ニ成規ノ像防消毒法ヲ實施シ置キ傍ラ其患者ハ傳染性ナルヤ特發性ナルヤヲ明ムル爲メ左ノ事項ヲ問フヿヲ要ス

一　發生ノ時日

二　發病前當人及家内ノ者他ノ該病アル所ヘ行キシコトアリヤ

三　該病アル所ヨリ物品ノ來リシモノナキヤ

四　近頃該病アル地ヨリ客來若クハ職人婢僕ノ傭入ヲ爲セシコトナキヤ

五　曾テ其家ニ該病アリシコトナキヤ

六　曾テ近隣ニ該病アリシヤ又ハ現在該病アリヤ

以上ヲ質問シ該病ニ傳染シタルヤ否ヲ判明スヘシ但シ若シ傳染ノ系統正シク知レサルモ決シテ豫防消毒ニ怠ル可ラス當時傳染ノ證迹詳ナラサルモ後日ニ至リテ之ヲ發見スルヿアリ又終ニ傳染ノ迹詳ナラサルモ之ヨリ他ヘ傳染スルヿアルハ往々見ル所ナレハナリ

第二條　傳染性ナルヿ判然タルカ若クハ傳染性ナルノ疑アル時ニ於テハ特ニ活潑ノ處置ヲ施シ嚴ニ他トノ交通ヲ絶チ患者ハ直ニ隔離シ充分ノ消毒法ヲ行ヒ一家限リニ之ヲ撲滅スルヲ要ス此場合ニ於テハ醫員ヲシテ近隣ヲ巡診セシメ飲食ヲ戒愼シ攝生法ヲ諭示スル等諸般ノ注意ヲ爲シ又下利患者アレハ速ニ其手當ヲ施スヘシ

第三條　前條ヨリ追々各所ニ傳播ノ兆アルトキハ第二條ノ方法ヲ充分施行スルハ勿論且一局部限リ斷遮シ得ヘキ場所ハ之カ遮斷ノ手續ヲ爲シ又檢疫委員ヲ設ケテ必要ノ場所ヘ派出シ豫防上ニ於テ各所互ニ脉絡ヲ通セシメ傳播ノ媒介ヲ爲スヘキ貧民ニハ嚴ニ取締ヲ爲シテ病毒ノ散蔓ヲ防キ一般下利患者ニ注意シ消毒ハ必ス委員ニ於テ監督シ消毒後ノ糞池ニ蛆虫生存スルカ如キ粗漏ナカラシメ未タ病毒ノ旺盛ナラサルニ先チ迅速撲滅スルヲ力ムヘシ

此場合ニ於テハ祭禮等人民群集飲食スル事項ニ注意シ又醫師ヲシテ吐瀉ノ患者ヲ屆出サシムルヲ要ス

第四條　隣府縣及交通アル府縣ニ虎列刺病アリテ自府縣ヘ患者及死者ヲ輸入シタルトキ又ハ歸府縣後發病シタルトキニ於テハ第二條第三條ノ方法ニ依リ充分撲滅ヲ力ムヘシ

第五條　隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行スルノ通知ニ接スルトキハ直ニ其船舶ノ交通アル要港ヘ主務吏員ヲ派出シ傳染病豫防規則第十三條ニ據リ充分注意セシメ若シ患者アルヲ探知シタルトキハ第二條第三條ニ依リ速ニ處置スヘシ又下宿、旅人宿、殊ニ木賃宿、安泊等ニハ日々主務吏員ヲ派遣シ行旅人ノ該病毒ヲ齎シ來ルモノナキヤ否ニ注意セシメ又檢疫ニ便ナル爲ニ該病流行地ヨリ來リ宿スルモノアルトキハ之ヲ屆出サシムルヿヲ要ス

第六條　自府縣ニ於テ該病流行ノ時ハ速ニ隣府縣及船舶ノ交通アル府縣ヘ電報シ豫防ニ便利ヲ與フヘシ

第七條　學校、旅宿、下宿屋、製造所、人足部屋、貧院、囚獄等ノ如キ多人數群居スル家ニ該病發生シタルトキハ先ツ同室者ノ外出散亂ヲ禁シ直ニ患者ヲ隔離シ其家ニハ消毒ヲ充分施行シ其同室者ハ一々入浴セシメ同室者ノ衣類夜具ノ汚染シタルモノハ相當ノ消毒ヲ爲シ衣類夜具等ノ汚染セサルモノモ悉ク日光ニ暴露シ殊ニ飲食物ニ注意シ且患者ヲ隔離シタル日ヨリ起算シ五日間同所ニ滯留セシメ他ト交通ヲ絶チ其中ヨリ患者ヲ生セサルヤ否ヲ試ムヘシ若シ其場所狹隘ナルカ又ハ都合ニ依リテハ他ノ一家ヲ以テ之ニ充テ其家ニ分居セシムルカ若クハ悉ク其家ニ移シ居ラシムルモ妨ナシ

又同縣内ニ該病流行スルモ未タ前項ノ如キ群居ノ場所ニ侵入セサルトキハ其健康ヲ保ツヘキ攝生法ヲ諭示スルハ勿論飲食物ニ注意セシメ醫員ヲ派出シテ該病ノ有無ヲ糺シ若シ該病ノ疑アルモノアルトキハ速ニ之カ豫防ノ處置ヲナスヘシ

第八條　日本形諸船舶（瀛船風帆船ニ係ル處置ハ別ニ訓示アリ）漁舟及瀛車中ニ該病者アリタルトキハ其吐瀉物ヲ何ノ所ニ棄タルカヲ糺シ若シ河中ニ投棄シタル時ニハ其處置ヲ爲シ患者ハ可成陸上ヘ隔離シ其同船者ハ消毒ノ上時宜ニ由リテハ該船中ニテ交通ヲ絶タシメ又自宅ヘ歸リタル者ハ

該家ニ於テ交通ヲ絶タシメ病毒ノ有無ニ注意スヘシ

漁車中ニ該病者アリタルトキハ患者ハ直ニ隔離シ一時同車シタル者ヲ止メ置キ相當ノ消毒ヲ爲シ宿所氏名並其行先ヲ記載シ置クヘシ

河川ニ沿フタル市街ニ於テ該病流行スルトキ又ハ其市街ニハ該病流行セサルモ該病者死者アル船舶入津スルトキハ總テ船舶ヲ下流ニ碇泊セシムルヲ要ス

第九條　排泄物ヲ河中芥溜等ニ投棄シタルヲ認知シタルトキハ河中ナレハ其下流ニ於テ五日以上其河水ヲ飲料洗濯用トスルヲ止メ芥溜等ナレハ其塵芥ヲ燒棄若クハ消毒ノ上一定ノ場所ニ埋却スヘシ

第十條　惣雪隱、大糞池等ノ糞便ノ量多キ所ニ虎列刺病者上リタルトキハ粗製硫酸ヲ注キテ攪亂シ之ヲ汲取リ尙其跡及ヒ近傍ニハ强石炭酸水ヲ注キテ之ヲ洗ヒ其洗水ハ之ヲ汲取リテ海邊ナレハ退潮時ニ臨ミ陸地ヲ距ル一里餘ノ沖合ニ投棄シ海ニ遠キ土地ナレハ一定ノ場所ニ埋却スヘシ（一般ノ消毒ハ消毒ノ部ヲ參觀スヘシ）

惣雪隱等ニ病者上圍スレハ消毒スルニ困難ナルカ故ニ虎列刺病流行ノ場合ニ於テハ可成惣雪隱ニ上ラサル樣各家相當ノ方法ヲ設ケシムルヲ要ス

第十一條　患者アリタル家屋ハ消毒後疊ヲ上ケ所々ヲ開放シ充分日光空氣ヲ射通セシメ其後一般ニ拭淨スルヲ要ス且患者アリシ家ト日々直接交通アル近傍ノ下水ニ至ル迄消毒法ヲ施シ芥溜ヲ取除クヲ要ス

第二章　檢疫委員

第十二條　檢疫委員ハ第三條傳染性ノ該病傳播ノ兆アル場合ハ勿論第五條隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ傳播ノ恐アル場合ニ於テ之ヲ設クヘシ

第十三條　檢疫委員ヲ設置シタルトキ之ヲシテ取扱ハシムヘキ重ナル事項

第一項　第三條ノ場合ニ於テハ

一　病原ヲ探知シ傳染性ナルヤ否ヲ判別スルヿ

一　傳染性ナルヿ判然タルトキハ第三條第四條ニ依リ充分ノ處置ヲ爲スヿ

一　毒消藥欠乏セサル樣其給供ニ注意スルヿ

一　消毒藥ノ種類、分量、配合ニ注意スルヿ

一　消毒法ヲ實地ニ就キ監督スルヿ

一　必用ノ場合ニ於テ每患家ニ就キテ交通遮斷ノ取締ハ勿論一局部限リ遮斷シ得ヘキヤ否ノ鑑別及其實施ニ就キ取締リ監督スルヿ

一　遮斷地救助ヲ監督スルヿ

一　醫員巡診法ヲ經畫スルヿ

一　患者ヲ隔離シ又ハ同室者ヲ患者ヨリ隔離スルヿ

一　攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スルヿ

一　特ニ學校、旅宿、下宿屋、製造所、人足部屋、貧院、囚獄等ニ注意シ此等ノ場所ニ患者

アレハ迅速撲滅法ヲ施行スルヿ

第二項　第五條ノ場合ニ於テハ

一　隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ其病毒輸傳シ來ルノ恐アルトキ之カ豫防ヲ爲ス

ヿ

一　消毒藥及材料ヲ準備スルヿ

一　攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スルヿ

一　病毒ヲ齎シ來ルモノアレハ第一項ヲ併セ行フヿ

第十四條　檢疫委員及ヒ其他豫防ニ從事スル掛吏員ハ可成消毒衣ヲ作リ常ニ之ヲ着用シテ患者ニ接シタル毎ニ之ヲ脫シ充分消毒法ヲ行フヘシ

第三章　避病院

第十五條　避病院ハ病者ヲ治療スルト病毒ヲ他ニ散亂セシメス一所ニ隔離シテ豫防スルトノ二ツノ目的ヲ達スルカ爲ニ設クルモノナリ然ルニ動モスレハ避病院ヲ嫌忌スルノ惑ヲ惹クモノ間々之アルカ故ニ病者取扱方ニハ殊ニ親切ナルヲ要ス其看護者ニ於テハ最モ懇篤ヲ盡サヽル可ラス而シテ患者ニ面會ヲ申出ルモノアレハ叮嚀ニ取扱ヒ消毒ノ上歸ラシムヘシ

人口稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ準備シ置クヲ要ス而シテ第二條第三條ノ場合即チ傳染性ノ該病發生スルヿ際シテハ直ニ之ヲ開院スヘシ且村落ニ於テ

モ第二條第三條ノ如キ場合ニハ新ニ避病院ヲ設ケ又ハ相當ノ家屋ヲ避病院トシ患者ヲ隔離スヘシ其距離ハ道路ノ便ヲ計リ餘リ村落ニ遠カラサルヲ可トス

第十六條　第二條第三條傳染性ノ患者ハ殊ニ避病院ニ送ルヲ可トス且此種ノ患者ナラサルモ近隣貧民多キカ又ハ其家ハ廣キモ多人數群居スルカ又ハ狹クシテ自宅治療ヲ許スハ危險ナリト認ムルトキハ可成入院セシムルヲ要ス

第十七條　人口稠密ナル市內ノ避病院掛員ハ當直醫、調藥生、世話掛、各一員以上ヲ置キ且看護者、小使、排泄物取扱人ヲ分科シテ置カサルヘカラス又賄人ハ一切病室ニ立入ラシムヘカラス村落ニ於テハ之ニ準シ簡易ニスルモ妨ナシ

第四章　遮斷法實施

第十八條　虎列刺病毒ハ患者僅少ナル時期ニ於テ撲滅セス一旦散蔓セシムルトキハ之ヲ遏ムルヿ頗ル難シ故ニ其目的トスル所ハ之ヲ一人ニ於テ撲滅シ若シ一人ニ於テ撲滅シ能ハサル時ハ一家ニ於テ撲滅シ一家尙能ハサル時ハ一村一部落ニテ撲滅ス可シ其撲滅ヲ謀ルニハ第一交通ヲ禁シ病毒ヲ一所ニ遮斷シテ其場所ヨリ之ヲ他ニ流傳セシメサルヲ要ス交通遮斷ハ第二條傳染性ノ該病發生シタル場合ニ於テ一家ヲ遮斷シ第三條傳染性ノ該病追々他ニ傳播シタルノ場合ニ於テ必要ノ一局部ヲ遮斷ス

第十九條　市街ニ於テ遮斷ヲ實施シタルトキハ巡査等ヲ以テ充分交通ノ取締ヲ爲シ日用品ノ類ハ相當ノ取扱人ヲ設ケテ其用ヲ便セシメ其內部ニ在ツテハ時々入浴ヲ促シテ身体ヲ

清潔ナラシメ衣類、夜具、室内ハ常ニ日光空氣ニ曝サシメ日々醫員ヲシテ患者ノ有無ニ注意セシムヘシ村落ニ在テハ右ニ準シ適宜ノ取締法ヲ設クルヲ要ス

第二十條　終リニ患者ヲ出シタル日ヨリ起算シ少クモ五日以上ヲ經過シテ異常ナキトキハ遮斷ヲ解クヘシ但尚疑シキ場合ニ於テハ更ニ持久スルヿアルヘシ

第五章　消毒法

第廿一條　消毒法ハ消毒藥ノ種類幷用法行ヒ易キモノルノミナラス消毒濟ノ安心ヨリシテ其後ノ注意ヲ缺キ却テ蕃殖ヲ逞フセシムルノ憂ナシトセス故ニ主務吏員ニ於テハ其藥力ノ病毒ヲ殲滅シ得ヘキ適當ノ種類分量ニ從ヒ決シテ石炭酸ノ臭氣硫酸ノ沸騰等其現像ヲ皮相シテ消毒ノ濟否ヲ斷定スルノ不注意ナキヲ要ス

患者、死者、看護人及同室シタルモノニ一般消毒ノ注意及消毒法ノ種類

一　患者衣類、夜具、蚊帳等排泄物ニ汚染シタルモノ及汚染ノ疑アルモノ

一　看護人及同室者ノ衣類、夜具、蚊帳等排泄物ニ汚染シタルモノ及汚染ノ疑アルモノ

以上ノ物品ハ可成燒却シ然ラサレハ蒸汽ニテ一時間之ヲ蒸騰スルカ又ハ煮沸スルカ又ハ熟湯ニ浸シ一時間以上密蓋スルカ若クハ二十四時間强石炭酸水ニ浸スヘシ

一　患者ノ同室ニアリタル衣類、夜具、及同室者、看護者ノ衣類、夜具等ノ排泄物ニ汚染セサルモノハ日光ニ曝露シ且看護者、同室者ハ入浴シテ其身体ヲ清潔ナラシムヘシ

第廿二條　排泄物ノ受器及消毒

一　排泄物ノ受器ハ磁器ヲ第一トシ箱ニ而シテ其内ニ木炭又ハ灰ヲ入レ置キ吸收セシムルヲ可トス

一　其消毒ハ强石炭酸水石炭酸五分水百分强鹽化石灰水鹽化石灰四分水百分ヲ充分灌注シ然ル後燒却スヘシ

一　床上ニ吐瀉シタルトキハ之ヲ拭取リ而シテ其跡ハ强石炭酸水又ハ强鹽化石灰水ヲ充分注キ若クハ拭淨シ又ハ差支ナキモノハ可成燒却スヘシ其土間ニ於テスルモノハ吐瀉物ノ浸入セル部分ヲ堀取リ之ヲ燒却若クハ埋却シ其跡ニハ前同樣ノ消毒藥ヲ灌クヘシ

一　昇汞水第一格魯兒水銀一分ヲ水二千分ニ溶解スルモノ　ハ排泄物ノ全量ニ凡ソ其四分ノ一ヲ灌キ棒ニテ能ク攪和スレハ病毒ヲ撲滅スルノ偉効アレトモ猛毒ニシテ且無色無臭ノモノナルヲ以テ使用者ノ如何ニ由リ大害ヲ釀スヿアリ此故ニ使用者其人ヲ得テ排泄物ノ消毒ニ用ユレハ殊ニ其効アリトス但飲料水ニ滲透スヘキ場所ニハ決シテ撒布スヘカラス

第廿三條　家屋消毒ノ注意及消毒法

一　疊戸棚等一室内ニアルモノ

一　患者ノ入リタル厠房及病床ヨリ厠圊ヘ通行ノ路

一　同室ノ床板周圍ノ柱及建具ノ類

以上消毒ハ六時間以上亞硫酸豫防心得チコテ參觀スヘシ薰蒸シ又ハ弱石炭酸水石炭酸二分水百分若クハ弱鹽化石灰水鹽化石灰一分水百分ニテ拭淨シ又ハ之レヲ能ク撒布シ日光大氣ニ曝露スヘシ但疊ハ排泄物ノ染

ミ易キモノニシテ常ニ手ヲ觸レ或ハ食物等ノ落ツルコトモアレハ可成燒却スルヲ可トス

第廿四條　患者ト同室内ニアリタル諸器具及患者日用品ノ消毒注意及消毒法

一　同室内ニアリタル諸器具

一　患者ノ日々用ヰタル飲食器及其他ノ器具

以上消毒ハ熱湯ニ堪ユベキモノハ熱湯ニテ消毒シ貴重ノ品ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ大氣ニ曝露スル等相當ノ消毒ヲ爲スヘシ燒却シ得ヘキ品ハ可成燒却スルヲ可トス

第廿五條　該病毒ハ便所、下水、芥溜等不潔ノ場所ニ於テハ其發育殊ニ速カナルモノナレハ是等ノ所ヲ病毒ノ巣窟ト見做シ左ニ掲クル個所ハ一層精密ニ消毒シテ更ニ遺漏ナキヲ要ス

一　糞池及ヒ糞池ノ周邊

一　下水殊ニ不潔壅塞シタル下水又ハ排泄物ヲ流シタル疑アル下水

一　芥溜殊ニ臭氣甚シキ不潔ノ芥溜又ハ排泄物ヲ捨テタル疑アル芥溜

一　不潔ノ土間及椽先殊ニ吐瀉シタル疑アル土間

以上ノ消毒ハ粗製硫酸（同量ノ水ニ和シ大量ニ入ルヽヲ可トス但取扱上危險ノ場合アレハ殊ニ注意スヘシ）強石炭酸水、強鹽化石灰水ヲ灌注シテ攪亂シ若クハ撒布シ或ハ燒却若クハ埋却スヘシ

第廿六條　排泄物運搬器並ニ其人夫ノ消毒注意及消毒法

一　排泄物運搬ノ車若クハ箱或ハ之ニ附屬スルモノ

一　人夫ノ衣類草鞋ノ類

一　人夫ノ身躰

以上ノ消毒ハ排泄物運搬器及其附屬物ニハ強石炭酸水、強鹽化石灰水ヲ灌注洗淨シ人夫ノ衣類ハ之ヲ貸與シ其衣類ハ熱湯若クハ弱石炭酸水ニ浸シ人夫ハ其身躰ヲ弱石炭酸水ニテ拭淨シテ衣ヲ換ヘシムルヲ可トス其燒却シ得ヘキ草鞋ノ類ハ燒却セシムヘシ

前數章ノ外特ニ開港場ノ主務者ニ必要ノ個條

第一條　常ニ外國新聞若クハ外國ヨリ入港ノ船舶ニ依リテ直接交通アル外國港ニ該病流行ノ有無ヲ偵知スルヲ要スヽ而シテ該病流行ヲ偵知シ得タルトキハ直ニ内務省ヘ申報シ入港ノ船舶ニ注意シ内地ヘ病毒ヲ輸入セサルニ盡力スヘシ且何時ニテモ檢疫ヲ執行シ得ヘキ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二條　未タ海港檢疫ノ告示ナキニ先チ自縣ヘ入港シタル外國船（内國船ハ無論尋問シテ其有無ヲ知リ規則ニ據リ之ヲ處置スヘシ）ニ該病アルヿ明カナルトキ若クハ該病アル疑アルノ場合ニ於テハ船長若クハ領事ト協議シ其承諾ヲ經テ相當ノ手續ヲ爲スヘシ尤外務内務両省ヘ電報スヘシ且一般ノ豫防ニ付テハ其船舶ニ交通スル者ニ注意シ之カ取締ヲ爲シ又ハ上陸ノ者ニ注意シテ其交通セル人家ヲ取調置キ患者ノ有無ヲ偵知スヘシ

第三條　該病アルコト明ナル船舶若クハ該病アルノ疑アル船舶他縣ヘ向ケ進航セルトキハ其進航先キヲ取調其縣ヘ事情ヲ悉シテ電報シ以テ豫防ノ便ヲ與フベシ

○丁第百四號　明治十九年六月四日　郡役所

虎列刺豫防ノ義左ノ條項ニ依リ其實際ノ緩急ニ應シ便宜施行スヘシ此旨相達候事

但施行ノ都度其旨出屆ツヘシ

虎列拉病豫防方法

一　虎列刺病豫防掛ノ事

本病發生スルトキハ戸長役場筆生中一名乃至二名ノ豫防掛ヲ命スヘシ若シ蔓延ノ兆候アルトキハ臨時雇ヲ以テ之ヲ增加スルモノトス

但豫防掛ハ戸長之ヲ命シ其姓名ヲ郡長ニ申報スヘシ

二　看護夫並ニ排洩物運搬夫及小使ノ事

看護夫並ニ運搬夫小使等ヲ要スル場合ニ於テハ豫防掛ニ於テ之ヲ雇入ルヘシ

看護夫並ニ排洩物運搬夫日當ハ一日金三十錢ヨリ五十錢迄トス小使日當ハ一日金二十錢ヨリ三十錢迄トス

三　避病院ノ事

避病院ヲ開設スルトキハ傳染病豫防心得書第三十一條以下各項及虎列刺病豫防消毒心得書第十五條第二項ニ依ルヘシト雖先ツ人家稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ヲ準備シ置クヘシ且人家粗疎ナル村落ニ於テモ成ルヘク其備

ヘアルヲ要ス

但避病院ヲ開設スルトキハ其地ノ形勢及建家ノ圖面ヲ副ヘ縣廳ニ願出ツヘシ

四　火葬埋葬場及排洩物燒棄埋却所等豫テ之ヲ定メ置クヘシ

五　豫防線ノ事

本病流行ノ勢猛劇ニシテ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサヽル樣人馬ノ交通ヲ遮斷スルトキハ傳染病豫防規則第十五條ニ依ルベシ然レトモ其地ノ形勢ニ依リ一方ノ道路ヲ塞クト雖他ノ一方ニ之ニ換フヘキ道路アリテ全ク交通遮斷スルニ至ラサルトキハ便宜ニ之ヲ處置スヘシ

六　豫防費目大略左ノ如シ

一　檢疫所諸費　一　治療醫雇給及旅費　一　避病院諸費

一　諸備給　一　管內公衆ノ豫防ニ供スル消毒藥費

一　貧民施與ニ係ル藥餌及埋火葬費

右檢疫所諸費及治療醫雇給旅費並管內公衆ノ豫防ニ供スル消毒藥費ヲ除クノ外ハ成ルヘク町村費及寄附金ヲ以テ支辨セシメ其負擔ニ堪ヘサル所ハ地方稅ヨリ支出スルノ精神ヲ以テ之ヲ取扱フモノトス

但戸長役場ニ備ヘ置ク消毒藥費ハ町村費タルヘシ

七　鐵道沿路ヲ所轄スル郡役所ニ於テハ各停車場接近ノ地ニ檢疫出張所消毒所及避病院

ニ充ツベキ家屋ヲ準備シ置クヘシ

八　本病患者ニハ十五年八月本縣丁第百三十號達ニ據リ處方錄ヲ付與スヘシ

九　郡長ハ各戸長ニ示達シテ消毒藥ヲ備ヘ置カシムヘシ

十　傳染病豫防ノ爲メ戸長ハ毎月數回特ニ其部内ヲ巡回シ戸毎ニ就キ左ノ各項ヲ說諭シ處分セシムルモノトス

但事務ノ都合ニ依リ筆生若クハ雇ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得

一　塵芥糞桶等ヲ積置カシメサル事

但止ヲ得サルトキハ人家及道路河川等ニ隔リタル地ニ之ヲ積置カシメ日光ヲ防クニ足ルベキ覆蓋ヲナサシムヘシ

二　牛馬繫留場ヲ清潔ニ掃除セシムル事

三　下水其他ノ汚水ヲ疏通セシメ且糞便ヲ堆積セシメサル事

但糞桶ニハ蓋ヲナシ日出前日沒後之ヲ擔取

四　溷濁シタル飲料水ハ濾過シテ供用セシムル事

五　不熟ノ菓物及腐敗ニ傾ケル肉類ヲ販賣セシメサル事

六　魚屋青物屋湯屋豆腐屋藥物屋旅人宿劇場人寄席及學校等ノ近傍ハ特ニ清潔ナラシムル事

七　貧民多キ場所ハ右各項ニ一層注意ヲ要スル事

○乙第九十八號　明治十九年七月七日　郡役所　戸長役場

虎列刺病者發生シタルトキハ避病院ニ移シ隔離スヘシト雖自宅治療ヲ許サヽルヲ得サル場合ニ於テハ左ノ心得書ニヨリ可取扱此旨相達候事

虎列刺病者隔離法心得

一虎列刺病者發生シタルトキハ豫テ設置シアル避病院ニ移スヘシ然レトモ自宅治療ヲ許サヽルヲ得サル場合アルトキハ左ノ標準ニ依リ該家ニ於テ隔離法ヲ實行シ得ラルヽヤ否ヲ檢定シ差支ナキモノト認ムルトキハ之ヲ許可スルモ妨ケナシ

第一項　村落ニアル一戸建ノ家屋ニシテ其構内ニ別棟アルカ若クハ間數數多アリテ患者ノ居室ト家族ノ分居スヘキ室トノ間ニ空室アリ且其障壁モ完全ニシテ充分隔離シ得ラルヽモノ

第二項　家屋狹隘ト雖一戸建ノ家屋ニシテ家族ノ者ヲ他ニ避退シ得ラルヽモノ

第三項　長屋住居ト雖其家族及兩隣家ノ者ヲ他ニ避退シ得ラルヽモノ

第四項　連檐櫛比ノ地ニアル家屋ト雖一戸建ニシテ間口凡ソ五間奥行凡十間以上ニシテ第一項後段ノ如ク隔離シ得ラルヽカ若クハ之ニ準スル能ハサルモ兩隣家ノ者ヲ他ニ避退シ得ラルヽモノ

第五項　患者ヲ避病院ニ移スト自宅治療ヲ許ストヲ問ハス同居シタル者ハ之ヲ隔離セシ

ムル際相當ノ消毒法ヲ行ヒ其日ヨリ起算シ五日間他人ト交通ヲ絶チ其期日中異狀ナキトキハ交通ヲ許スヘシ但患者死亡シタルトキハ出棺シタル日ヨリ同居者ノ交通ヲ絶ツコト亦同シ

第六項　患者治癒ノ後始メテ他人ト交通ヲ許シ又ハ避病院ヨリ退出セシムル際ハ必ス沐浴セシメ石鹼水ヲ用ヒ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒シタル衣服ヲ着カヘ然ル後始メテ交通ヲ許スヘシ但看護人ノ他人ト接スルトキモ亦同シ

第七項　家族ノ看護ヲ乞フ者ハ素ヨリ許スヘシト雖可成一人若クハ二人ニ止メ時々交代セサル樣注意スヘシ

第八項　患者ノ居室及隔離者其他排泄物等ノ消毒方法ハ傳染病豫防心得書幷ニ虎列刺病豫防消毒心得書ヲ參互シ嚴重ニ施行スヘシ

○訓第三十五號　明治二十年二月八日　郡役所　戸長役場

客歲虎列拉病ノ發生スルヤ該病毒ハ殆ント全國ニ瀰漫シ患者十五万餘人死者十万餘人ノ多キニ昇レリ而シテ當縣下ノ如キモ患者九百十餘人死者六百二十餘人ニ至レリ蓋シ人事交通ノ頻繁ナル全ク病毒ノ竄入ヲ拒絶スル能ハサルニ及テハ當初ニ之ヲ撲滅スルヲ力トメ若シ撲滅シ能ハサレハ患者ノ數ヲ減シテ其禍害ヲ輕少ニ止ムルヲ以テ防禦ノ目的トナサヽルヲ得スト雖モ該病毒ノ性質タル傳ヘテ汚濕不潔ノ地ニ至レハ其蕃殖ヲ盛ニシ其慘毒ヲ逞フスルハ疑ナキ事實ナリ故ニ未發ノ時ニ於テ土地ヲ清潔ニスルハ豫防中最モ緊要ナリトス故ニ是迄屢々諭達達等ヲ發布シ之ヲ實施セシメタリ然レトモ從前ノ如キ系統ナキ下水溝又ハ其構造極メテ粗造ナル厠圊芥溜ニ對シ一時姑息ノ清潔法ヲ施行スルノミニテハ到底充分ノ効績ヲ收メ難キニ付今ヤ病毒蟄伏シテ其未タ萌動セサルニ先タチ市街ナナシタル地ハ勿論市街ヲナサスト雖モ人家稍稠密ノ場所ハ別冊構造法ニ倣ヒ改修ニ著手シ清潔除害ノ効績ヲ奏シ客歲ノ殘毒ヲシテ再發セシメサル樣厚ク注意スヘシ

右訓令ス

下水溝構造法

此構造法ハ單ニ模範ノ概容ヲ示スモノニ付キ土地人家ノ疎密ニヨリ簷溜及下水等ノ量積ニ從テ其構造ヲ廣大ニシ或ハ之ヲ狹少ニスルコトヲ得然ル時ハ石材ノ厚薄モ亦之ニ稱フヘシ但第三圖ニヨリ構造スル時ハ板ノ厚サヲ一寸以上ニナスハ妨ケナシト雖モ一寸以下ノモノヲ用ユヘカラス

第一圖

本圖ハ内法リヲ方一尺五寸トシ左右土留ハ長サ一尺五寸巾一尺厚サ六寸五分ノ切石ニシテ底敷ハセメント、野石トヲ混交シ凹凸ナク堅固ニ凝結セシメ以テ下水ヲシテ阻滯壅塞セシメサルヲ要ス蓋板ハ幅一尺八寸厚サ一寸ノ木材ニシテ其反仰セサル爲メ長三尺毎ニ横棧ヲ打ツ其間數一間ニ要スル木石材料ノ積リ概ヲ左ノ如シ

一 切石　十五切六分
一 野石及セメント　二勺八才
一 木材　尺〆五厘六毛

第二圖

本圖モ内法リハ同上ニシテ只左右土留及底敷ヲ煉瓦石ニテ構造スルモノナリ其煉瓦石ハ長七寸巾三寸五分厚二寸ノモノヲ用ユ蓋板ノ構造ニ至リテハ第一圖ニ同シ其間數一間ニ要スル煉瓦石及木材ノ積リ概子左ノ如シ

一 煉瓦石　五百四本
一 木材　尺〆五厘六毛

第三圖

本圖モ内法リハ同上ニシテ只悉皆木材ニテ構造スル者ナリ而シテ其左右土留ハ巾一尺五寸厚サ一寸ノ板ニシテ底敷モ亦同寸ノモノヲ用ユ蓋板ノ構造第一圖ニ同シ其間數一間ニ要スル木材ノ積リ概子左ノ如シ

一 木材　尺〆二分九厘六毛

但以上ノ構造ヲ施スコト能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ス他ノ方法ヲ以テ構造スルコトヲ得ルト雖モ一切ノ汚水雨水ヲ阻滯壅塞セシメスシテ之ヲ無害ノ地若クハ河川ニ排除スルノ方法ヲ設クヘシ

厠圊構造法

厠圊構造法ハ明治十六年六月本縣甲第七十三號布達市街厠圊構造規則第五條ノ各項ヲ適用スヘシ

但本項ノ構造法ヲ施スコト能ハサル場合ニ於テハ止ムコトヲ得ス他ノ方法ヲ以テ構造スルコトヲ得ルト雖モ厠窩及其周圍ノ屎尿ヲシテ地中ニ滲透セシメサル樣構造スヘシ

芥溜構造法

芥溜ハ厚サ一寸以上ノ木材ヲ以テ供用者ノ多少ニヨリ便宜末圖ノ如キ箱ヲ調製シ塵芥ノ掃除及運搬ニ便ナルヨウ構造スヘシ

但此構造ヲ施スコト能ハサル場合又ハ一家用等ノ分ハ適宜他ノ塵芥受器ヲ換用スルモ妨ケナシト雖モ汚汁ヲシテ地中ニ滲透セシメ若クハ日光雨露ニ暴觸セシメサル樣設置スヘシ

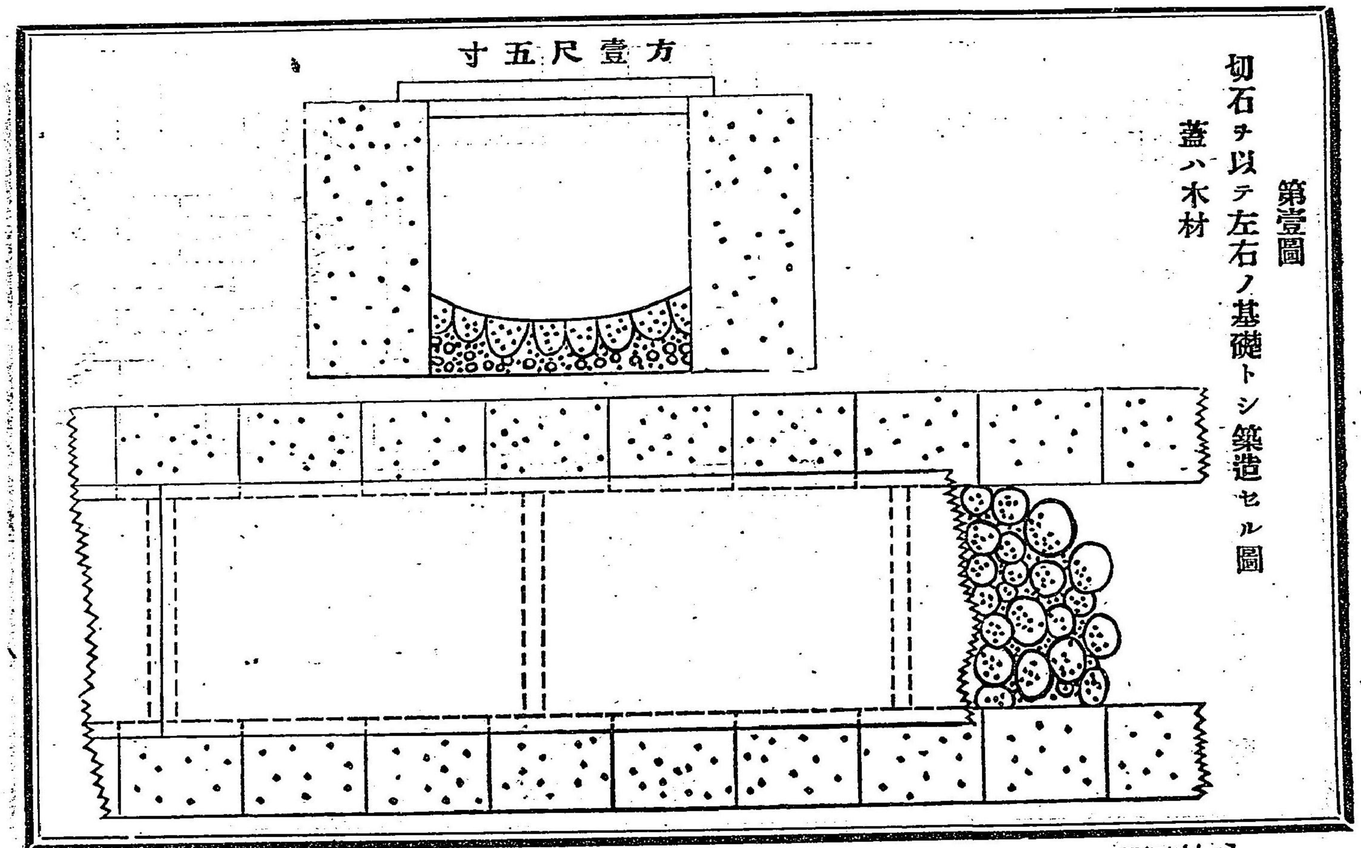
一 厨下若クハ洗濯場浴場其他ノ汚水ヲ排洩スヘキ小下水ハ土管若クハ一寸以上ノ板ヲ用ヰテ之ヲ構造シ相當ノ勾配ヲ付シテ大下水ニ流注セシムヘシ

一 地形ニ依リ小下水ノ流末大下水ニ注瀉スルコト能ハサル場合ニ於テハ堅牢ナル汚水溜ヲ伏セ置キ時々掛取ラシムヘシ

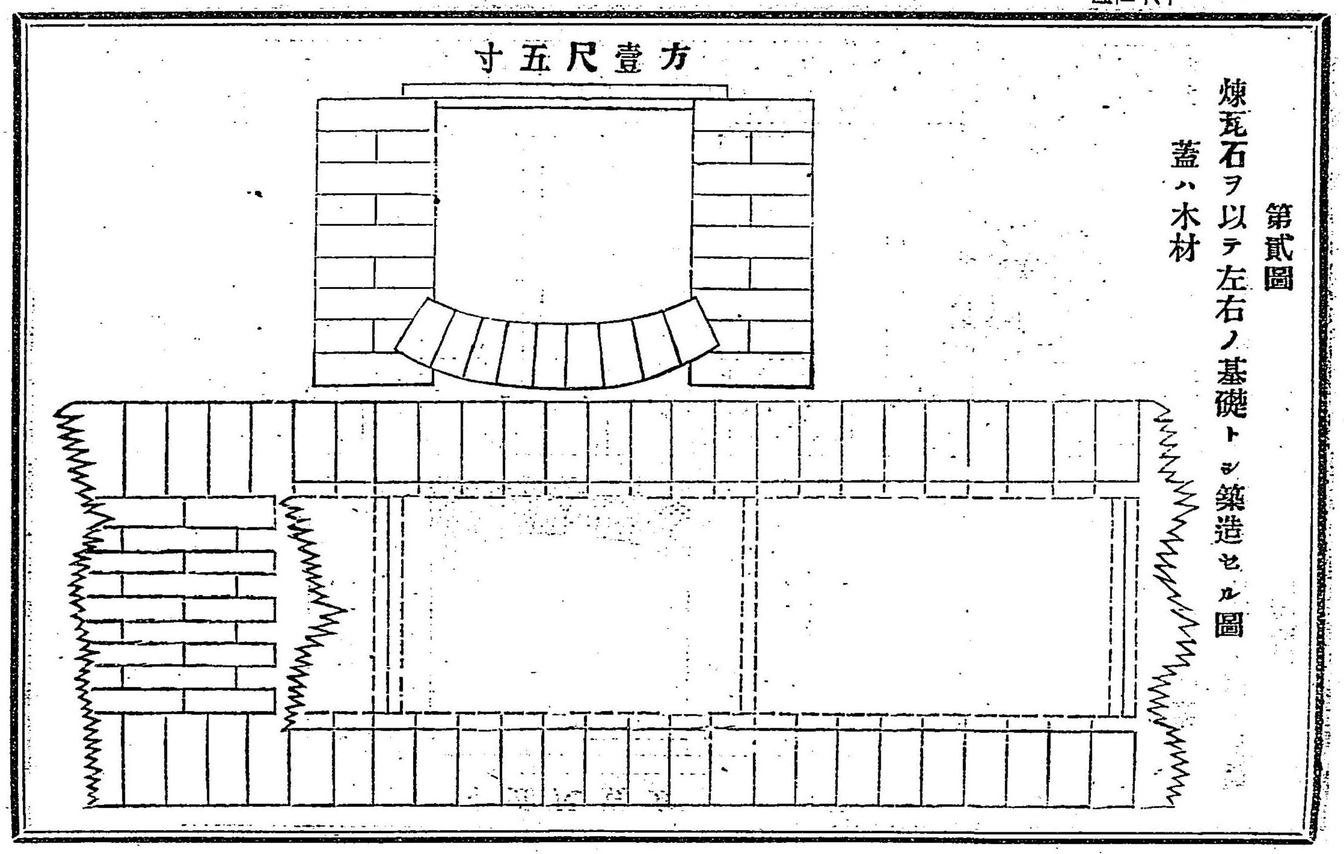
一 井邊ノ小下水及汚水溜ハ其構造ヲ特ニ堅牢ニシ汚水ノ滲透ヲ防クヘシ

第四圖

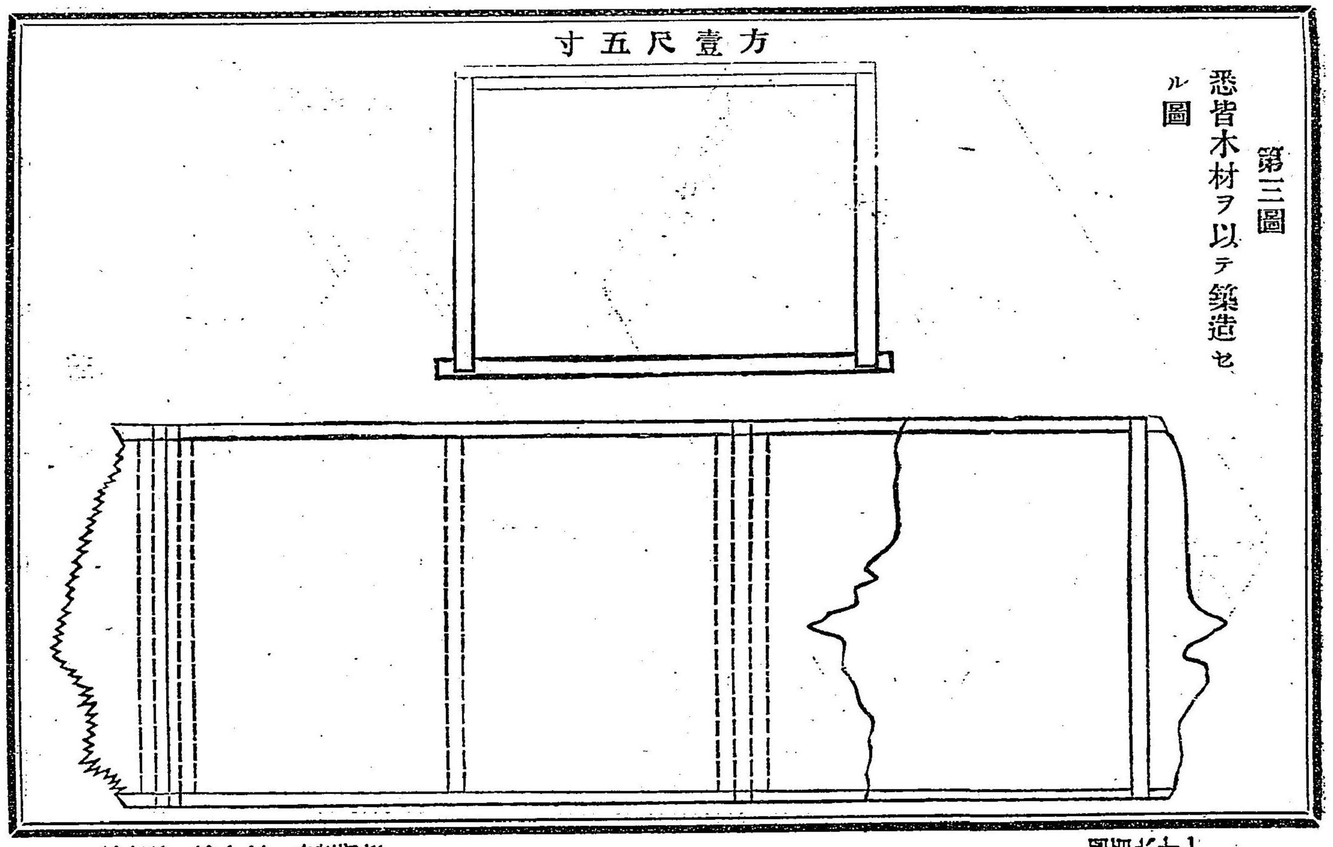
本圖ハ地形ニ依リ土管ノ内徑ハ適宜之ヲ用フヘシ而シテ其構造法ハ陶口相接合スル所ニ十分セメントヲ合マシメ密着固結シテ一繩ノ如クシ互ニ分離セシメサルヲ要ス



第壹圖
切石ヲ以テ左右ノ基礎トシ築造セル圖
蓋ハ木材



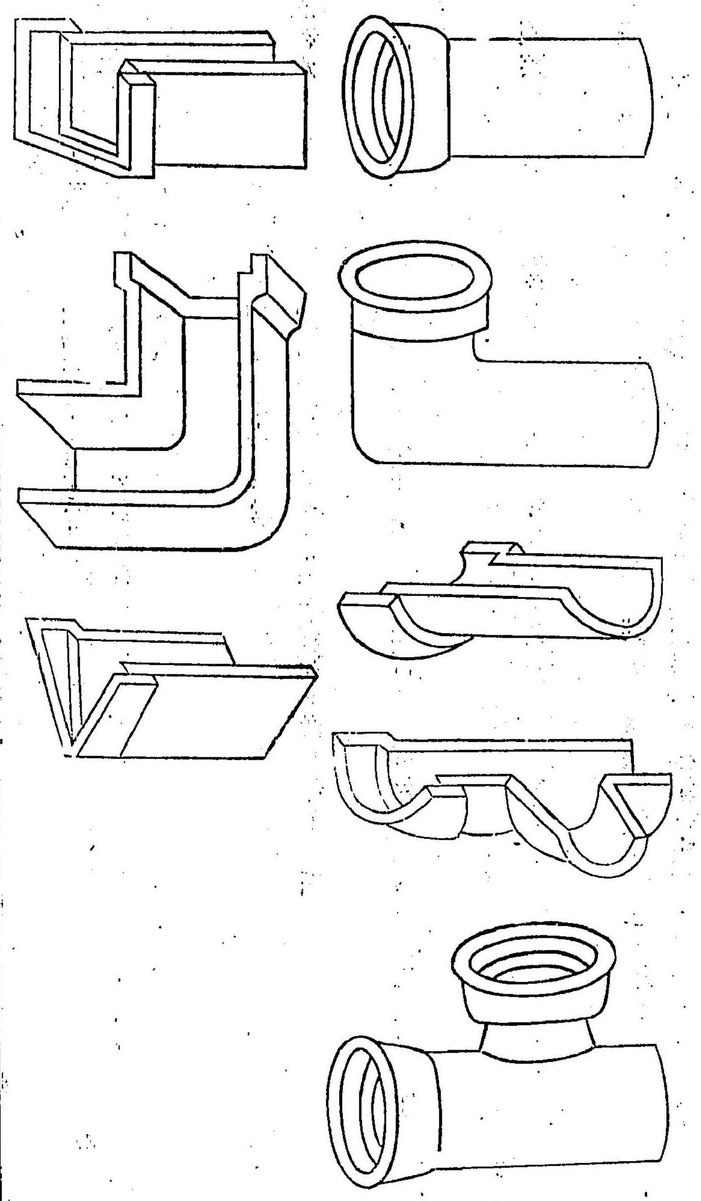
第貳圖
煉瓦石ヲ以テ左右ノ基礎トシ築造セル圖
蓋ハ木材



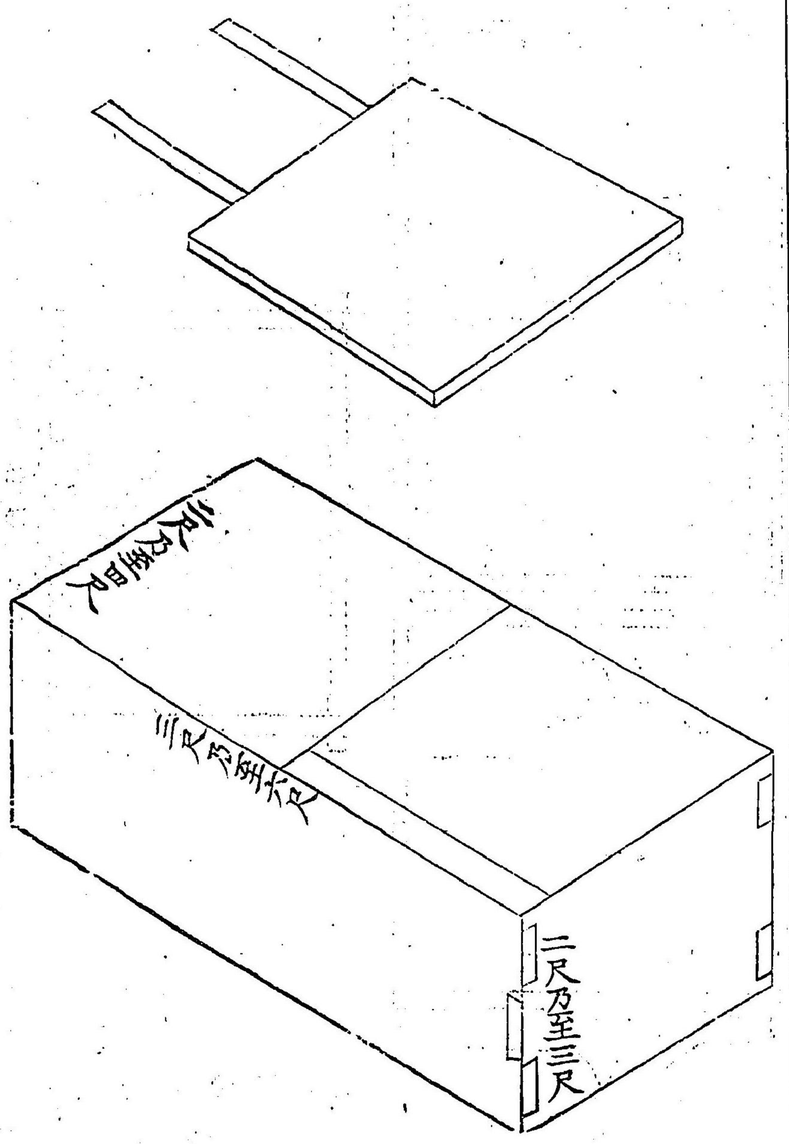
第三圖
悉皆木材ヲ以テ築造セル圖

第四圖

土管ハ尾州常滑燒ヲ好トス



芥溜



○訓第三十九號　明治二十年二月十八日　郡役所　戸長役場

本年二月訓第三十五號ニ依リ下水溝ヲ新設若クハ改良スルニ當リ測量又ハ工事ニ關シ專業家ノ監督ヲ要スルトキハ土木課ニ請求スヘシ

○訓第三十八號　明治十九年九月廿八日　郡役所、警察署　警察分署、戸長役場

飲料水ノ改良ハ片時モ忽セニス可ラサル儀ニ付左ノ改良手續ニ循ヒ施行スヘシ

飲料水改良手續

第一項　飲料水ヲ改良セン爲メ本年虎列刺病流行セシ町村中患者五人以上アル地ヨリ順次其試驗ヲ執行スルモノトス

第二項　衛生官吏ハ郡吏ヲ伴ヒ戸長役場ニ至リ戸長ト共ニ其町村内飲料水（井水又ハ川水等）ヲ巡回視察シ其水質善良及不善良ト認ムルモノ各十個所以内ヲ試驗シ其適否ヲ定ムヘシ

但其他ハ之ニ比較シテ鑑別ス

第三項　井側腐朽セルカ汚水滲透スルカ又ハ其他ノ事故ニ依リ飲水ヲ不良ナラシムルモノハ衛生官吏郡吏及ヒ戸長ノ面前ニ於テ其改良方法ヲ指示シ成功期日ヲ定メシムヘシ但川水又ハ湧泉ニシテ其堤防破壞汚水流注等ノ虞アルモノ亦同シ

第四項　衛生官吏ハ其改良方法書及ヒ成功期日ヲ取調郡長警察署長又ハ分署長ニ通報スヘシ

第五項　警察署長又ハ分署長ハ其通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ監督成功セシムヘシ

前各項ニ掲クル飲料水改良費ハ各自若クハ協議費ヲ以テ支辨セシムヘシト雖モ赤貧ニシテ其負擔ニ堪ヘサルカ又ハ一町村ノ共同ニ係ル者ハ町村衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

○訓第九號　明治二十年一月七日　郡役所　戸長役場

客歳九月訓第三十八號飲料水改良手續ニヨリ試驗ノ上飲用ヲ禁止シタル井戸ニ改良修繕ヲ加ヘ飲用ニ供セント欲スル者ハ更ニ試驗ヲ願出ツヘシ

○訓第四十二號　明治十九年十月八日　郡役所　戸長役場

寺院又ハ民家等一時避病院ニ充テ實際使用候者虎列刺病消滅ノ後平常ニ復セントスルトキハ本年五月本縣丙第廿九號達虎列刺病豫防消毒心得書ニ依リ消毒法ヲ施行シ其旨届出ツヘシ

但施行期日ハ其所轄警察署又ハ分署ニ通報スヘシ

○丁第百三十號　明治十五年八月四日　郡役所

郡傭醫並町村開業醫ニ於テ虎列刺患者治療候節ハ該患者ヘ左ノ書式ニ準シ處方錄付與候樣達方可取計此旨相達候事

處方錄用紙式

月日	處方名	藥劑數	主醫姓名	何郡何町村 姓名 年齡	病名

郡　役　所

○丁第百三號　明治十九年六月四日

虎列刺病治療醫必要ト認ムル場合ニ於テハ適任ノ醫師ヲ撰擧具狀スヘシ其日當ハ一日金壹圓ヨリ壹圓五十錢迄旅費ハ總テ郡書記旅費額ニ準シ支給スヘシ此旨相達候事

郡　役　所

○丁第百八十一號　明治十八年十二月三日

今般本縣甲第八十二號ヲ以テ傳染病屆出規則布達候ニ付テハ傳染病屆用紙ハ從前之通縣廳ヨリ下附候條此旨相達候事

但從前ノ屆用紙當分取交ヘ相用フヘシ

○甲第八十九號　明治十八年十二月廿三日

種痘細則左之通相定メ明治十九年一月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

種痘細則

第一條　種痘ハ春秋二期トス但天然痘流行ノ兆アルトキハ本期ニ拘ハラサルモノトス

第二條　種痘區ハ戸長役場部內ノ町村ヲ以テ之ニ充ツ但便宜ノ爲メ數區聯合スルモ妨ケナシ

第三條　戸長役場ニ於テハ毎期二月廿八日八月三十一日限リ未痘兒ハ勿論再三種セシムヘキ兒童ノ住所族籍姓名及年齡ヲ記セル調査簿ヲ製シ第一號書式ノ種痘書ヲ作リ種痘日以前ニ之ヲ接種スヘキ子弟アル家ニ配付スヘシ

第四條　戸長役場ニ於テハ種痘スヘキ時日ヲ其部內町村ニ告知シ且所轄郡役所ヘ報告スヘシ

第五條　種痘術ヲ施スヘキ醫師ハ當日種痘所ニ出張シ種痘兒ノ持參セシ種痘書ヲ受取リ之ニ接種スヘシ

第六條　醫師ハ種痘證劄印簿ヲ製シ痘兒ノ善感不善感ヲ檢診シテ之ニ記入シ善感不善感共ニ第二號書式ノ證書ヲ付與スヘシ但天然痘患者ヲ治療セシトキハ本條ニ準シ第三號書式

ノ證書ヲ付與スヘシ

第七條　戸長役場ニ於テハ醫師ノ割印簿ニヨリ調査簿ニ善感不善感ヲ朱記スヘシ

第八條　種痘當日ニハ戸長又ハ其代理者之ニ立會ヒ監督スヘシ但主務ノ郡吏巡視スルアルヘシ

第九條　種痘料ハ一回金拾五錢ヲ超過スヘカラス但貧困者ノ子弟ハ區内町村衛生費ヲ以テ種痘セシムヘシ

第十條　醫師ハ毎年二期自一月至六月自七月至十二月第四號式ノ表ヲ製シ毎期一月七月五日限リ戸長役場ニ差出スヘシ

第十一條　戸長役場ニ於テハ前條ノ種痘表ヲ整頓シ毎期一月七月十日限リ郡役所ニ差出スヘシ

第十二條　郡役所ニ於テハ種痘表ニヨリ第六號式ノ表ヲ製シ毎期一月七月十五日限リ縣廳ニ差出スヘシ

第十三條　此細則ニ於テ醫師ト稱スルハ從前種痘術ノミ免許セシ者ト雖之ヲ包含ス

第一號書式

種痘書

住所族籍
誰ハ幾男幾女或兄弟姉妹
姓　名
當何年何月

右當期内ニ於テ初再三種痘致スヘシ

年　月　日

何郡何町村(聯合)
戸長役場

第二號書式

證

番號

住所族籍
誰ハ幾男幾女或兄弟姉妹
姓　名
當何年何月

割印

初種　再種　三種　等ヲ朱印押捺スヘシ

左幾顆
右幾顆

右種痘濟(不善感)不善感ノ者ニハ種痘濟ノ文字ニ代フルニ不善感ノ文字ヲ以テスヘシ

年　月　日

何郡町村
醫師　姓　名　印

第三號書式

證

番號

割印

天然痘何年何月

住所族籍
誰幾男幾女或
ハ兄弟姉妹
姓名
當何年何月

右施治(撿案)候也

年月日

何郡町村
醫師 姓名 印

第四號表式

明治何年上半期
下

何郡町村番地
醫師 姓名 印

區別	滿一年以內	滿一年以上二年滿五年	滿二年以上五年滿十年	滿五年以上十年滿十五年	滿十年以上十五年以上	合計
初種 善感						
初種 不善感						
初種 疾病事故ニテ種痘セサルモノ						

區別	滿一年以內	滿一年以上二年滿五年	滿二年以上五年滿十年	滿五年以上十年滿十五年	滿十年以上十五年以上	合計
初種 善感						
初種 不善感						
初種 疾病事故ニテ種痘セサルモノ						
再種 善感						
再種 不善感						
再種 疾病事故ニテ種痘セサルモノ						
三種 善感						
三種 不善感						
三種 疾病事故ニテ種痘セサルモノ						
合計						

種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及ヲ感否ノ別附記スヘシ

明治何年上半期
下

何郡

再種	善感						
	不善感	疾病事故ニテ種痘セサルモノ					
三種	善感						
	不善感	疾病事故ニテ種痘セサルモノ					
合計							

種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記スヘシ

本表ハ郡内ノ總數ヲ掲ク故ニ一郡役所内數郡ニ渉ルモノハ毎郡一表ヲ調製スヘシ

疾病事故ニテ種痘セサルモノヽ調ハ滿十五歳以上ノモノヲ算入スヘカラス

郡役所
戸長役場

○乙第十五號　明治十九年二月六日

痘苗ヲ精製貯藏不致置候テハ臨時種痘差支ノ儀不少候間町村開業醫ニ協示シ左ノ方法ニ依リ毎年春秋兩度ニ下付スル痘苗ヲ種苗トシテ精製貯藏ノ方法相立臨時種痘差支無之樣取計フヘシ此旨相達候事

製苗貯藏法

痘苗ヲ精製貯藏スルニハ牛痘接種ノ良性人漿ヲ採收貯藏スルヲ第一ノ良法トナス其法タルヤ体質善良健康無病ノ嬰兒ニシテ善感良性ノモノヲ擇ミ接種後第八日漿液透明稍粘稠ニ至ル際之ヲ採收シ（痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避ケ痘面ヨリ斜メニ淺刺シ出血セシメサルヲ要ス）而シテ此痘漿一分ニ精製虞里私林清淨蒸溜水各一分ヲ加ヘ之ヲ攪和シ硝子毛細管ニ吸收セシメ封蠟ヲ以テ其両端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ

右方法ヲ以テ製苗貯藏スルトキハ半ケ年乃至一ケ年ヲ經過スルモ充分ノ効力ヲ保存スルヲ得ヘシ

郡役所

○丙第十一號　明治十九年三月二日

本縣ニ本月本縣乙第十五號ヲ以テ相達置候痘苗貯藏ノ數ハ各戸長役場ヨリ屆出サシメ左ノ表式ニ依リ統計表ヲ製シ毎年六月十二月ニ申報スヘシ此旨相達候事

表式

明治何年自何月至何月痘苗貯藏統計表　　何郡役所

戸長役場名	具	數	戸長役場名	具	數

○甲第九十一號　明治十八年十二月廿三日

地方病屆出規則左之通相定候條此旨布達候事

地方病屆出規則

第一條　地方病ハ脚氣瘧疾僂麻質斯（漢名痛風濕ノ類）ノ三種トス但此他ノ病症ト雖醫師ニ於テ地方病ト認ムルモノハ必ス屆出ツヘシ

第二條　醫師地方病患者ヲ施治セシトキハ毎年一月十日限リ第一號表式（脚氣患者ヲ療治セシトキハ第三號表式）ニ依リ前年中ノ表ヲ製シ患者所在ノ戸長役場ニ差出スヘシ但甲地ニ於テ病ニ罹リ療養中乙地ニ轉シテ療養スルモノハ人員重複スルモ之ヲ甲乙兩地ノ患者表ニ編入スヘシ

第三條　戸長役場ニ於テハ醫師ヨリ差出ス表ヲ取纒メ一月二十日限リ郡役所ニ差出スヘシ

第四條　郡役所ニ於テハ前條ノ表ヲ調査シ其病名（脚氣病ヲ除ク）ヲ區別シテ第二號表式ノ統計表ヲ添ヘ一月三十一日限リ縣廳ニ差出スヘシ

第一號表式

地方病患者表　明治何年何月　郡町村名　醫師　姓名　印

病名	患者所在郡町村名	職業	男女ノ別	氏名	年齡	發病月日	轉歸月日
何病							

合計何十何人內　男何人　女何人　死亡何人

本表ハ一病毎ニ之ヲ調製スヘシ

職業ハ各本人ノ現業ヲ記スヘシ若シ老幼等ニシテ職業ナキ者ハ無業ト記シ戸主ノ職業ヲ肩書スヘシ

第二號表式

何病患者統計表　明治何年何月　何郡役所

年齢＼種別	何郡		何郡		何郡		何郡		職業	何郡		何郡		何郡		何郡	
	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女	男	女
五年未満									公務								
十年未満									學術								
十五年未満									醫事								
廿五年未満									農耕								
十五年未満									商賈								
四十年未満									製造								
六十年未満									漁撈								
六十年以上									舟楫								
合計									採礦								
死亡									力役								
									諸業								
									無業								
									合計								
									患者所在ノ町村數								

本表ハ一病毎ニ調製スヘシ

第三號表式

脚氣患者表

明治何年何月

郡町村名　醫師姓名　印

郡町村名	職業	男女別	姓名	年齢	發病月日	轉歸月日						

合計何人　內　男何人　女何人　死亡何人

本表ノ職業ハ地方病患者表ノ記入方ニ同シ

○甲第七十六號　明治十四年八月三十日

飲食物玩弄品ノ着色ニ近來アニリン（俗稱唐紅）其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ用ヒ往々其毒ニ中リ危難ヲ致スモノ有之右ハ衛生上ノ妨害不渝候ニ付自今左ニ列記スル品類ノ外他ノ着色料相用候儀不相成候條此旨布達候事

第一類　飲食物玩弄品ニ用フル着色料

ベンガラ〔鐵丹即第二酸化鐵〕猩臙脂〔コチニールヲ以テ製スルモノ〕○茜草○蘇木○日本紅〔小町紅笹紅ノ類ニテ紅花ヲ以テ製スルモノ〕黃柏○泊莫蘭（サフラン）○山梔子○ズミ並煉ズミ〔サワ梨ノ皮ヨリ製スルモノ〕鬱金粉〔但鬱金砂ハ毒アリ用フヘカラス〕日本藍○青黛○青粉〔野菜ヨリ製スルモノ〕末茶紫根○木炭○油煙○金箔○銀箔

以上單味或ハ調合シ用フルモ妨ケナシ

第二類　玩弄品ニ用フル着色料

胡粉〔炭酸石灰〕○眞鍮箔○銅箔○錫箔〔嬰兒ノ舐メヘキ品ニ用フヘカラス〕角粉○石膏○砥ノ粉○黃土○代赭石○麒麟竭○玉墨○群青

以上及第一類ノ內單味或ハ調合シ用フルモ妨ケナシ

右ノ外使用シタキ者ハ檢査ヲ受クヘシ

郡役所
戶長役場

○乙第七十七號　明治十九年六月二日

飲食物ニ蠅類ノ點集スルハ飲食物ヲシテ不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病毒傳播ノ媒介ト爲ルノ虞アルニ付店頭ニ露列シ又ハ行商スル飲食物ニシテ直チニ食用ニ供スヘキモノニハ適宜ノ覆蓋（フクガイ）ヲ設ケ候樣各營業者ニ達スヘシ此旨相達候事

郡役所
戶長役場

○乙第八十三號　明治十九年六月十二日

市街ニ於テ每戶簷前ニ備置候防火水ハ尤モ緊要ニ候得共溫暑ノ候ニ至リ屢其水ヲ交換セサルトキハ腐敗ニ傾キ病毒ヲ釀生セシムルヤノ虞アルニヨリ之ヲ街路ニ撒布シ新水ト交換爲致候得ハ傍ラ砂塵ヲ防壓シ夏時衛生上功益不少ニ付時々交換候樣持主ヘ諭示可致此旨布達候事

郡役所
戶長役場

○乙第八十四號　明治十九年六月十八日

市街ニ於テ每戶簷前ニ防火用水ヲ備置クハ尤モ必要ニシテ溫暑ノ候ハ時々其水ヲ街路ニ撒布市中ノ塵埃ヲ鎭壓シ以テ衛生上ノ有害ヲ防クヘク加之平素ハ防火之用ニ供スルヲ得兩樣之便益有之候得共人家密接之市街地ニシテ未タ其備ナキモノ往々有之ニ付右用水ハ每戶可成一個以上備置候樣諭示可致此旨相達候事

○第二款　衛生會醫會及病院

○甲第十一號　明治十三年一月廿九日

明治十二年十二月　地方衛生會規則左ノ通御達有之候ニ付此段爲心得布達候事

地方衛生會規則

第一條　本會ハ地方衛生ノ全体ヲ視察シ人民ノ健康ヲ保持增進スルノ目的ニシテ府知事縣

令ヲ補翼スルガタメ設立スルモノトス

第二條　本會ハ左之人員ヲ以テ之ヲ編成ス

醫師三名乃至五名

府縣會議員三名

公立病院長

公立病院藥局長

衛生課長

警察官一名

第三條　本會ハ府知事縣令ノ管理ニ屬シ其委員ハ知事令之ヲ命ス

但醫師ハ府縣會議員ヲシテ管内ノ開業醫師ヲ公撰セシメ府縣會ヨリ出ス所ノ委員ハ其府縣會ニ於テ之ヲ公撰セシム

第四條　會長ハ府知事縣令之ニ任シ副會長ハ委員中ヨリ投票ヲ以テ之ヲ撰定ス

第五條　公撰委員ノ在任ハ滿二ケ年トナシ滿期毎ニ之ヲ改撰ス

但前任ノ者ヲ再撰スルヿヲ得

第六條　委員ノ外書記一名若クハ二名ヲ命シ本會ノ雜務ヲ處辨セシム

第七條　委員ハ俸給ナシ但開會ノ地ヲ距ル三里以外ニ住スル者ニハ相當ノ旅費ヲ給シ又非職無給ノ者ニハ相當ノ手當ヲ給スルヲ得

第八條　本會ハ少ナクモ毎月一回之ヲ開クモノトス

但臨時又ハ至急ヲ要スル事件アル時ハ會長ノ招集ニ應シテ之ヲ開キ又委員半數以上ノ請求ニ依テ之ヲ開クヿヲ得

第九條　本會ニ於テ議定スヘキ事件左ノ如シ

一　衛生上ニ關スル布告布達等ヲ該地方ニ實施スルノ方法

二　府縣ニ於テ發行スヘキ衛生ニ關スル布達々草案

三　府知事縣令ヨリ發セル議案幷ニ中央衛生會内務省衛生局及ヒ郡區町村衛生掛ノ尋問ニ係ル事項

第十條　本會ハ各郡區役所ヨリ府縣廳ヘ上申セル衛生上ノ諸報告等ヲ檢察スヘシ

第十一條　本會ハ該地方ニ實施スヘキ衛生事項ニ就キ其考案ヲ府知事縣令ニ建議スルヿヲ得

第十二條　本會ハ該地方ノ衛生上ニ關スル實況ヲ檢察スルカタメ擔當吏員ノ派出ヲ府知事縣令ニ建議スルヲ得

第十三條　本會ノ議事筆記ハ時々之ヲ内務省ニ報告スヘシ

○甲第八十一號　明治十六年八月十日

町村衛生會規則左之通相定候條此旨布達候事

町村衛生會規則

第一條　本會ハ町村衛生事項ヲ商議スルモノトス其概目左ノ如シ

一　居宅市街道路下水便所等清潔ノ方法

二　飲料水改良ノ方法

三　貧民救療ノ方法

四　傳染病豫防ノ方法

五　衛生ニ關スル布達達等實施ノ方法

第二條　本會ハ各町村若クハ數町村聯合シテ之ヲ設置スヘシ

第三條　本會ハ二十名ヨリ多カラサル左ノ人員ヲ以テ組織シ町村會ニ於テ之ヲ撰擧セシメ其姓名ハ郡長ヲ經テ縣令ヘ申報スヘシ但其地ニ開業醫ナキトキハ他ヨリ撰擧スヘシ若シ已ヲ得サルトキハ之ヲ欠クコトアルヘシ

衛生委員

町村會議員

開業醫師

町村衛生組長

第四條　會員ノ任期ハ二ケ年トス但前任者ヲ再撰スルコトヲ得

第五條　會長副會長ハ會員中ヨリ公撰スヘシ

第六條　本會議事ノ細則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　本會ハ會期ヲ定メス商議ヲ要スル事件アルニ當リテ戸長之ヲ開ク又會員半數以上ノ請求ニ依テ之ヲ開クコトヲ得但日數ハ一週日以内トス

第八條　本會ノ議案ハ戸長衛生委員協議ノ上編製シテ戸長之ヲ發スヘシ

第九條　本會ノ評決ハ郡長ヲ經テ縣令ニ申報スヘシ

第十條　本會ノ評決ヲ以テ建議ヲナサントスルトキハ縣令又ハ郡長戸長ニ差出スヘシ

第十一條　會長副會長及會員ハ給料ナシ但會期中日當額及其給否ハ町村會ノ決議ニ任スヘシ

第十二條　會費及決議事件實施ノ費用ハ其町村會ノ議決ニ付スヘシ

○乙第八十三號　明治十八年七月六日

明治十六年八月本縣甲第八十一號布達町村衛生會規則第六條ニ依リ議事細則左ノ通相定候條其會ヘ達スヘシ此旨相達候事

議事細則

第一條　議事ノ始終ハ會長之ヲ指揮ス

第二條　會員ノ席次ハ闔坂ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　議事ハ先ツ議案ノ總体ヲ評決シ次ニ逐條ニ審議シ次ニ全部ヲ確定ス

郡長　戸役所　衛生委員　役場員

第四條　議論多岐ニ渉リ少數消滅ニ屬シタルトキハ再ヒ原案ニ就テ可否ヲ評決ス
第五條　出席會員ハ可否ノ數ニ入ラサルヲ得ス
第六條　決議ノ法ハ擧手又ハ起立又ハ投票トス
第七條　發言セントスルトキハ會長ノ許可ヲ受クヘシ又會長ハ時宜ニヨリ發言ヲ止ムルコトヲ得
第八條　戸長又ハ衛生委員ハ會議ニ於テ議事ニ關スル辨明ヲナスコトヲ得

○縣令甲第五十號　明治十九年十二月廿一日

町村衛生組合規則左之通相定ム

町村衛生組合規則

第一條　衛生法施行ニ便ナラシメンカ爲メニ町村ニ衛生組合ヲ設ク
第二條　衛生組合ハ概五戸以上三十戸以内トス
第三條　衛生組合ハ戸長之ヲ定ムヘシ
第四條　衛生組合ニ組長一人ヲ置キ組合内ヨリ公撰セシム但其投票ハ戸長ヘ差出スヘシ
第五條　戸長ハ其投票ヲ調査シ高點ノ者ニ組長ヲ命スヘシ但辭撰者若クハ解職者アル時ハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ採ル
第六條　衛生組長ノ任期ハ滿二ケ年トス但前任者ヲ再撰スルヿヲ得

第七條　組長タルヲ得ヘキ者ハ滿廿五年以上ノ男子ニシテ其組合内ニ居住ヲ定ムル者トス
但撰擧者モ其組合内ニ居住ヲ定ムル戸主タルヘシ
第八條　衛生組長ハ俸給ナシ但組合内ニ於テ之ニ報酬ヲ贈ルハ適宜タルヘシ
第九條　衛生組長ノ責任左ノ如シ
一　時々各戸ヲ巡回シ家宅及近傍ノ通路下水便所芥溜等ノ清潔法ヲ監督施行セシムヘシ
二　飲料水ノ不良ナルモノハ之ヲ用ヒシムヘカラス但井側腐朽セルカ井邊不潔又ハ汚水滯留スル時ハ之ヲ入レ換ヘ若クハ洒掃疏通セシムヘシ
三　種痘ノ季節ニ及フ時ハ懇切說諭シ遍ク接種セシムヘシ
四　傳染病者アルトキハ其豫防法ヲ施行シ且ツ病者ノ看護ニ注意スヘシ
五　衛生法ヲ遵守セサルモノアルトキハ丁寧反覆之ヲ說諭シ若シ肯セサルトキハ其旨戸長ニ申出ヘシ
第十條　組合内又ハ其近傍ニ傳染病者アル時ハ相互ニ其豫防方ニ盡力スヘシ
第十一條　組合内ニ於テ傳染病死屍ヲ火葬又ハ埋葬スルトキハ戸長組長若クハ檢疫委員檢疫掛ノ指揮ニ從ヒ盡力スヘシ
第十二條　組合内ニ於テ貧困者疾病ニ罹リ藥餌ノ供給ニ差支アル時ハ相共ニ之ヲ補救スルコトヲ勤ムヘシ

○縣令甲第五十一號　　明治十九年十二月廿四日

醫會規則左ノ通相定ム

醫會規則

第一章　目的

第一條　本會ノ目的ハ醫風ヲ改良シ學術ヲ研究セシムルニアリ

第二章　組織

第二條　本會ハ郡役所部内ノ開業醫ヲ以テ會員トス

他府縣下ヨリ期日ヲ定メ出張開業スルモノハ準會員トス

總會ハ各郡副會長及ヒ幹事ヲ以テ會員トス

第三章　役員

第三條　本會ニ正副會長各一名幹事四名ヲ置ク

第四條　會長ハ縣立病院長トシ副會長及幹事ハ會員中ヨリ公撰スヘシ

第五條　役員ハ總テ報酬ナシ

第六條　書記ハ臨時ニ雇入レ其日當ハ會費ノ中ヨリ支給スヘシ

第七條　會長ハ本會ヲ總理シ副會長ハ會長ヲ輔ケ會長不在ノ時ハ之ヲ代理ス

第八條　幹事ハ會長ノ指示ニヨリ庶務會計ヲ分掌スヘシ

第九條　公撰役員ノ任期ハ滿一ケ年トス

明治廿一年三月十二日第八號第一條ヲ除ク

但前任者ヲ再撰スルコトヲ得

第四章　會員

第十條　會員ハ同朋友愛ノ情ヲ以テ互ニ輔佐匡正シ會員タルノ名譽ヲ全フスヘキ責アルモノトス

第十一條　會員意見アルトキハ幹事ヲ經テ會長ニ出スヘシ

第十二條　會員他府縣又ハ他部内ニ轉住スル時ハ其旨幹事ニ通知スヘシ但死亡ノ節ハ其遺族ヨリ屆出ツルモノトス

第五章　會議

第十四條　本會ヲ分チテ總會常會臨時會トス

總會ハ毎年五月廳下ニ於テ之ヲ開ク

常會ハ左ノ月割ニ依リ開設スヘシ但常會臨時會開設日限及其位置ハ郡役所ニ於テ之ヲ定メ開會十日以前ニ縣廳幷ニ會員ニ報告スヘシ

二月　北足立新座郡役所部内

三月　入間高麗郡役所部内

四月　比企横見郡役所部内

五月　秩父郡役所部内

六月　兒玉賀美那珂郡役所部内

七月　大里旛羅榛澤男衾郡役所部内
九月　北埼玉郡役所部内
十月　南埼玉郡役所部内
十一月　北葛飾中葛飾郡役所部内

第十五條　開會日數ハ常會ハ三日臨時會ハ二日以内トス

第十六條　議題ハ會員五名以上ノ同意ヲ以テ提出セシ意見案若クハ縣廳幷ニ郡役所ヨリ發スル諮問案トス

但意見案幷ニ諮問案ノ説明ハ各其主任者ニ於テスヘシ

第十七條　會員五名以上ノ同意ヲ以テ急要ト認ムル議題アルカ若クハ郡役所ニ於テ諮問セント欲スル事項アル時ハ臨時會ヲ開ク事ヲ得

第十八條　臨時會ハ副會長ヲ以テ會長トス

第十九條　會員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十條　會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十一條　諮問案ハ本會ノ評決ヲ以テ復申シ其他ノ評決ハ郡長ヲ經テ縣知事ニ申報スヘシ

第二十二條　本會ノ評決ヲ以テ建議ヲナサントスル時ハ縣知事又ハ郡長ニ差出スヘシ

第二十三條　會議細則及ヒ會員規約書幷ニ講習會諸規則等ハ本會ニ於テ評決ノ上郡長ノ認可ヲ請クヘシ

第二十四條　會議ハ傍聽ヲ許スヿアルヘシ

第六章　講義

第二十五條　會議終ルノ後會長ハ醫學若クハ臨床講義ヲナスヘシ

但其日數ハ一日間トス

第二十六條　幹事ハ臨床講義ニ供スル爲メ其患者ノ數ヲ定メ會員ヲシテ施治ノ患者ヲ誘引セシムヘシ

第二十七條　會員中實驗説又ハ醫學上ノ説ヲ演ントスルトキハ會長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十八條　常會ノ外醫學講習會ハ縣立病院長若クハ名醫ヲ聘シテ講師トナシ一ケ年二回以上開設スヘシ但準會員ハ必ラスシモ出席スルヲ要セス

醫學講習會ハ部内土地ノ便宜ニヨリ數區ニ分割シテ設置セントスルトキハ本會ニ於テ評決ノ上郡長ノ認可ヲ請クヘシ

醫學講習會開會ノ手續ハ第十四條第三項ニ準スヘシ

第二十九條　會員準會員ハ會議ノ決ニ依リ總會常會臨時會及ヒ醫學講習會費トシテ毎年若クハ毎半年ニ若干金ヲ醵出スヘシ但シ醫學講習會費ハ準會員ニ於テハ支出スル會及ハ

第三十條　會費ノ出納ハ幹事ニ於テ擔當シ副會長之ヲ監督スヘシ

第三十一條　副會長ハ會費ノ出納ヲ調査シ常會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八章　雜件

第三十二條　會員準會員共疾病又ハ不得止事故アリテ當日ノ會ニ出席シ難キ者ハ其理由ヲ書シ會長ニ屆出ツヘシ

第三十三條　會長ハ開會中出席者及不參者ノ姓名取調郡長ニ通知スヘシ

第三十四條　本會ヘ物品及金員ヲ寄贈スルモノアルトキハ之ヲ受納シ帳簿ニ登記スヘシ

第三十五條　本會ニ於テハ毎年年報ヲ編製シ翌年一月縣廳及郡役所ニ申報スヘシ

◎甲第五十九號　明治十九年五月十五日

本縣縣立病院職制左ノ通相定ム

埼玉縣立病院職制

第一條　縣立病院ハ管内人民ノ病患ヲ診察施治シ且ツ公衆衛生ノ事項ニ干與スル所トス

第二條　縣立病院中職員ヲ置ク左ノ如シ

院長	一人
監事	一人
診察掛長	一人
藥局長	一人
診察掛	定員ナシ
會計掛	同上
事務掛	同上
藥劑生	同上
看護掛	一人

第三條　院長ハ院務ヲ管理シ職員ヲ統督シ患者ノ診斷施術ヲ掌リ其職員ノ進退ハ縣令ニ具狀スヘシ

第四條　監事ハ院中ノ庶務ヲ掌リ院長事故アルトキハ院務ヲ代理ス

第五條　診察掛長ハ患者ノ診察治療ヲ掌リ及診察掛ヲ監督ス

第六條　藥劑監ハ藥品ノ良否ヲ鑑別シ調劑及製藥ヲ監督ス

第七條　診察掛ハ患者ノ診察治療及醫務上ニ關スル文書ノ草案醫療器械ノ保存并ニ患者表治驗錄ノ調製ヲ掌ル

第八條　會計掛ハ金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓并ニ計算表ノ調整ヲ掌ル

第九條　事務掛ハ公文ヲ受付ケ記錄文書ヲ整頓シ及物品ノ購求營繕ノ事項并書籍器械ノ保存ヲ掌ル

第十條　藥劑生ハ調劑并ニ製藥ヲ掌リ及藥品出納表ヲ調製ス

第十一條　看護掛ハ病室一切ノ事務ヲ掌リ及ヒ看護人ノ勤惰ヲ視察シテ院長ニ具狀スヘシ

○第三欵　醫事及賣藥

○甲第廿七號　明治十九年三月三日

醫師免許細則左ノ通相定ム

第一條　醫術ヲ開業セントスル者ハ明治十六年十月第卅五號布告醫師免許規則第二條第三條第四條ノ手續ニヨリ願書（正副二通）ニ證書（試驗及第又ハ卒業若クハ開業）ヲ添ヘテ縣廳ニ差出スヘシ

第二條　他府縣下ノ醫師本縣下ニ寄留シテ開業スル者ハ開業免狀ノ寫ニ履歷書ヲ添ヘ縣廳ニ屆出ツヘシ

第三條　本縣下ノ醫師他府縣下ニ轉籍又ハ寄留スル者ハ縣廳ニ屆出ツヘシ

第四條　醫師甲郡役所部內ヨリ乙郡役所部內ニ轉籍又ハ寄留スル者ハ本人ヨリ甲乙郡役所ニ屆出テ乙郡役所ヨリ縣廳ニ報告スヘシ

第五條　診察出張所ヲ置クモノハ其郡町村番地及出張所ニ關スル規則書ヲ添ヘ縣廳ニ屆出ツヘシ

他府縣下ノ醫師本縣下ニ出張所ヲ設ケントスル者モ亦同シ

第六條　醫師患者ニ藥劑ヲ與フルトキハ患者ノ住所姓名年齡病名藥劑用量轉方並ニ年月日

等ヲ處方錄ニ記載スヘシ

第七條　醫師患者ニ處方書ヲ與フルトキハ患者ノ住所姓名其藥劑ノ分量用法服量等ノ別及年月日自己ノ住所姓名ヲ記シテ之ニ捺印スヘシ

第八條　醫師代診者ハ開業免狀ヲ所持スル者タルヘシ但代診者ヲ置クトキハ其姓名ヲ屆出ツヘシ

第九條　診察セサル患者ニ藥劑若クハ處方書ヲ與フルコトヲ得ス

第十條　此規則第九條ニ違背シタル者ハ本縣違警罪ノ刑ヲ科スヘシ

右布達候事

○甲第八十二號　明治十五年六月二十日

開業醫師疾病其他事故アリテ業務ヲ委托シ患者ニ係ル諸屆等ヲナス代理人ハ醫術開業免許證ヲ所持スル者ニ限候條此旨布達候事

郡役所
戶長役場

○乙第百二十六號　明治十七年九月廿六日

本年七月太政官第十八號布達徵兵事務條例第四十條疾病屆ニ係ル第五書式診斷書ニ奥書ヲ乞フ者アルトキ其依托ニ應スヘキハ勿論ニ候處往々之ヲ謝絕シ又ハ遲滯スル向モ有之哉ニ相聞エ不都合ニ候條右等ノ儀無之樣開業醫ヘ示達致ス可シ此旨相達候事

○甲第二十六號　明治十九年三月三日

産婆及針灸術營業取締規則左ノ通相定ム

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ願出ツルニ及ハス

第一條　産婆ハ開業免狀ヲ得タルモノトス但當分試驗ヲ要セス假免狀付與スルヿアルヘシ

第二條　鍼灸術營業者ハ鑑札ヲ得タルモノトス

第三條　産婆ノ假免狀及鍼灸術ノ鑑札ヲ受ントスル者ハ其修業履歷書及師家ノ熟練證書ヲ添ヘ産婆ハ縣廳ニ鍼灸術ハ郡役所ニ願出ツヘシ但各營業者ハ滿二十年以上タルヘシ

第四條　産婆ハ産科器械ヲ使用スルヿヲ得ス

第五條　産婆及鍼灸術者營業ハ藥劑ヲ與ヘ又ハ藥方ヲ指示スルコトヲ得ス

第六條　鍼灸術營業者ハ醫師治療中ニ係ル患者ハ其醫ノ承諾ヲ受クルニ非ラサレハ施術スルコトヲ得ス

第七條　免狀假免狀又ハ鑑札ハ他人ニ讓渡シ若クハ貸與スルコトヲ得ス

第八條　免狀假免狀又ハ鑑札ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ノ變換ニ由リ書換ヲ請フ者ハ其事由ヲ具シ願出ツヘシ

第九條　免狀ヲ有スル者廢業死亡スルトキハ之ヲ返納シ他府縣ヘ轉籍寄留スルモノハ其旨屆出ツヘシ

但假免狀及鑑札ヲ有スルモノ本條ノ場合ニ於テハ之ヲ返納スヘシ

第十條　産婆及鍼灸術營業者其業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十一條　此規則第一條第二條第四條第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ本縣違警罪ノ刑ヲ科スヘシ

○訓令第二號　明治二十二年一月十日　郡役所　戸長役場

今般内務省衛生局ニ於テ醫籍刊行候ニ付最前醫術開業免狀下付以來住所ヲ轉シ候者往々有之ニ付此際總テ現住所及ヒ免狀番號ヲ記シ本年一月三十一日限リ其地發送本人ヨリ直ニ同局ヘ屆出ツヘシ且該期限後ト雖モ住所ヲ轉シタルトキハ其都度屆出ツヘキ樣併セテ縣下居住醫師ヘ被相達度旨衛生局長ヨリ申越候條其町村内開業醫師ヘ此旨通達スヘシ

但該屆書ハ郵便葉書ヲ用ヒ差支ナシ

○乙第百四十四號　明治十六年十二月十二日　郡役所　戸長役場

明治十三年七月ヨリ本年六月ニ至ル人口及鍼灸治營業者左ノ樣式ニ準シ取調來ル十七年一月戸長役場ハ同月十五日限リ郡役所ニ可差出此旨相達候事

乙號　本表ハ年末現在數ヲ掲ク　但シ鍼治ニテ灸治ヲ兼ネ灸治ニテ鍼治ヲ兼ヌルモノハ各其本業ノ部ニ記入スヘシ

人口表
八十八年乙第百二十號ニ依リ消滅セシヲ

以テ式ヲ様ノ省

鍼灸治統計表　明治何年 自何月 至何月　何郡役所

郡名	種別	男女	鍼治	灸治	合計
何郡					
合計					

郡役所
戸長役場

○乙第百四十五號　明治十六年十二月十二日

毎月人口及現在夫婦之數並鍼灸治營業者本年七月ヨリ左之通取調可差出此旨相達候事

第一項　戸長役場ニ於テハ人口ハ本年乙第百四十四號達ニ準シ現在夫婦ハ左ノ様式ニ倣ヒ之ヲ調製シ毎年一月十五日限リ郡役所ニ差出スヘシ

第二項　郡役所ニ於テハ人口及鍼灸治營業者ハ本年乙第百四十四號達ニ準シ現在夫婦ハ左ノ様式ニ倣ヒ之ヲ調製シ毎年一月三十一日限リ縣廳ニ差出スヘシ（様式略ス）

○甲第十三號　明治十七年三月十七日

明治十六年十二月本縣甲第百三號ヲ以テ醫事規則布達候ニ付テハ從前本縣ニ於テ許可致置候整骨科齒科ノ儀自今接骨師口中師ト改稱醫師ト區別候條此旨布達候事

但從前下付セシ免許証ハ引換下付可致ニ付來ル四月限リ返納スヘシ

○甲第八十二號　明治十八年十一月三十日

口中師接骨師營業取締規則左之通相定候條此旨相達候事

口中師接骨師營業取締規則

第一條　此規則ハ明治十七年三月本縣甲第拾三號布達ニ依リ鑑札ヲ附與シタル營業者ニ對シ施行スルモノトス但營業者ノ内口中師ハ入齒齒抜口中療治ヲ總稱ス

第二條　從前他府縣ニ於テ營業セシ者管下ヘ轉籍寄留シテ尚營業センカ爲メ本縣ニ於テ鑑札ヲ願受クル者ハ前條ニ準スヘシ

第三條　口中師營業者ハ入齒抜齒齲齒療治ノ術ヲ施ス者ニシテ其他ノ術ヲ施スコトヲ得ス

第四條　接骨師營業者ハ整骨術ヲ施ス者ニシテ副木繃帶ヲ除クノ外醫術器械ヲ用フルコトヲ得ス

第五條　醫師治療中ノ患者ナルトキハ主治醫ノ承諾ヲ受クルニ非ラサレハ施術スルコトヲ得ス

第六條　各營業者ハ藥法ヲ指示シ若クハ內服藥ヲ與フルコトヲ得ス藥品ハ明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ノ毒藥劇藥ヲ除クノ外ハ外用ニ限リ用フルコトヲ得

第七條　各營業者ハ鑑札ヲ所持スルニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　鑑札ハ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

第九條　鑑札ヲ水火盜難又ハ過誤ニ依リ毀損失亡シタルトキハ其事由ヲ具シ更ニ下付ヲ請フヘシ

管內ヘ轉籍寄留又ハ改姓名ニ由リ鑑札面ニ變更ヲ生シタルトキハ書換ヲ請フヘシ

第十條　廢業死亡又ハ他府縣ヘ轉籍寄留スルモノハ鑑札返納其旨屆出ツヘシ

第十一條　他府縣ヘ轉籍寄留シテ營業セントスル者ハ其事由ヲ具シ本縣ヘ願出テ添翰ヲ受クヘシ

第十二條　他府縣ヨリ管內ヘ轉籍寄留シテ營業セントスル者ハ原管廳ノ添翰ヲ添ヘ本縣ヘ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

第十三條　此規則ニ關スル願伺屆ハ所轄郡役所ヲ經テ差出スヘシ

第十四條　各營業者其業務ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十五條　本則第三條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタル者ハ本縣違警罪ノ刑ヲ科スヘシ

○縣令甲第四十七號　明治十九年十二月廿二日

產婆營業試驗規則左ノ通定ム

產婆營業試驗規則

第一條　產婆ヲ營業セントスル者ハ此規則ニ依リ試驗ヲ受クヘシ

第二條　試驗節目ハ當分朱氏產婆論ニ依ル

第三條　試驗ハ毎年二期三月九月ニ分チ縣立病院ニ於テ之ヲ施行ス但期日ハ其都度願人ニ通報スヘシ

第四條　試驗ヲ受ケント欲スル者ハ營業ノ場所ヲ記シタル願書ニ其修學履歷書及敎師ノ保證書ヲ添ヘ毎期三月九月五日限願出ツヘシ但滿二十歲以上ノ女子タルヘシ

第五條　試驗問題ハ一節一題トシ答記ノ時間ハ一題一時間ヲ超ユルヲ許サス

第六條　受驗人ハ書籍ヲ携帶シテ試驗場ニ入リ又一題ノ答記ヲ了ラサル間ハ他席ニ出ツルコトヲ許サス

第七條　受驗人ハ答記了ルノ後試驗委員ノ承諾ヲ請ヒ淨書スルコトヲ得ヘシト雖モ必ス其眼前ニ於テシ他席ニ持出スコトヲ得ス

第八條　受驗者病氣若クハ事故アリテ試驗ノ當日出頭セサル者及試驗中欠席スルモノハ其期ノ試驗ヲ終ルコトヲ得ス

第九條　此規則ハ內務省ヨリ產婆營業免狀ヲ得ントスル者ニ對シ施行スルモノトス

各區正副區長

○乙第五十九號　明治九年五月廿三日

製練藥品ノ儀ハ本邦ニ於テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ妄信シ概ネテ國產ヲ卑ムノ風ニ流レ贋惡藥ノ輸入日ヲ追テ增加シ其損害不尠ニ付自今製造品試驗ノ上其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相渡スヘク候條醫療用工職用ヲ不問藥品精練致シ候者ハ其製造品相添左ノ箇條書ニ從ヒ願出許可ノ上販賣致シ候樣可取計旨內務省ヨリ達有之候條區內藥品製練候者ヘ無洩可相達候事

但阿片製造人ノ儀ハ詮議ノ次第有之候條當分地方限リ聞屆置昨八年同省乙第百五十六號達ニ照準シ可取計旨達ニ付其旨可相心得事

製藥免許手續

一　製造人ハ屬籍住所姓名等詳記シタル願書二通ヲ作リ其製品ヲ添ヘ管廳ヘ差出サシメ管廳ハ之ニ添書シテ內務省ニ出スヘシ

一　製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最寄司藥場ニ送致シ試驗ヲ受ケ其譯添書ニ追申スヘシ

一　試驗ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交付シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人ノ志願ニ依リ司藥場ニ於テ製練ノ方法傳示スヘシ

一　製藥許可ヲ得タル者ハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及其住所姓名ヲ記シ每器ニ貼シテ販賣スヘシ

但藥名ハ國字洋字兩樣トモ記載スルハ勝手タルヘシト雖ヒ洋文ノミヲ書スヘカラス必ス普通ノ譯名無之モノハ假名ニテ原書ヲ記スヘシ

○甲第卅二條　明治十三年三月廿二日

本年一月太政官第壹號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ揭載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致筈ニ候條心得違ノ者無之樣可取計旨內務省ヨリ被達候ニ付此旨布達候事

○甲第卅三號　明治十年三月廿九日

本年一月第七號ヲ以テ賣藥規則公布相成且今般內務省ヨリ達ノ趣モ有之候ニ付テハ賣藥免許鑑札申受方左ノ手續書及書式ニ照準可願出此旨布達候事

一　一昨明治八年七月以降內務省ヨリ下附相成候賣藥鑑札ハ追テ同省ヨリ被相達候迄免許發賣其當分書替願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同樣相心得ヘシ

一　前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算ス尤稅金ノ儀ハ本年

分ヨリ徴収スヘキ筈ニ付昨九年マテノ分ハ納ムルニ及ハス

但鑑札料ハ規則ノ通相納ムヘシ

一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月二十日マテニ悉皆願出鑑札申受ヘシ

一 明治八年七月以降本年一月規則公布前ノ營業鑑札所持ノ者ニ限リ本年一月ヨリ六月マテノ内廢業屆出ルモノハ其税金月割ヲ以テ相納ムヘシ

一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通相製シ店頭ニ掲クヘシ

堅三尺

免許 賣藥營業 出張

寸方同上

免許 賣藥請賣業

一 行商鑑札申受ル時ハ其方名ヲ一々記載シテ願出ヘシ

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラス營業者異ナル毎ニ鑑札申受クヘシ

賣藥改正願書式 用紙美濃紙

賣藥改正願

一方名

埼玉縣大小區國郡町村番地
族籍
營業人 氏 名

藥品分量
製法
用法服量
功能

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々之廉左之通改正仕度御差支無之候ハヽ鑑札御書替被下度此段奉願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年 月 日

願人 氏 名印
戸長 氏 名印
醫務取締 氏 名印

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

年 月 日

區長 氏 名印

賣藥請賣鑑札願書式 用紙同上

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同 一同

但營業者異ナレハ縱令一方タリ𪜈必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ

右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者ヘ御免許之御指令寫幷約定書相添此段奉願候也

埼玉縣大小區國郡(村)(町)番地
族籍
請賣願人　氏　名　印
月長　氏　名　印
醫務取締　氏　名　印

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

年　月　日

區長　氏　名　印

賣藥請賣約定書

一方名　一同上　一同上　一同上　一同上

右者何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ請賣鑑札ヲ願受營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所業致ス間敷候依テ約定書如件

年　月　日

(府)(縣)大小區國郡(町)(村)番地
族籍
賣藥營業人　氏　名　印
同
族籍
賣藥請賣人　氏　名　印

賣藥營業鑑札滿期書替願書式　用紙美濃紙

賣藥營業鑑札滿期御書替願

埼玉縣大小區國郡(村)(町)番地
族籍
營業人　氏　名

一方名
藥品分量
製法
用法服量
功能
但藥方數種アル時ハ上ノ例ニ從テ一々連書スヘシ

右者何年月日撿査濟鑑札御下渡營業仕候處來ル何月滿期相成猶引續營業仕度別紙鑑札幾枚返納仕候間御詮議之上御差支無之候ハヽ御書替被下度此段奉願候也

年　月　日

願人　氏　名印
戶長　氏　名印
醫務取締　氏　名印
區長　氏　名印

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

年　月　日

賣藥營業鑑札幷請賣鑑札遺失毀失之節書替願書式　用紙同上

賣藥營業鑑札或ハ賣藥請賣鑑札遺失毀失ニ付御書替願

埼玉縣大小區國郡(村)(町)番地
族籍
賣藥營業人　氏　名

一方名
賣藥請賣鑑札ナレハ左之通認ムヘシ

(府)(縣)大小區國郡(村)(町)番地
族籍
賣藥營業人　氏　名

一方名　右請賣人

同
族籍
氏　名

右者何年月日(紛失ト記載セサレハ毀失ト記スヘシ)御下渡被下候(賣藥營業鑑札或ハ請賣鑑札)何月日何々ノ事故ニテ(遺失毀失)仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年　月　日

賣藥營業人或ハ請賣人　氏　名印
戶長　氏　名印
醫務取締　氏　名印
區長　氏　名印

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

年　月　日

賣藥營業鑑札讓渡願書式　用紙同上

賣藥營業鑑札讓渡願

(府)(縣)大小區國郡(村)(町)番地
族籍
營業人　氏　名

一方名
藥品分量
製法
用法服量

功能

但賣藥數種アル時ハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右者何年月御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般府縣族籍何某ヘ示談ノ上讓渡申度依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候也

年月日

(府)(縣)大小區國郡(村)(町)番地
族籍
賣藥鑑札主　氏　名　印

同
族籍
右讓受人　氏　名　印
醫務取締　氏　名　印
戸長　氏　名　印
醫務取締　氏　名　印

但讓受人ノ管轄廳ニ出シ鑑札主ノ管轄廳ヘハ其旨ヲ屆出ヘシ

埼玉縣令氏名宛

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

年月日

讓受人ノ區長　氏　名　印

○甲第四十三號　明治十年五月二日

鑑札主所住ノ區戸長或ハ讓受人所住ノ

賣藥營業及ヒ請賣願書式本年三月本縣甲第三十三號ヲ以テ相達置候處請賣願之儀ハ自今醫務取締及ヒ區長等奥印ニ不及候條本人戸長連署ヲ以可願出此旨布達候事

但本文願書及營業者官許公文ノ寫約定書共都テ正副二ツ通リ宛可差出儀ト可相心得事

○乙第六十二號　明治十三年八月廿五日

賣藥營業ノ者自今廢業或ハ禁止候節ハ左ノ雛形ニ照據シ郡役所ヲ經テ爲屆出候樣可取計此旨相達候事

第一號書式　用紙半紙二ツ折

賣藥廢業屆

番號
一藥名
仝
一仝

何年何月何日免許
仝

右者今般廢業致シ候ニ付鑑札返上何々云々ニヨリ禁止相成候就テハ此賣藥受賣行商人名簿相添受賣行商セシ者無之此段御屆仕候也

郡町村名番地
族籍
營業人　姓　名　印
右村戸長　姓　名　印

年月日

郡役所
戸長役場

埼玉縣令姓名宛

第二號書式　用紙同上

賣藥受賣行商者名簿

一藥名

一仝

一仝

右之通相違無御座候也

（何府縣國）郡町村名番地

族籍

受賣人　姓　名

仝上

仝

仝　姓　名

仝上

仝

行商人　姓　名

郡町村名

姓　名

○丙第十九號　明治十六年十月三十日

郡役所

賣藥請賣及行商者ニ於テ免許滿期ヲ不心付營業致居候樣ノ儀有之候テハ不都合ニ付自今請賣並行商鑑札裏面ニ左圖ノ如ク滿期年月ヲ朱書シ下付可致此旨相達候事

賣藥請賣鑑札裏面

賣藥營業人　族籍　氏　名

賣藥請賣

許可之證

請賣營業人　族籍　氏　名

年月滿期

朱書

○丁第二百號　明治十六年八月廿五日

賣藥請賣行商統計表別紙樣式之通改正候條本年七月ヨリ毎期一月七月十五日限リ調製可差出此旨相達候事

郡役所

賣藥行商鑑札裏面

年月日

年月滿期

番號

烙印

明治何年自何月至何月賣藥請賣行商統計表

何郡役所

郡名	種別	賣藥請賣行商																			
		前期末現在數		本期內免許		本期內廢業		本期末現在數		前期末現在數		本期內免許		本期內廢業		本期末現在數					
		人員	方數	人員	方數	人員	方數	人員	方數	人員	方數	人員	方數	人員	方數	人員	方數				
何郡																					
何郡																					
合計																					

○甲第五號　明治十六年三月十四日

藥舖并藥種商規則左之通相定候條此旨布達候事

藥舖及藥種商規則

第一條　藥舖ヲ開業セント欲スル者ハ左ノ科目ニ就キ試驗ヲ遂ケ其成績ヲ內務卿ニ具狀シ合格ノ者ハ免狀ヲ付與スヘシ

試驗科目

一算術　一物理學大意　一化學大意　一藥物學大意　一處方學大意

第二條　試驗ハ毎年二月八月兩度ト定メ廳下縣立病院ニ於テ之ヲ行ヒ時日ハ其都度願人ニ通報スヘシ

第三條　試驗ヲ請フ者ハ第一號ノ願書式ニ倣ヒ修學履歷書ニ教師ノ證書ヲ添ヘ二月八月五日限リ郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

但試驗ヲ請フ者ハ年齡二十歲以上タルヘシ

第四條　官立學校ニ於テ製藥學ヲ卒業シタル者ハ別ニ試驗ヲ要セス其證書及履歷書ヲ添ヘ郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

但卒業證書ハ審査ノ上返付スルヲ以テ其寫三通ヲ添ヘ差出ツヘシ

第五條　試驗問題ハ一科二題トシ答記ノ時間ハ一題二時間ヲ超ユルヲ許サス

第六條　受驗人ハ書籍ヲ携帶シテ試驗場ニ入リ或ハ一問ノ答記ヲ了ラサル間ハ本席ヲ離ルヽヲ許サス

第七條　試問答記ヲ了ルノ後試驗委員ノ承諾ヲ請フテ淨書スルヲ得ヘシト雖必ス其眼前ニ於テシ他席ニ持出スコトヲ許サス

第八條　藥舖ハ醫師ノ處方書ニ據リ調劑スヘシト雖病ヲ診シ又ハ容体ヲ問ヒ方劑ヲ與フルヲ許サス

但醫師ノ處方書ハ之ヲ保存シ臨時衛生及警察官吏點檢ノ用ニ供スヘシ

第九條　前條ノ場合ニ於テ若シ醫師ノ處方書中藥名不明瞭ナルカ又ハ其量目不相當ト認ムルトキハ必ス處方主ニ質シテ後調劑スヘシ

第十條　處方書ヲ齎ラスト雖醫師ノ住所姓名年月日捺印等ナキモノハ一切調劑スヘカラス

第十一條　調劑ノ容器包紙ニハ其用法及患者ノ姓名等ヲ詳記シ自己ノ住所姓名アル印ヲ捺スヘシ

第十二條　藥種商ヲ開業セント欲スル者ハ第二號書式ニ倣ヒ郡役所ヲ經テ願出鑑札ヲ受クヘシ

第十三條　藥舖及藥種商ハ明治十三年太政官第一號公布藥品取扱規則ヲ確守シ毒劇藥取扱方ハ特ニ注意スヘシ

第十四條　藥種商ハ諸藥品ヲ販賣スルニ止リ醫師ノ處方書ヲ齎ラス者アリト雖調劑スルヲ許サス

第十五條　藥品及其貯藏方等ハ衛生及警察官吏出張檢査スルコトアルヘシ

第十六條　免狀及鑑札ヲ受ケタル藥舖藥種商幷ニ從前ノ藥舖ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

長サ三尺

免許
藥舖
埼玉縣何郡何町村
姓名

從前ノ藥舖ハ免許ノ上ニ假ノ一字ヲ加フヘシ

長サ三尺

免許
藥種商
埼玉縣何郡何町村
姓名

第十七條　藥舖管內外ニ轉籍又ハ寄留スルトキハ郡役所ヲ經テ屆出テ改姓名ハ免狀書換ヲ願出ツヘシ

第十八條　藥種商管內ニ於テ轉籍寄留又ハ改姓名等ノ節ハ郡役所ヲ經テ鑑札書換ヲ願出ツ

ヘシ

第十九條　免狀及鑑札ハ貸借スルヲ許サス廢業又ハ死亡スルトキハ郡役所ヲ經テ之ヲ返納スヘシ

但鑑札ハ他管下ヘ轉籍寄留スルトキモ亦同シ

第二十條　水火盜難等ニ罹リ免狀又ハ鑑札ヲ毀失シタルトキハ其事由ヲ具シ郡役所ヲ經テ更ニ免狀又ハ鑑札ヲ願受クヘシ

第一號書式　用紙半紙二ツ折正副二通

藥舖開業試驗願

私儀今般藥舖開業仕度候間御試驗ノ上免狀御下付被成下度別紙履歷書幷教師ノ證書相添此段奉願候也

何郡何町(村)何番地寄留ノ者ハ本籍ヲモ記載スヘシ
族籍　姓　名　印

年　月　日

縣　令　宛

右町(村)戶長　姓　名　印

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

衛生委員　姓　名　印

第二號書式　用紙半紙二ツ折正副二通

藥種商開業願

私儀今般藥種商開業仕度候間鑑札御下付被成下度此段奉願候也

何郡何町(村)何番地寄留ノ者ハ本籍ヲモ記載スヘシ
族籍　姓　名　印

年　月　日

縣　令　宛

右町(村)戶長　姓　名　印

衛生委員　姓　名　印

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

○甲第十四號　明治十七年三月十七日

賣藥規則外製劑販賣取締規則左之通相定候條此旨布達候事

但從前許可セシ者ト雖此規則ニ準據シ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ

○賣藥規則外製劑販賣取締規則

第一條　賣藥規則外ノ製劑トハ鼠取蠅取藥釜除虱失蚊遣藥ヲ云フ

第二條　此製劑ヲ販賣セントスル者ハ第一號書式ニ倣ヒ鑑札ヲ願受クヘシ但免許ヲ得サル製劑ハ他人ニ施與スルヲ許サス

第三條　此製劑ヲ請賣セントスル者ハ第二號書式ニ倣ヒ鑑札ヲ願受クヘシ但他府縣下ノ者ノ製劑ヲ請賣スル者モ本條ニ準スヘシ

第四條　廢業死亡又ハ他府縣下ニ轉籍寄留スルトキハ其旨届出鑑札ヲ返納スヘシ

第五條　轉居改名又ハ鑑札ヲ遺毀シタルトキハ其事由ヲ具シ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ

第六條　本則第二條第三條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第一號書式　用紙半紙正副二通

何藥營業願

一何藥　何藥分量　何藥分量

一配合品

一製法

一用法

一功能

右調製發賣仕度候間御檢査ノ上鑑札御下付被下度依テ製劑相添此段奉願候也

年月日

埼玉縣國郡(町)(村)番地(居住)(寄留)
(士族)(平民)寄留ノ者ハ(府)(縣)名ヲ冠スヘシ
氏　名　印

右(町)(村)戸長　氏　名　印

右(町)(村)衛生委員　氏　名　印

郡長氏名殿

前書願出候ニ付奥印仕候也

第二號書式　用紙半紙正副二通

何藥請賣願

一何藥

府縣國郡(町)(村)番地(居住)(寄留)
(士族)(平民)寄留ノ者ハ(府)(縣)名ヲ冠スヘシ
氏　名

右營業人

右何藥今般營業人ト示談之上請賣仕度候間鑑札御下付被下度依テ（營業人他府縣ノ者ナル中ハ何府縣ヨリ）營業人ヘ御下付相成候鑑札（御免許相成度候御指令）并ニ約定書寫相添此段奉願候也

年月日

埼玉縣國郡（町）（村）番地（居住）（寄留）
（士族）（平民）寄留ノ者ハ（府）（縣）名ヲ冠スヘシ
氏名印

郡長氏名殿

前書願出候ニ付奥印仕候也

右（町）（村）戸長
氏名印

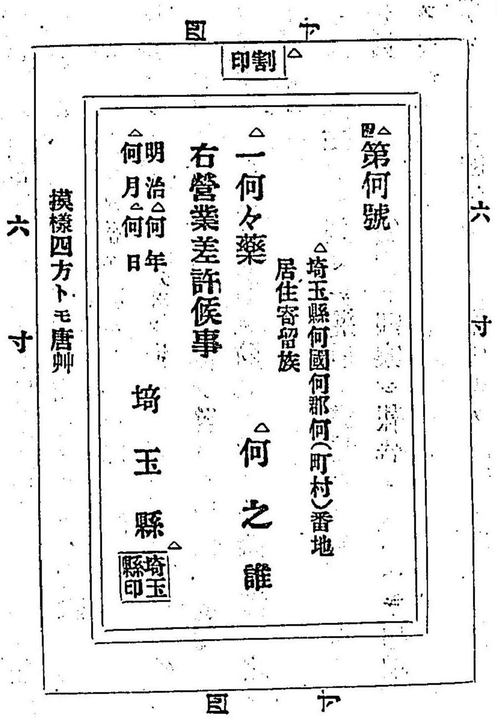
右（町）（村）衛生委員
氏名印

○乙第三十七號　明治十七年三月三十一日

本年三月本縣甲第十四號ヲ以テ賣藥規則外製劑販賣取締規則布達候ニ付テハ鑑札雛形左之通相定候條此旨相達候事

用紙西洋紙

郡戸長役所
役場



△ハ朱書

郡戸長役所
役場

衛生委員

○第四欵　雜件

○乙第五十四號　明治十五年七月廿七日

衛生委員通信手續左之通衛生委員ヘ相達候條此旨相達候事

衛生委員

人身ノ健康ヲ保チ民生ノ幸福ヲ謀リ國家ノ富强ヲ致ス所以ノ者千緒萬端アリト雖現今ノ務ニ於ル衛生通信ヨリ急ナルハ莫シ然リ而シテ其事務ノ着手日尙淺ク濟生ノ道未タ人心ニ洽カラス是ヲ以テ民間深ク諸般事物ノ利害得失ヲ察シ以テ其健康ヲ傷ヒ疾病ヲ來ス所ノ理ヲ考究シ之ヲ未萌ニ防キ身体ト精神トヲシテ强壯活潑ナラシメント欲スルノ思想ニ至リテ富メリト謂フヘカラサルナリ今ヤ衛生事務ノ組織ハ議事ニ中央衛生會地方衛生會アリ行政ニ內務衛生局地方衛生課郡役所衛生掛町村衛生委員アリ而シテ衛生委員ハ日常人民ニ接近スルヲ以テ其關係最モ深シ故ニ衛生事務ノ擧否ハ此人々ノ負擔如何ニアリト云フモ不可ナカルヘシ然レトモ通信報知ノ順序方法尙未タ備ハラサレハ諸般ノ利害得失ヲ審ニセス事比隣ニ起ル者ト雖之ヲ知ルニ由ナク禍闔族ニ及フモ之ヲ救フ能ハサルニ至ル歎セサルヘケンヤ夫レ衛生ノ道ヲ更張セント欲セハ必先ツ通信ノ道ヲ開キ利害得失ノ實證ヲ擧テ之ヲ衆人ニ明示セサルヘカラス因リテ今通信手續ヲ設ケ務メテ通信ノ遺漏ナク誤謬ナキヲ期シ以テ漸ク濟生司命ノ法ヲ完全ニシ病災ヲ未萌ニ防ント欲ス各委員深ク之ヲ負擔スヘシ此旨相達候事

衛生委員通信手續

第一條　衛生委員ハ衛生上ニ關スル通信ヲ擔當スルモノトス

第二條　衛生委員ハ衛生上ノ實況ヲ觀察シ報告ヲ要スヘキ事項ト認ムルトキハ之ヲ取調郡役所ニ報告スヘシ

第三條　郡役所ニ於テハ衛生委員ノ報告書ヲ調査シ之ヲ縣廳ニ送達スヘシ

十八年乙第八號ニテ二十二條ニ刪除

但衛生委員ヨリ報告スル事項ニ付意見アルトキハ之ヲ付記シテ送達スヘシ

第四條　至急ヲ要スル事項ハ衛生委員ハ郡役所ニ郡役所ハ縣廳ニ電報郵便又ハ脚夫等ニテ直ニ報告スヘシ

但事ノ至急ヲ要スルモノハ電報又ハ郵便等ニテ直ニ衛生課ニ急報シ尙其次第ヲ速ニ郡役所ニ通報スヘシ

第六條　縣廳ニ於テハ各地ヨリ通信スル所ノ事項ヲ調査シ內務省衛生局ニ報告シ且其利害ヲ察シ之カ處分方法ヲ設ケ其事項ニ據リ管內ニ廣告シ又ハ特ニ關係町村ニ通報スヘシ

第七條　通信事項ハ概ヲ左ノ各欵ニ準スヘシ尤傳染病者ノ報知及出產死亡等ノ月報其他別ニ例規アル者ハ此手續ノ限リニ非ス

第一　町村ノ面積人口幾許其住民ノ職業農商工若クハ漁樵等ノ區別如何一ケ月或ハ幾週間ノ出產死亡流產病患等ノ數前年其月ニ比シ又ハ各町村互ニ相比スルニ其多寡如何且其死亡ハ何病ニ因ルカ老少男女孰レニ多キ等又ハ死亡ニ至ラサルモ何病ニ罹ル者多ク其原因ノ探知シ得ヘキ者(地形寒暖晴雨其他衣食住習慣等ノ景況)等ヲ報告スル事

第二　山林ヲ伐リ水路ヲ換ヘ田圃ヲ廢シテ居宅ト爲シ沼池ヲ埋メテ耕地ト爲ス等人造ニヨリテ氣候ヲ變シ或ハ飲水ヲ汚シ爲ニ疾病ヲ誘發シ若シクハ死亡ヲ增加シタル等又ハ荒蕪ヲ開闢シ或ハ潴水ヲ疏通セシ爲メ疾病死亡ノ員數ヲ減シタル等ノ景況ヲ報告スル事

第三　傳染病ハ勿論何病ニ拘ハラス其性質常ニ異ナルカ若クハ傳染病流行ノ兆アルトキハ例規ニヨリ報告スルノ外其景狀ヲ報告スル事

第四　獸畜流行ノ病其性人類ニ傳染スヘキモノアルトキハ其緩急及傳播ノ景狀ヲ報告スル事

第五　町村内ニ醫師ナク或ハ近傍醫師ナキ爲メ患者アルモ醫藥治術ヲ受クルコト能ハサル等ノ景況ヲ報告スル事

第六　種痘普及如何ハ數年前ニ比スレハ增加シ或ハ減少シ未痘兒ハ其町村五年以下人口ノ幾分ニ居リ或ハ再三種ノ數幾許ニシテ其善感不善感ハ接種者幾分ノ比例ニ當ル等ヲ報告スル事

第七　劇藥毒藥贋敗藥墮胎藥等ノ販賣ニ關スル事故及其誤用等ノ顚末ヲ報告スル事

第八　漫リニ針灸咒詛等ヲ施シ或ハ之ヲ信仰スルノ弊アルトキハ之ヲ報告スル事

第九　井戸若クハ水道ノ撰造ヲ改良シ或ハ從前河水ヲ飲用セシカ改メテ井ヲ掘リ又ハ其河水ヲ濾過スルノ方法ヲ設ケタル景況及其成果如何ヲ報告スル事

第十　魚鳥獸ノ肉及牛乳其他飲食物ノ販賣取締ヲ爲シタル景況又ハ其腐敗若クハ贋造ニ係ル者ヲ發見セシトキ或ハ之ヲ食シテ其害ヲ被リタル者等ヲ報告スル事

第十一　飲食物及玩弄品ノ着色料顔料染料等ノ有害物ヲ發見セシトキ又ハ其害ヲ被リタル者等ヲ報告スル事

第十二　飲食物其他諸般ノ中毒ニ罹リタル者アリタルトキ其顚末ヲ報告スル事

第十三　街路溝渠家屋廁圊等ノ不潔又ハ撰造粗惡ナルカ爲メ健康ヲ害シ疾病ヲ發シ又ハ其改良ヲナシタル景狀方法及成果如何ヲ報告スル事

第十四　市場屠場畜場魚干場肥料置場等モ亦前項ニ準シ之ヲ報告スル事

第十五　工場製作場等アリテ近隣ノ空氣河水若クハ井水ヲ汚染シ其他不潔ノ惡臭又ハ劇烈ノ音響等ヲ發シ人ノ健康ヲ妨害スルノ景況或ハ妨害ノ改良ヲ謀リタル顚末ヲ報告スル事

第十六　學校病院囚獄旅籠屋借屋芝居寄席貸座敷湯屋温泉場等ノ不潔ナルカ爲メ人ノ健康ヲ妨クル景況及其改良ヲ謀リタル顚末ヲ報告スル事

第十七　墓地ノ位置地形並埋葬法ノ利害及其改良法等ヲ報告スル事

第十八　衣食住其他職業風俗ノ健康ヲ害スヘキ景況並ニ其實驗若クハ意見及改良法等ヲ報告スル事

第十九　癲狂白痴聾啞盲ノ人員ハ幾許ニシテ各町村互ニ相比シ或ハ之ヲ往年ニ比スルニ多寡增減アル等ヲ報告スル事

第二十　學校ハ課業時間ノ長短教場ノ廣狹及其飾裝等學校衛生法ニ適セス現ニ生徒ノ健康ヲ害スルカ或ハ其虞アル等ノ景況ヲ報告スル事

第八條　前項ノ外衛生上ニ關係アル事項ハ詳細報告スヘシ

第九條　通信文ハ務メテ平易ニシテ解シ易キヲ主トシ各地方言等解シ難キモノハ説明ヲ加フヘシ

第十條　通信中數量其他統計ニ係ル者ハ表ニ製シ中毒其他試驗ヲ要スヘキ物品及文字ヲ以テ明記シ難キ者ハ現品若クハ圖解ヲ添フヘシ

○甲第八十號　明治十六年八月十日

明治十四年五月本縣甲第四十三號布達衛生規則別冊之通改定候條此旨布達候事

出産結婚死亡届規則

第一章

第一條　妊婦分娩セシトキハ第一號書式ニ據リ戸主ヨリ三日以内ニ其戸長ニ届出ツヘシ

第二條　妊婦四ヶ月以上ニシテ死胎ヲ分娩セシ者ハ醫師若クハ産婆ニ於テ第二號書式ニ據リ死産届書ヲ其親屬（親屬ナキトキハ其故舊以下倣之）ニ付與スヘシ但醫師若クハ産婆二名以上ナルトキハ主任者之ヲ付與スヘシ

第三條　前條ノ場合ニ於テ醫師ノ施術若クハ産婆ノ取扱ヲ經サルトキハ醫師ノ檢案ヲ請クヘシ

第四條　結婚若クハ離婚セシ者ハ第三號書式ニ據リ三日以内ニ各其戸長ニ届出ツヘシ

第五條　死者アルトキハ施治ノ醫師ニ於テ第四號書式ニ據リ死亡届書ヲ其親屬ニ付與スヘシ但醫師二名以上ナルトキハ主任者之ヲ付與スヘシ

第六條　醫師ノ施治ヲ請フニ暇ナクシテ死亡セシ者ハ醫師ノ檢案ヲ請クヘシ

第七條　醫師死体又ハ死胎ヲ檢案スルトキハ第六號書式ニ據リ檢案書ヲ其親屬ニ付與スヘシ若シ死体又ハ死胎ニ異狀アルカ又ハ疑フヘキ狀況アルトキハ直ニ戸長ニ申報スヘシ

第八條　第六條ノ場合ニ於テ川支等ニヨリ醫師ヲ招ク能ハサルトキハ死者ノ親屬二名以上立會ヒ衛生委員ノ檢案ヲ請クヘシ

第九條　衛生委員其死体ヲ檢査シ異狀ナキ者ト認ムルトキハ第六號書式ニ據リ檢案書ヲ其親屬ニ付與スヘシ若シ疑フヘキ狀況アルトキハ警察官ニ申報スヘシ

第十條　變死ニ係ル者アルトキハ其親屬ハ立會ヒ醫師ヨリ第六號書式ノ檢案書ヲ請取リ檢視官ノ檢印ヲ請クヘシ若シ親屬ナキトキハ醫師ヨリ該檢案書ヲ戸長ニ渡シ戸長檢察官ノ檢印ヲ請クヘシ

第十一條　囚徒ノ親屬其死屍ヲ引取リ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ請クヘシ

第十二條　前數條ニヨリ死産届書死亡届書若クハ檢案書ヲ請取リタル親屬ハ之ニ第五號書式ノ届書ヲ添ヘ之ヲ戸長ニ差出スヘシ

第十三條　戸長ニ於テ前條ノ届書ヲ領收セシトキハ第七號書式ノ埋火葬認許證ヲ與フヘシ

第一號書式（用紙半紙二ツ折）

十八年甲第十一號ヲ以テ第二章第三章刪除 十八年第五號ヲ以テ第一號ヨリ第八號ニ至ル書式改正

出産届

（寄留ノ肩書書式ハ以下之ニ倣ヘ）

住所族籍（寄留ナレハ本貫地名番地ヲモ書スヘシ）

何誰妻（私生ナレハ何誰女或ハ姉妹） たれ

月　日午前/後　時出産嫡男女又ハ幾男女（私生男女）名某

（名付前ナラハ追テ名付ケシ上更ニ届出ヘシ）

右及御届候也

右戸主　姓　名　印

年　月　日

戸長姓名殿

第二號書式　用紙半紙二ツ折

死産届

住所族籍

何誰妻（私生ナレハ誰女或ハ姉妹） たれ

月　日死産男女（私生男女）

何ケ月

右者私施治/取扱候處頭書之通死産致候ニ付此段及御届候也

住所

醫師或ハ產婆　姓　名　印

年　月　日

戸長姓名殿

第三號書式　用紙半紙二ツ折

結婚届

住所族籍

（本人戸主ニアラサレハ誰幾男或ハ兄弟）　姓　名

年號月日生

當何年何月

年號月日結婚初緣（再緣以上）

（入婿入夫等ナラハ年號月日婿養子或ハ入夫即日又ハ何年何月何日婚姻ト書スヘシ）

住所族籍

誰幾女或ハ姉妹

初緣（再緣以上）　姓　名

年號月日生

當何年何月

右及御届候也

右戸主　姓　名　印

年　月　日

戸長姓名殿

第四號書式　用紙半紙二ツ折

死亡届

病名　月日死亡

右者私施治候處死去致候ニ付此段及御届候也

年月日

戸長姓名殿

住所族籍職業

姓　名

年號月日生
當何年何月

住所

醫師　姓　名　印

第五號書式　用紙半紙二ツ折

死亡届

月日午前後時病死（死産）

右死亡死産候ニ付埋（火）葬致度此段及御届候也

年月日

戸長姓名殿

住所族籍職業死産ナラハ族籍職業姓名年月ヲ記セス

姓　名

年號月日生
當何年何月

右戸主

姓　名　印

第六號書式　用紙半紙二ツ折

死（体）（胎）檢案書

病名（原因不詳）月日死亡
（變死ニ係ル者ハ其理由ヲ記載スヘシ）

（月日死産男女何ヶ月私生ナレハ私生ト書スヘシ）

右死（体）（胎）檢案候處頭書之通相違無之候也

住所族籍職業

姓　名

年號月日生
當何年何月

何誰妻（私生ナレハ誰女或ハ姉妹）

た　れ

住所

醫師（或ハ衛生委員）　姓　名　印

第七號書式　用紙半紙二ツ折

證

月　日死亡

右埋（火）葬認許候事

住所族籍職業

姓　名

年號月日生
當何年何月

○縣令甲第十五號　　明治二十年二月廿二日

死産死亡届出規則左ノ通相定ム

死産死亡届出規則

第一條　姙婦四ケ月以上ニシテ死胎ヲ分娩セシモノハ醫師若クハ産婆ニ於テ第一書式ニ據リ死産届ヲ其戸主ニ付與スヘシ但醫師若クハ産婆二名以上ナルトキ主任者之ヲ付與スヘシ

第二條　前條ノ場合ニ於テ醫師ノ施術若クハ産婆ノ取扱ヲ經サルトキハ醫師ノ檢案ヲ請クヘシ

第三條　死者アルトキハ施治ノ醫師ニ於テ第二書式ニ據リ死亡届ヲ其戸主ニ付與スヘシ但醫師二名以上ナルトキハ主任者之ヲ付與スヘシ

第四條　醫師ノ施治ヲ請フニ暇ナクシテ死亡セシ者ハ醫師ノ檢案ヲ請クヘシ

第五條　醫師死体又ハ死胎ヲ檢案シタルトキハ第三書式ニ據リ檢案書ヲ其戸主ニ付與スヘシ若シ死体死胎ニ異狀アルカ又ハ疑フヘキ狀況アルトキハ直ニ警察官及ヒ戸長ニ申報スヘシ

第六條　第三條ノ場合ニ於テ川支等ニヨリ醫師ヲ招ク能ハサルトキハ死者ノ親族二名以上立會戸長ノ檢案ヲ請クヘシ

第七條　戸長其死体ヲ檢査シ異狀ナキモノト認ムルトキハ第三書式ニ據リ檢案書ヲ其戸主ニ付與スヘシ若シ疑フヘキ狀況アルトキハ警察官ニ申報スヘシ

第八條　變死ニ係ル者アルトキハ其親族立會醫師ヨリ第三書式ノ檢案書ヲ受取リ檢視官ノ檢印ヲ請クヘシ若シ親族ナキトキハ該檢案書ヲ戸長ニ渡シ戸長ハ檢視官ノ檢印ヲ受クヘシ

第九條　囚徒ノ親族其死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セントスルトキハ獄醫ノ死亡証寫ニ司獄官ノ檢印ヲ請クヘシ

第十條　死産届死亡届書若クハ檢案書ヲ受取リタル戸主又ハ親族等ハ第四書式又ハ戸籍届例第二書式ノ届書ヲ添ヘテ戸長ニ届出埋火葬認許証ヲ乞フヘシ

第十一條　戸長ニ於テ前條ノ届書ヲ領收セシトキハ第五書式ノ埋火葬認許証ヲ與フヘシ

第一書式（用紙半紙以下同シ）

死産届

月日死産男女（私生男女）何ケ月

埼玉縣郡町村番地（寄留ナレハ本貫地名番地ヲモ書スヘシ以下同シ）
族氏名妻又ハ姉妹　　名

右者私施治取扱候處頭書之通死産致シ候間此段及御屆候也

年月日

住所
醫師或ハ産婆
氏　名　印

戸長氏名殿

第二書式

死亡屆

名　月日　死亡

埼玉縣郡町村番地
族職業
氏　名

年月日生
當何年何ヶ月

右者私施治候處致死亡候間此段及御屆候也

年月日

住所
醫師
氏　名　印

戸長氏名殿

第三書式

死体胎檢案書

病名原因不詳月日死亡
變死ニ係ル者ハ其理由ヲ記載スヘシ

埼玉縣郡町村番地
族職業
氏　名

年月日生
當何年何ヶ月

月日死産男女何ヶ月私生ナレハ私生ト書スヘシ

氏名妻
名

右死体胎檢案候處頭書之通相違無之候也

年月日

住所
醫師或ハ戸長
氏　名　印

第四書式

死産屆

月日　午前後　時死産

埼玉縣郡町村番地
氏名妻又ハ姉妹
名

右死産候間此段及御屆候也

年月日

右戸主
氏　名　印

戸長氏名殿

二十年甲十ヲ第式表改
令二號ヲ書本通
縣第一以五ヲノヲ

第五書式

證

埼玉縣郡町村番地
族氏名幾男女　氏　名

年月日午前後時死亡（死產）

年月日生
當何年何ヶ月

（氏名妻又ハ姉妹　名）

右（埋）（火）葬認許候事

年　月　日

戶長　氏　名　印

○墓地又ハ火葬場ノ管理者ハ此處ニ埋葬若クハ火葬セシ年月日時ヲ記入スヘシ

郡役所
戶長役場

○乙第百二十三號　明治十八年十月十四日

明治十六年六月本縣乙第六十五號達出產結婚死亡表樣式令般內務省甲第三十三號達ニ依リ別紙之通改定候條此旨相達候事

解釋凡例

第一項甲號第六項乙號ハ郡役所ニ於テ毎年一表ヲ製シ翌年二月限リ縣廳ニ差出スヘシ但シ

本表ハ本年分ヨリ調製スヘシ

第九項丙號第十項丁號ハ戶長役場ニ於テ毎年一表ヲ製シ翌年一月限リ郡役所ニ差出スヘシ

丙號表式最下欄ニ年齡トアルヲ（生年）トシ何年何ヶ月トアルヲ（年號何年生）トス

各表式中明治何年何月或ハ明治何年自何月至何月トアルハ都テ（明治何年自一月至十二月）トス

（甲）

死亡者年齡區別表

明治　年　郡　名

生年	男女ノ別及婚姻上ノ關係	第一類 傳染性病	第二類 發育及榮養的疾病	第三類 皮膚及骨關節病	第四類 血行器病	第五類 神經系及呼吸器病	第六類 五官病	第七類 消化器病	第八類 泌尿及生殖器病	第九類 外傷性變死	第十類 中毒症	第十一類 原因不詳	合計	第七類ノ內 肺病
明治十九年生	男													
	女													
仝 十八年生	男													
	女													
仝 十七年生	男													
	女													
仝 十六年生	男													
	女													
仝 十五年生	男													
	女													
仝 十四年生	男													
	女													
仝 十三年生	男													
	女													

（乙）

何郡出産統計表

明治何年自何月至何月

月別	公生 男	公生 女	私生 男	私生 女	合計
何月					
仝					
仝					
仝					
合計					

（乙）

何郡結婚統計表

明治何年自何月至何月

類別	初縁 男	初縁 女	再縁以上 男	再縁以上 女
十二年以上十五年未満				
十五年以上二十年未満				
二十年以上三十年未満				
三十年以上四十年未満				
四十年以上五十年未満				
五十年以上				
合計				

仝十二年生 男	仝十二年生 女	仝十一年生 男	仝十一年生 女	仝十年生 男	仝十年生 女	仝九年生 男	仝九年生 女	仝八年生 男	仝八年生 女	明治七年生 未婚 男	明治七年生 未婚 女	明治七年生 既婚 有配 男	明治七年生 既婚 有配 女	明治七年生 既婚 無配 男	明治七年生 既婚 無配 女	合計 未婚 男	合計 未婚 女	合計 既婚 有配 男	合計 既婚 有配 女	合計 既婚 無配 男	合計 既婚 無配 女

以下毎年之レニ準シ記載スヘシ但シ既未婚ナ分ツハ生年十三歳以上タルヘシ

（丙）

何郡何町村死亡調　　明治何年何月

病名及事故	死亡月日	氏名	年齢
何病	何月何日	何誰	何年何ケ月
何病	何月何日	何誰	何ケ月
何病	何月何日	何誰	何年何ケ月

男　女

（丁）

何郡何町村死亡調　　明治何年自何月至何月

出産月日	男女ノ別	公生私生ノ別
何月何日	男	公生
何月何日	女	私生

（丁）

何郡何町村結婚調　　明治何年自何月至何月

男ノ年齢	女ノ年齢	初縁再縁ノ別
何年何ケ月	何年何ケ月	初縁
何年何ケ月	何年何ケ月	再縁
何年何ケ月	何年何ケ月	再縁以上
		初縁
		再縁
		再縁以上

男　女

郡役所

郡役所
戸長役場

○丙第二十一號　明治十八年十月廿八日

本年五月本縣丁第七拾七號達ハ本月限リ廢止候條乙第百二拾三號達中甲號表ハ毎年年ノ統計ヲ添ヘ差出スヘシ此旨相達候事

○訓第百八號　明治十九年十二月廿八日

郡町村内不具者左ノ順序ニ據リ取調差出スヘシ

一　戸長役場ニ於テハ町村内不具者取調ノ爲メ左ノ樣式ニ倣ヒ毎年一表ヲ製シ翌年一月限リ郡役所ヘ差出スヘシ

一　郡役所ニ於テハ戸長役場ヨリ差出ス表ニ依リ毎年一表ヲ製シ翌年二月限縣廳ニ差出スヘシ

一　數郡町村聯合スル時ハ表中其郡町村ヲ區別シ順次ニ掲載スヘシ